

2024 年度入学者用

看護学部履修要項



静岡県立大学

UNIVERSITY OF SHIZUOKA

学籍番号	氏名

令和6年度 静岡県立大学年間授業予定表

2024年4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		2025年1月		2月		3月			
日	曜日	日	曜日	日	曜日	日	曜日	日	曜日	日	曜日	日	曜日	日	曜日	日	曜日	日	曜日	日	曜日	日	曜日	日	曜日
1	月	水	月3【変則】	1	土	1	月	1	木	1	日	1	火	1	金	1	日	1	水	1	土	1	土		
2	火	木	木3	2	日	2	火	2	金	2	月	2	水	2	土	2	月	2	木	2	日	2	日		
3	水	金	憲法記念日	3	月	3	水	3	土	3	火	3	木	3	日	3	火	3	金	3	月	3	月		
4	木	土	みどりの日	4	火	4	木	4	日	4	水	4	金	4	月	4	水	4	土	4	火	4	火		
5	金	日	こどもの日	5	水	5	金	5	月	5	木	5	土	5	火	5	木	5	日	5	水	5	水		
6	土	月	振替休日	6	木	6	土	6	火	6	金	6	日	6	水	6	土	6	月	6	木	6	木		
7	日	火	火4	7	金	7	日	7	水	7	土	7	月	7	木	7	金	7	火	7	土	7	金		
8	月	水	水4	8	土	8	月	8	木	8	日	8	火	8	金	8	土	8	水	8	日	8	土		
9	火	木	木4	9	日	9	火	9	金	9	月	9	水	9	土	9	木	9	日	9	月	9	日		
10	水	金	金4	10	月	10	水	10	土	10	火	10	木	10	日	10	火	10	金	10	月	10	月		
11	木	土	土4	11	火	11	木	11	日	11	水	11	金	11	月	11	水	11	土	11	火	11	火		
12	金	日		12	水	12	金	12	月	12	木	12	土	12	火	12	木	12	日	12	水	12	水		
13	土	月	新入生 歓迎行事	13	木	13	土	13	火	13	金	13	日	13	水	13	土	13	月	13	火	13	木		
14	日	火	火5	14	金	14	日	14	水	14	土	14	月	14	木	14	土	14	火	14	金	14	金		
15	月	水	水5	15	土	15	月	15	木	15	日	15	火	15	金	15	土	15	水	15	日	15	土		
16	火	木	木5	16	日	16	火	16	金	16	月	16	水	16	土	16	木	16	日	16	月	16	日		
17	水	金	金5	17	月	17	水	17	土	17	火	17	木	17	日	17	金	17	月	17	火	17	月		
18	木	土	土5	18	火	18	木	18	日	18	水	18	金	18	月	18	木	18	土	18	火	18	火		
19	金	日		19	水	19	金	19	月	19	木	19	土	19	火	19	土	19	日	19	水	19	水		
20	土	月	月5	20	木	20	土	20	火	20	金	20	日	20	水	20	土	20	月	20	木	20	木		
21	日	火	火6	21	金	21	日	21	水	21	土	21	月	21	木	21	土	21	火	21	金	21	金		
22	月	水	水6	22	土	22	月	22	木	22	日	22	火	22	金	22	土	22	水	22	日	22	土		
23	火	木	木6	23	日	23	火	23	金	23	月	23	水	23	土	23	木	23	日	23	月	23	日		
24	水	金	金6	24	月	24	水	24	土	24	火	24	木	24	日	24	金	24	月	24	火	24	月		
25	木	土	土6	25	火	25	木	25	日	25	水	25	金	25	月	25	土	25	日	25	月	25	月		
26	金	日		26	水	26	金	26	月	26	木	26	土	26	火	26	土	26	日	26	水	26	水		
27	土	月	月6	27	木	27	土	27	火	27	金	27	日	27	水	27	土	27	月	27	月	27	木		
28	日	火	火7	28	金	28	日	28	水	28	土	28	月	28	木	28	土	28	火	28	日	28	金		
29	月	水	水7	29	土	29	月	29	木	29	日	29	火	29	金	29	土	29	日	29	月	29	土		
30	火	木	木7	30	日	30	火	30	金	30	月	30	水	30	土	30	木	30	月	30	火	30	日		
31	水	金	金7	31	月	31	水	31	土	31	火	31	木	31	日	31	金	31	日	31	月	31	月		
前期及び通年科目の履修登録(下旬まで)								TOEIC-IPテスト(初旬)				後期科目の履修登録(中旬まで)				TOEIC-IPテスト(初旬)				TOEIC-IPテスト(初旬)					
								【対象者】 全学部1,2年生												【対象者】 全学部の1年生 国際関係学部2年生					

赤字は、主な行事、注意が必要な休講日、入構禁止日
 青字は、変則日程
 は休業日
 は通常授業が行われない日
 ※印の日は入試のため大学構内への入構制限あり。一般学生は入構できません。

2024年度 看護学部履修要項・目次

I	学部の理念	3
II	卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）	
III	教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）	
IV	入学者選抜の方針（アドミッション・ポリシー）	
	資料：授業科目一覧表（配当年次・単位数）	6
V	履修方法（編入学生は含まない）	11
1	単位制	
	1) 単位と時間数 2) 必修・選択等による履修区分 3) 配当年次 4) 履修条件	
2	授業	
	1) 学期 2) 授業時間割 3) 休講・補講・集中講義	
3	履修申告	
	1) 時期 2) 方法：履修登録の流れ 3) 履修申告の注意事項 4) 他学部の授業科目の履修 5) 入学前の既修得単位の認定	
4	試験	
	1) 試験の種類 2) 受験資格 3) 受験上の注意事項	
5	学修の評価	
	1) 評価の基準 2) 成績の発表	
6	修業年限と在学年限	
	1) 修業年限と在学年限 2) 進級要件 3) 卒業要件 4) 留意事項	
7	資格および認定	
	1) 国家試験受験資格 2) 養護教諭二種免許 3) 第一種衛生管理者免許	

履 修 案 内

VI 編入学生：履修方法 20

1 単位制

- 1) 単位と時間数 2) 必修・選択等による履修区分 3) 配当年次 4) 履修条件

2 授業

- 1) 学期 2) 時間割 3) 休講・補講・集中講義

3 履修申告

- 1) 時期 2) 方法：履修登録の流れ・登録届の記入方法 3) 履修申告における注意事項
4) 他学部の授業科目の履修 5) 編入学生のカリキュラムに指定されていない授業科目
の履修方法

4 編入学生の単位認定と履修

資料：授業科目一覧表（配当年次・単位数）

5 試験

- 1) 試験の種類 2) 受験資格 3) 受験上の注意事項

6 学修の評価

- 1) 評価の基準 2) 成績の発表

7 修業年限と在学年限

- 1) 修業年限と在学年限 2) 卒業要件

VII 学生相談 29

1 アドバイザー制度

2 学生の身分異動

- 1) 休学 2) 復学 3) 退学

VIII 事故発生時の対処 30

- 1) 事故の定義 2) 事故発生時の対応

IX 講義概要 33

- 1 基礎分野 I (全学共通科目) 2 基礎分野 II 3 専門基礎分野 4 専門分野

X 看護学部履修細則 303

- 1) 令和 6 年度以降入学生用

- 2) 令和 6 年度以降入学の編入学生 (3 年課程修了者用)

I 学部の理念

人間尊重の理念に基づき、変動する社会の要請に応じて、看護専門職の役割を認識し、専門的知識・技術に裏付けされた判断によって、主体的に行動できる人材を育成する。また将来にわたって保健医療福祉における課題に積極的に取り組み、人々の健康生活の向上に寄与する人材を育成する。

II 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

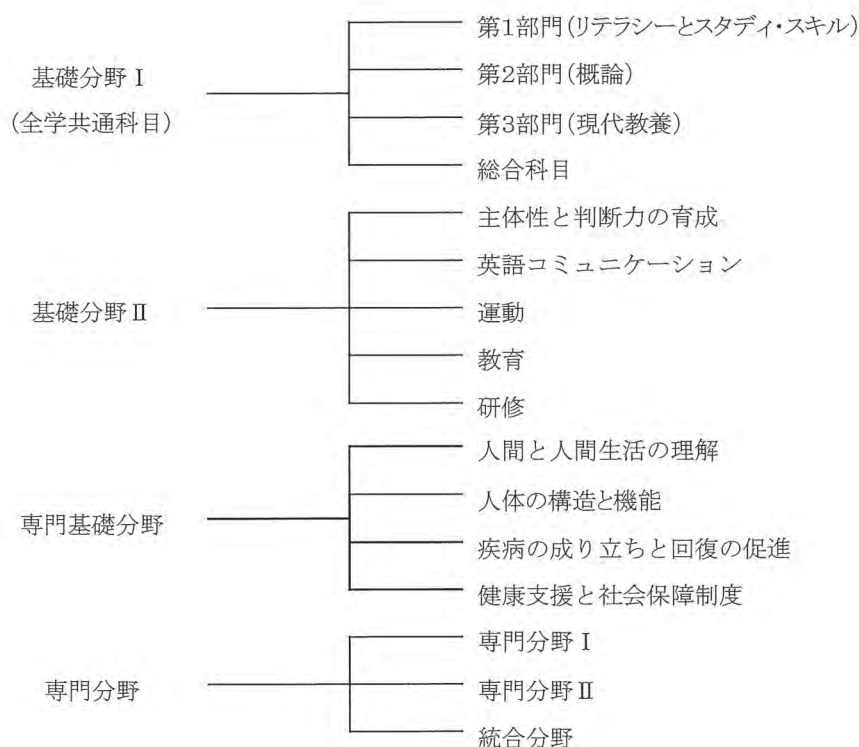
看護学部（以下、本学部という）は、126単位の単位取得と必修等の条件を充たしたうえで、学則に定める少子高齢社会の健康の護り手として人々の生活を支援するため、確かな看護判断能力と実践能力を身に付け、他専門職と協働して健康上の課題に創造的に対応できる人材を育成することを目的とする。

その実現のために下記の能力・資質を修得・涵養し、時代の要請と地域社会の要望に応え得る人材に学位を授与する。

1. 幅広い教養を身につけ、「ひと」および「ひと」を取り囲む生活や地域社会、環境に関する知識を有している。
 - 1-1. 幅広い一般教養を身につけている。
 - 1-2. 「ひと」および「ひと」を取り囲む生活や地域社会、環境に関する基礎的知識を身につけている。
2. 豊かな人間性と倫理観を持ち、科学的根拠に基づいた思考・判断を説明できる。
3. あらゆる「ひと」と地域社会の健康課題とそれらに対する対応を統合的に考え看護を実践できる。
4. チームの一員として、健康の課題や地域社会の課題に対する解決策を表現できる。
5. 社会の動向及び保健医療福祉の課題や政策に関心を持つことができる。
6. 看護学の発展に寄与するために、探求心と主体性を身につけている。

Ⅲ 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

本学部は、本学の卒業認定・学位授与の方針に掲げる知識・能力などの目標を達成するために、基礎分野Ⅰ、基礎分野Ⅱ、専門基礎分野、専門分野の教育科目群を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を開講する。カリキュラム編成は次の通りである。



1. 基礎分野Ⅰとは

基礎分野Ⅰの科目では、5学部横断型の全学共通科目として、広い教養と知識を学び、総合的かつ自主的な判断能力を養う。

看護学部においては、進級・卒業要件である基礎分野Ⅰの科目(全学共通科目)を「授業科目一覧」に掲載してある科目の中から、幅広く、偏りの無いように選択しなければならない。なお、必修科目「数理・データサイエンス・AI入門」は必ず修得する。また、「しずおか学」科目群(第3部門および総合に配置)については、卒業までに2単位以上修得する。

2. 基礎分野Ⅱとは

基礎分野Ⅱの科目は、地域・国際的動向をふまえた、保健医療福祉の課題に対応する看護実践の基礎となる能力を養うことを目的とする。「主体性と判断力の育成」「英語コミュニケーション」「運動」「研修」「教育」の5科目群からなる。

1) 主体性と判断力の育成

主体的に課題を探求する力を育成するために、情報の活用、思考の組み立て、意見交換などの学習過程を、小グループによる学習を通して習得する。

2) 英語コミュニケーション

教養としての英語能力の習得に加え、国際的視野に立って看護学分野における学習を促進し、専門分野における英語の活用能力の涵養を図る。

3) 運動

健康的で生き生きとした人生を送るための身体運動に関する知識を習得するとともに、各種スポーツ種目の実技について学ぶ。

4) 研修

海外での語学研修を通して、英語によるコミュニケーション能力を高めるとともに、その国の文化、経済、習慣、医療制度や看護の現状について学ぶ。

5) 教育

基本的人権を尊重しつつ、教育的関わりを求められる看護職に必要な知識を学ぶ。

3. 専門基礎分野とは

専門基礎分野の科目では、専門分野の履修に先立ち、人間の健康、生活・社会の理解および看護実践の基礎となる科学的知識を修得する。「人間と人間生活の理解」「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」「健康支援と社会保障制度」の4科目群からなる。

4. 専門分野とは

専門分野は、個人、家族および集団の健康ニーズに対応した看護実践に必要な専門知識・技術の修得を目的とし、「専門分野Ⅰ」「専門分野Ⅱ」「統合分野」の3科目群からなる。

1) 専門分野Ⅰ

看護学の理想的理解と人間の健康生活を支援するための基本的な看護方法や技術を修得する。

2) 専門分野Ⅱ

看護の基本的理念を基に、人間の発達段階と健康レベルに対応する看護方法について学ぶ。加えて少子高齢社会の進展や慢性疾患の増加、医療の高度化・専門化に対応した専門領域の看護方法についても学ぶ。さらに、演習を通して各領域・分野の看護方法や看護技術を修得し、理論と実践の統合を目的とする臨地実習を行う。

3) 統合分野

看護の基本的理念を基に、在宅・地域などの看護活動の場に対応する看護方法について学ぶ。そして、健康長寿延伸の取り組みや静岡型地域包括ケアに関連した演習や実習を通して看護方法や看護技術を学ぶ。さらに、4年次の「卒業研究」「発展看護実習」等を通じて、専門分野の教育内容の統合を図る。

IV 入学者選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

看護はあらゆる「ひと」を対象にし、すべての人々が健康な生活を実現できるように支援する。本学部は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）に定める人材を育成するために、次に掲げる知識・技能や能力、意思を備えた人を受け入れる。

- 1) 日本語および英語による聞く・話す・読む・書くというコミュニケーションの基本的な能力を身につけている。
- 2) ものごとを論理的に探求するために必要な高等学校の教育課程をバランスよく修得している。
- 3) 多様な価値観を尊重し真摯な態度で「ひと」に向きあえる。
- 4) 地域社会に看護職者として貢献する意思を持っている。

授業科目一覧表【令和4年度以降 入学者用】
看護学部履修細則別表1

授業科目の名称		配当 年次	開講 学期	単位数		頁	修得必要単位
				必修	選択		
(全学共通科目)	基礎分野Ⅰ	1・2・3・4	前・後	1*	各 2 5 1	36	10 単位 以上 選択
	第1部門					5	
	第2部門					129	
	第3部門						
	総合科目						
基礎分野Ⅱ	運動	身体運動科学	1	通	2	132	
	研修	海外英語研修	1・2・3・4		2		
	教育	日本国憲法	1	後	2	134	
教育学		2	後	2	136		
基礎分野Ⅱ	主体性と判断力の育成	基礎セミナーⅠ	1	前	1	138	必修 7 単位
		基礎セミナーⅡ	2	前	1	140	
	英語コミュニケーション	フレッシュマンイングリッシュⅠ	1	前	1	142	
		フレッシュマンイングリッシュⅡ	1	前	1	143	
		フレッシュマンイングリッシュⅢ	1	後	1	144	
		フレッシュマンイングリッシュⅣ	1	後	1	146	
		英語コミュニケーションⅠ	2	前	1	148	
		英語コミュニケーションⅡ	2	後	1	149	
人間と人間の理解	生活	身体と心のセクシュアリティ	1	前	1	151	2単位選択必修
		人間関係論Ⅰ	1	前	1	152	
		人間関係論Ⅱ	1	前	1	153	
		臨床心理学	2	後	1	154	
		健康行動論	2	前	1	155	
		運動と健康の生理学	1	前	1	156	
		健康環境論	1	前	1	157	
		医療・看護経済論	2	前	1	158	
		国際看護論	2	後	1	159	
専門基礎分野	機能と人体の構造	機能形態学Ⅰ	1	前	2	160	必修 28 単位 + 選択 4 単位
		機能形態学Ⅱ	1	後	2	162	
		生物化学	1	前	1	164	
		基礎健康科学演習	1	後	2	166	
	疾病の成り立ちと回復の促進	症候論	1	後	2	169	
		微生物学	1	後	1	171	
		臨床薬理学	2	前	2	173	
		臨床栄養学	2	前	2	175	
		病態学	2	前	2	177	
	社会健康支援と保障制度	公衆衛生学	1	前	2	179	
社会福祉論		1	後	1	181		
保健福祉行政論		2	前	2	183		
保健医療統計学		1	前	2	185		
情報処理演習		1	後	1	187		
疫学	2	後	2	189			
基礎分野Ⅰ + 基礎分野Ⅱ + 専門基礎分野						単位数計	49(選択4含む)

授業科目の概要

	授業科目の名称	配当 年次	開講 学期	単位数		頁	修得必要単位	
				必修	選択			
授業の概要	専門分野 I	看護学概論	1	前	2		191	必修 48 単位
		基礎看護技術 I	1	前	1		193	
		看護コミュニケーション論	1	前	1		195	
		基礎看護技術 II	1	後	2		196	
		基礎看護技術 III	1	後	1		198	
		看護アセスメント演習	2	前	1		200	
		看護アセスメント方法論	2	前	1		202	
		基礎看護技術 IV	2	後	1		204	
		看護と倫理※	2	後	1		206	
		基礎看護学実習 I	1	前	1		207	
		基礎看護学実習 II	2	通	2		208	
	専門分野 II	慢性看護学概論	2	後	2		210	
		慢性看護援助論演習	2	後	1		212	
		慢性看護学実習	3	後	2		214	
		急性期看護学概論	3	前	2		216	
		急性期看護援助論演習	3	前	1		218	
		急性期看護学実習	3	後	2		220	
		老年看護学概論	2	後	2		222	
		老年看護援助論	2	後	1		224	
		老年看護学演習	3	前	1		225	
		老年看護学実習	3	後	2		227	
		母性看護学概論	2	前	1		228	
		母性看護援助論 I	2	後	1		230	
		母性看護援助論 II	3	前	1		231	
		母性看護学演習	3	前	1		233	
		母性看護学実習	3	後	2		235	
		小児看護学概論	2	後	2		237	
		小児看護援助論	3	前	1		239	
		小児看護学演習	3	前	1		241	
		小児看護学実習	3	後	2		243	
		精神看護学概論	2	後	2		245	
	精神看護援助論	3	前	1		247		
	精神看護学演習	3	前	1		248		
	精神看護学実習	3	後	2		250		
	統合分野	地域包括ケア	1	後	1		252	
		災害看護セミナー	2	後	1		253	
地域家族支援論		2	後	2		255		
在宅看護学概論		3	前	2		257		
在宅看護学演習		3	前	1		259		
在宅看護学実習	3	後	2		261			

【実務経験のある教員による科目】

科目名	教員氏名	単位数
日本国憲法	根本 猛	2
教育学	上地香杜	2
基礎セミナーⅠ	堀 芽久美、ほか10名	1
基礎セミナーⅡ	井上健一郎	1
フレッシュマンイングリッシュⅠ	相羽千洲子、ほか3名	1
フレッシュマンイングリッシュⅡ	小田 透、ほか3名	1
フレッシュマンイングリッシュⅢ	相羽千洲子、ほか3名	1
フレッシュマンイングリッシュⅣ	小田 透、ほか3名	1
英語コミュニケーションⅠ	藤森教之、ほか3名	1
英語コミュニケーションⅡ	藤森教之、ほか3名	1
身体と心のセクシュアリティ	太田尚子、ほか6名	1
人間関係論Ⅰ	篁宗一、ほか3名	1
人間関係論Ⅱ	近藤美保、ほか3名	1
臨床心理学	篁宗一、ほか6名	1
健康環境論	井上健一郎、ほか1名	1
医療・看護経済論	東野定津、ほか1名	1
国際看護論	竹熊カツマタ麻子、ほか1名	1
機能形態学Ⅰ	井上健一郎、ほか2名	2
機能形態学Ⅱ	井上健一郎、ほか1名	2
基礎健康科学演習	井上健一郎、ほか3名	2
症候論	井上健一郎	2
臨床薬理学	伊藤邦彦	2
臨床栄養学	新井英一、ほか1名	2
病態学	荒井孝子、ほか25名	2
公衆衛生学	堀芽久美	2
保健福祉行政論	東野定津、ほか5名	2
保健医療統計学	堀 芽久美、ほか1名	2
情報処理演習	東野定津、ほか1名	1
疫学	堀 芽久美、ほか1名	2
看護学概論	加藤京里、ほか1名	2
基礎看護技術Ⅰ	加藤京里	2
看護コミュニケーション論	加藤京里、ほか2名	1
基礎看護技術Ⅱ	加藤京里、ほか2名	2
基礎看護技術Ⅲ	菅原清子	1
看護アセスメント演習	菅原清子、ほか3名	1
看護アセスメント方法論	菅原清子、ほか2名	1
基礎看護技術Ⅳ	菅原清子、ほか2名	1
看護と倫理	山下早苗	1
基礎看護学実習Ⅰ	加藤京里、ほか2名	1
基礎看護学実習Ⅱ	菅原清子、ほか2名	2
慢性看護学概論	山田紋子、ほか5名	2
慢性看護援助論演習	山田紋子、ほか8名	1
慢性看護学実習	山田紋子、ほか8名	2
急性期看護学概論	林みよ子、ほか3名	2
急性期看護援助論演習	林みよ子、ほか8名	1
急性期看護学実習	林みよ子、ほか8名	2
老年看護学概論	成瀬早苗	2
老年看護援助論	成瀬早苗、ほか2名	1
老年看護学演習	宮澤典子、ほか2名	1
老年看護学実習	成瀬早苗、ほか2名	2
母性看護学概論	中川有加、ほか5名	1
母性看護援助論Ⅰ	福島恭子、ほか6名	1
母性看護援助論Ⅱ	中川有加、ほか4名	1
母性看護学演習	福島恭子、ほか4名	1
母性看護学実習	中川有加、ほか4名	2
小児看護学概論	山下早苗、ほか6名	2
小児看護援助論	梁川明、ほか3名	1

小児看護学演習	丸山始美、ほか4名	1
小児看護学実習	鈴木和香子、ほか4名	2
精神看護学概論	小泉祐貴、ほか6名	2
精神看護学援助論	予定教員、ほか4名	1
精神看護学演習	近藤美保、ほか5名	1
精神看護学実習	小泉祐貴、ほか3名	2
地域包括ケア	富安眞理、ほか3名	1
災害看護セミナー	根岸まゆみ、ほか2名	1
地域家族支援論	富安眞理、ほか2名	2
在宅看護学概論	富安眞理、ほか2名	2
在宅看護学演習	加納江理、ほか2名	1
在宅看護学実習	富安眞理、ほか2名	2
公衆衛生看護学概論	畑中純子、ほか3名	2
ヘルスプロモーション	鈴木千智、ほか4名	1
国際保健・災害看護論	根岸まゆみ、ほか1名	2
保健医療システム論	佐藤瑠美、ほか3名	1
コミュニティ・アセスメント論	伊藤純子、ほか6名	1
公衆衛生看護活動論Ⅰ	佐藤瑠美、ほか6名	2
公衆衛生看護学実習Ⅰ	安藤継子、ほか5名	1
公衆衛生看護活動論Ⅱ	畑中純子、ほか1名	2
公衆衛生看護管理論Ⅰ	鈴木千智、ほか2名	1
公衆衛生看護管理論Ⅱ	鈴木千智、ほか2名	1
公衆衛生看護方法論	畑中純子、ほか4名	2
公衆衛生看護学演習	栗田真由美、ほか6名	1
公衆衛生看護学実習Ⅱ	佐藤瑠美、ほか6名	2
公衆衛生看護学実習Ⅲ	鈴木千智、ほか6名	2
多職種連携実習	看護学系教員全員	1
看護研究	操 華子、ほか2名	1
臨床シミュレーションEBN実習	山田紋子、ほか8名	2
国際保健・看護演習	根岸まゆみ、ほか1名	1
国際保健・看護実習	根岸まゆみ、ほか1名	2
発展看護実習	看護学系教員全員	2
感染看護演習アドバンス	操 華子	1
看護管理論	竹熊カツマタ麻子	1
看護キャリアデザイン論	竹熊カツマタ麻子	2
看護政策論	東野定律	1
合計		135

V 履修方法(編入学生は含まない)

1. 単位制

単位とは、一定の質の勉学ないし学修の量を示す基準となるものである。大学で開講している各科目にはそれぞれ単位数が定められており、これらの科目を履修して合格すれば、単位が修得できる。本学における学修は、すべて単位数によってその達成度が測られ、進級および卒業の可否が決定される。これが単位制である。

1) 単位と時間数

- ① 授業は前期、後期の2学期に分けて実施され、原則として15週をもって1学期、30週をもって1学年としている。
- ② 1単位の履修時間は、教室の内外合わせて45時間である。したがって、1週間につき教室内外の3時間の学修を15週間行って1単位となる。ただし、本学では、授業時間割の1時限を2時間とみなしている。
- ③ 科目の単位は次の基準によって定められている。

1単位の基準表

区 分	授業時間	自習時間	計	備 考
講 義	15	30	45	講義の教室内における授業時間は、30時間とすることがある。
外 国 語 ・ 演 習	30	15	45	
実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	30又は45	—	30又は45	

以上のように1単位と計算される勉学の時間量には、教室内における講義だけでなく、学生の自学自習時間を含めて計算することになっている。したがって、学生の自主的勉学は、大学生生活の不可欠の要素として重視されている。

2) 必修・選択等による履修区分

授業科目は、進級・卒業の要件として履修しなければならないか否かにより次のように分類される。

・必修科目…必ず修得しなければならない科目

*先修科目として事前に関連の科目を単位修得していないと受講できない科目がある
るので注意すること(講義概要の履修条件参照)

・選択科目…指定された科目群のうちで、所定の単位を必ず修得しなければならない科目。

3) 配当年次

各授業の配当年次は「授業科目一覧表」に定められている。看護学部履修細則別表1を参照すること。

4) 履修条件

科目によっては指定の科目等の単位修得を履修条件としているものがあるので、十分注意すること。
履修条件は講義概要に記載されている。

2. 授 業

1) 学 期

1年次	前期	後期
2年次	前期	後期
3年次	前期	後期
4年次	前期	後期

本学での授業は、15週にわたる期間を単位として、年間行事予定表による前期・後期の2学期制を採用している。

また、多くの科目を順序よく履修し、学修効果をあげるため、4年間の在学期間を左表の様に区分し、年次別の標準履修課程を定めている。

2) 授業時間割

授業時間割表は、前・後期に分けて作成され、4月と9月のガイダンスの際に配布される。

時間割を変更した場合は、Web学生サービス支援システムにて連絡する。

3) 休講・補講・集中講義等

① 休講等

休講、授業時間および授業場所の変更は、Web学生サービス支援システムにて連絡する。

休講の連絡がなく講義が行われなかった場合は、学生室へ連絡し、確かめること。

② 補講

補講が行われる場合にはWeb学生サービス支援システムにて連絡をするので、日時・教室等をよく確かめ授業に出席すること。

③ 集中・隔週講義

科目によっては、ある一定期間内に集中して行う講義または隔週に行う講義がある。詳細については Web学生サービス支援システムにて連絡する。

3. 履修申告

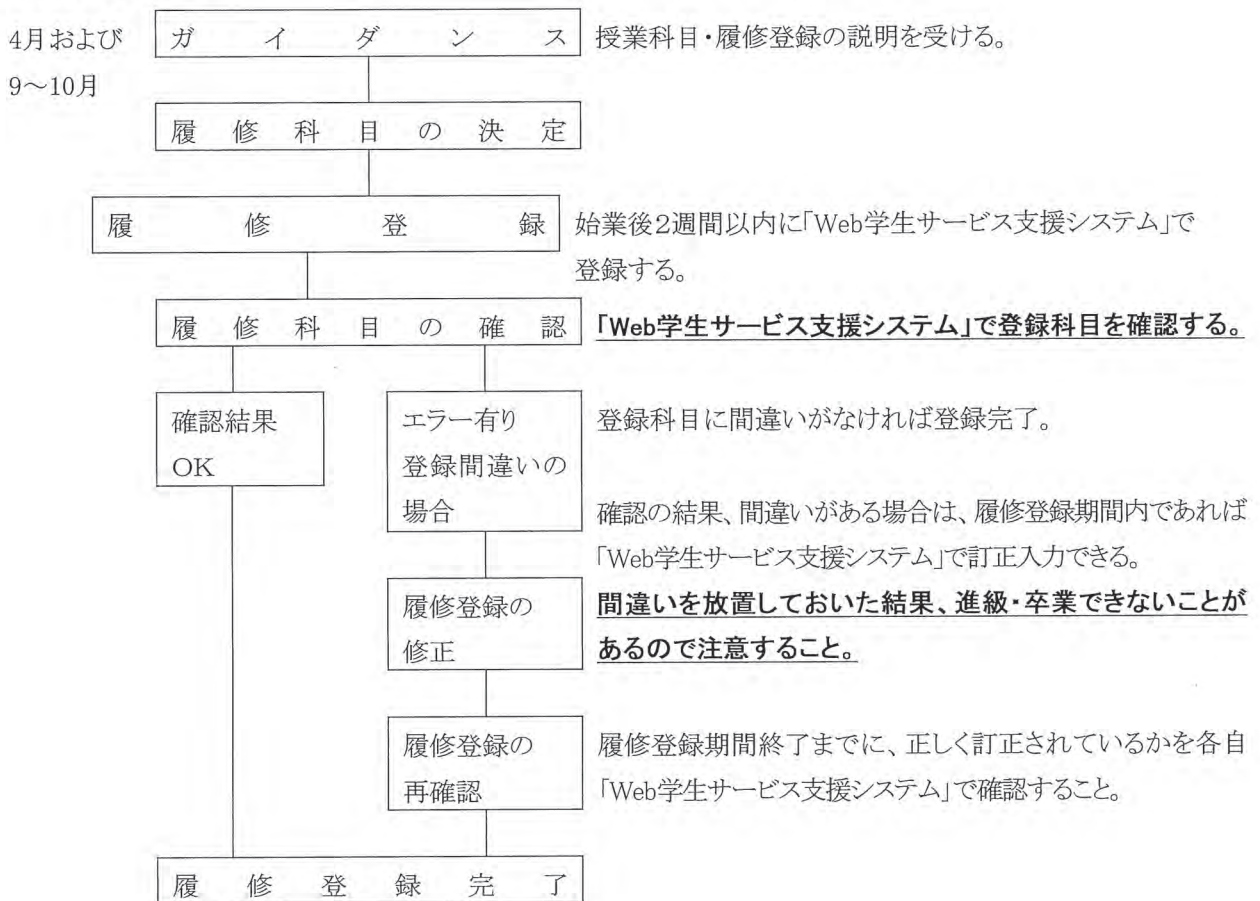
履修しようとする授業科目については、所定の手続きに従って履修申告をしなければならない。この履修申告を怠ると、たとえ授業に出席し、試験を受け、十分に学習したという実績があったとしても、単位を修得することができない。

1) 時期

履修申告は、各学期のはじまる4月と10月に、「Web学生サービス支援システム」により行う。システムへの登録期間は授業開始後2週間以内とする。

2) 方法:履修登録の流れ

履修登録の流れ図



3) 履修申告の注意事項

- ① 同一時間に開講される授業科目は、重複して履修することができない。重複して申告したときは、そのいずれの科目も無効となる。
- ② 既に単位を修得している科目の再履修はできない。
- ③ 施設上または教育上やむを得ないと認められる場合は、履修申告の事前または事後に履修者を制限する場合がある。
- ④ クラスが指定されている場合は、それにしたがって申告する。
- ⑤ 履修登録期間中に限り、一度履修登録した科目を変更することができる。変更は、Web学生サービス支援システムにて行う。
- ⑥ 学生が1年間に履修登録することができる単位数は、49単位を上限とする。但し、入学前の既習単位の認定は含まない。

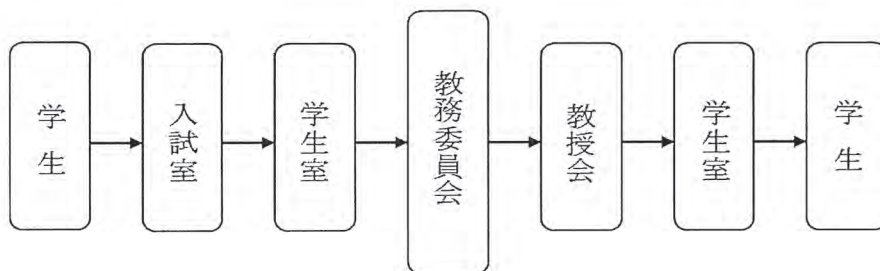
4) 他学部の授業科目の履修

他学部の授業科目を履修しようとするときは、当該授業科目の担当教員の許可を受けなければならない。この許可願は、所定の書式(用紙は学生室にある)により、授業開始後2週間以内に学生室に提出すること。他学部の授業科目を履修した者には、単位の認定を行うが、卒業必要単位数には算入しないので注意すること。

5) 入学前の既修得単位の認定

- ① 学則第40条に規定する他大学(短期大学又は高等専門学校の専攻科を含む)において単位を修得した授業科目(科目等履修生として修得した単位を含む)について、既修得単位の認定を受けようとする者は、前期授業開始後2週間以内に、その認定を受けようとする授業科目を所定の様式により申告しなければならない。
- ② 既修得単位として認定される単位の上限は、30単位とする。その内、基礎分野Ⅰ(全学共通科目)に該当する授業科目については、合計10単位を上限として認定する。基礎分野Ⅰ(全学共通科目)に該当する既修得単位の認定の対象となる授業科目および単位数は、学部長が審査する。
- ③ 基礎分野Ⅱおよび専門科目については、担当教員が審査する。
- ④ 上記①～③の手続きの後に、教授会の承認を経て学長決裁により既修得単位を認める。

既修得単位の認定ルート



4. 試験

本学は、学修の効果を測定するために学生の履修した授業科目について、試験の上、単位を与える。試験は筆記による場合が最も多いが、授業担当教員の判断により、レポートあるいは口答試問、実技テストのような他の方法により評価を決定する場合もある。また、出席状況その他平素の成績も評価を判定する資料となる。

1) 試験の種類

① 定期試験

定期試験は、各学期の終了時に2週間にわたり実施される。通年科目は、授業終了時のみ1回の試験で行うことがある。定期試験時間割は、原則として試験開始の10日前に掲示により発表される。発表後も変更されることがあるので、注意すること。

② 随時試験

定期試験期間以外に授業中あるいは特別な時間を設けて随時に試験を実施することがある。この場合、授業や掲示等で伝達されることが多いので、聞きもらしや見落としのないように注意すること。

③ 追試験

次の理由で試験を欠席した者については、追試験を願い出ることができる。

- ア. 病気(ただし、医師の診断書を要する)
- イ. 忌引(1・2親等に限り、死亡の日より1週間以内)
- ウ. 就職に関する事由(ただし、具体的に事情の具申あるもの)
- エ. その他やむを得ない事由(ただし、具体的に事情の具申あるもの)

なお、軽微な風邪等は、正当な理由と認められないので注意すること。

追試験を受けようとする者は、定期試験の当該科目試験終了の日から1週間以内に追試験願(用紙は学生室にある)にその事由を詳記し、医師の診断書またはその事由を証明する書類を添付し、学生室に届け出ること。

④ 再試験

成績不良のため単位の修得ができなかった者に対しては、原則として再試験は行わない。当該科目の単位を取得したい場合は、再履修が原則である。ただし、やむを得ない事情により授業担当教員が再試験の必要を認める場合には、これを行うことができる。再試験が許可された学生は、再試験願(用紙は学生室にある)を授業担当教員に届け出ること。

2) 受験資格

① 科目について、履修登録していること。

② 開講回数のうち2/3以上の出席により、受験資格を認める。ただし、授業担当教員の裁量により、一度の欠席で受験資格が認められない科目もあるため注意すること。

なお、授業開始後30分以内の入室は遅刻とし、授業開始後60分以降の退室は早退として扱い、授業開始後30分超の入室又は授業開始後60分未満の退室は欠席として扱う。遅刻又は早退3回をもって欠席1回とみなす。

3) 受験上の注意事項

試験場内では、すべて監督者の指示またはあらかじめ指示されている事項に従わなければならない。

定期試験の受験方法は次のとおりである。

① 受験時の座席については、原則として、学籍番号順に着席すること。

② 学生証を机の上に置くこと。学生証のない者は受験できないので注意すること。

③ 学生証を忘れた者は、学生室にて「定期試験仮受験票」を発行してもらうこと。

④ 机上には、鉛筆(シャープペン)、消しゴム、その他使用が認められている物だけを置き、それ以外の物はかばんの中に収納すること。

⑤ 携帯電話の電源は切り、かばんの中に収納すること。

⑥ 不正行為と誤解されないため、試験開始前に以下のことを行うこと。

・机上に落書き等がある場合は、消しゴムで消す。

・机の物入れに何も無いことを確認する。

・周囲の床に何も落ちていないことを確認する。

⑦ 試験中に、不正行為の疑義が生じた場合は、監督者の判断で受験を中止させる。

⑧ 不正行為が確定した場合は、「看護学部 履修細則」に則り、当該科目を含むその学期のすべて、あるいは一部の科目の履修単位を無効とする。

⑨ 原則として試験開始時刻より30分を過ぎた場合は、試験場への入室は認めないので注意すること。

5. 学修の評価

本学における学修評価は、履修細則および担当教員の評価方針により、試験、レポート、授業出席状況などにおける学生の学修実績に基づき、以下の評語で表現される。

1) 評価の基準

成績の評価基準は、秀・優・良・可・不可の5区分とする。

秀 … 100点～90点

優 … 89点～80点

良 … 79点～70点

可 … 69点～60点

不可… 59点以下

秀・優・良・可と評定されたものは合格とし、当該科目の単位が与えられる。なお、科目の履修を申告し履修しなかった授業科目は不可と評定される。

2) 成績の発表

成績は、「Web学生サービス支援システム」で随時確認できる。

6. 修業年限と在学年限

1) 修業年限と在学年限

看護学部の修業年限は4年と定められている。また、在学期間は8年間を超えることができない。ただし、この中に休学期間は算入されない。

2) 進級要件

- ① 3年次に進級するためには、2年以上在学し、基礎分野Ⅱ(必修科目)7単位、専門基礎分野(必修科目)28単位、専門分野40単位、計75単位以上を修得しなければならない。

基礎分野Ⅱ (必修科目)	専門基礎分野 (必修科目)	専門分野	合計
7単位	28単位	40単位	75単位以上

- ② 進級・留年の決定は教授会の議を経て行う。

3) 卒業要件

- ① 卒業するためには、4年以上在学し、基礎分野Ⅰ(全学共通科目)10単位以上、基礎分野Ⅱ7単位以上、専門基礎分野32単位(必修科目28単位を含む)以上、専門分野77単位以上の合計126単位以上を修得しなければならない。ただし、基礎分野Ⅰ(全学共通科目)は、基礎分野Ⅱの「運動」、「研修」、「教育」の科目を含めて10単位以上とする。

基礎分野Ⅰ	基礎分野Ⅱ	専門基礎分野	専門分野	合計
10単位以上	7単位以上	32単位以上 (必修科目28単位を含む)	77単位以上	126単位以上

- ② 第4年次において卒業要件を満たさず留年した者が、年度途中にその要件を満たした場合は、卒業できることがある。

- ③ 卒業・留年の決定は教授会の議を経て行う。

4) 留意事項

2年次・4年次への進級要件はなく、原則的には全員が進級できる。しかし、各科目の配当年次が決められており、進級後に前学年の科目を受講することは、まれな場合を除いて不可能であるので十分留意すること。

3年次、4年次は、専門科目(必修)の演習や実習等が多いため、1年次・2年次に相当数の単位を修得するよう心がけること。

7. 資格および認定

1) 国家試験受験資格

① 「看護師」の国家試験受験資格

卒業認定に必要な単位を修得することにより、「看護師」の国家試験受験資格を得られる。

② 「保健師」の国家試験受験資格

卒業認定に必要な単位を修得し、「保健師国家試験受験資格要件」に指定された7科目11単位※を修得することにより、「保健師」の国家試験受験資格を得られる。

※ 「公衆衛生看護活動論Ⅱ(2単位)」、「公衆衛生看護管理論Ⅰ(1単位)」、
「公衆衛生看護管理論Ⅱ(1単位)」、「公衆衛生看護方法論(2単位)」、
「公衆衛生看護学演習(1単位)」、「公衆衛生看護学実習Ⅱ(2単位)」、
「公衆衛生看護学実習Ⅲ(2単位)」

2) 養護教諭二種免許

教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目※の単位を修得した場合、保健師免許取得後、居住地の都道府県教育委員会で手続きを行うことにより、「養護教諭二種免許」を申請することができる。

※ 該当する本学部の科目:「身体運動科学(2単位)」、「日本国憲法(2単位)」、「情報処理演習(1単位)」、
「保健医療統計学(2単位)」、およびいずれかの英語科目2単位を修得していること。
「教育学」については、単位修得が望ましい。

3) 第一種衛生管理者免許

保健師免許取得後、居住地の労働局で手続きを行うことにより、第一種衛生管理者免許を取得できる。

VI 編入学生：履修方法

1. 単位制

単位とは、一定の質の勉学ないし学修の量を示す基準となるものである。大学で開講している各科目にはそれぞれ単位数が定められており、これらの科目を履修して合格すれば、単位が修得できる。本学における学修は、すべて単位数によってその達成度が測られ、進級及び卒業の可否が決定される。これが単位制である。

1) 単位と時間数

- ① 授業は前期、後期の2学期に分けて実施され、原則として15週をもって1学期、30週をもって1学年とされている。
- ② 1単位の履修時間は、教室の内外合わせて45時間である。したがって、1週間につき教室内外の3時間の学修を15週間行って1単位となる。ただし、本学では、授業時間割の1時限を2時間とみなしている。
- ③ 科目の単位は次の基準によって定められている。

1単位の基準表

区 分	授業時間	自習時間	計	備 考
講 義	15	30	45	講義の教室内における授業時間は、30時間とすることがある。
外 国 語 ・ 演 習	30	15	45	
実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	30又は45	—	30又は45	

以上のように1単位と計算される勉学の時間量には、教室内における講義だけでなく、学生の自学自習時間を含めて計算することになっている。したがって、学生の自主的勉学は、大学生活の不可欠の要素として重視されている。

2) 必修・選択等による履修区分

授業科目は、進級・卒業の要件として履修しなければならないか否かにより次のように分類される。

・必修科目…必ず修得しなければならない科目

* 先修科目として事前に関連の科目を単位修得していないと受講できない科目があるので注意すること(講義概要の履修条件参照)

・選択科目…基礎分野 I (全学共通科目)の科目群では、所定の単位を必ず修得しなければならない科目。それ以外の科目群では、選択により、履修および単位修得をすることができるが、卒業要件にはあたらない科目。

3) 配当年次

各授業の配当年次は授業科目一覧に定められているが、編入学生には適用されない。「授業科目一覧表(編入学生)」、看護学部履修細則別表2に示す「編入学生配当年次」を参照すること。

4) 履修条件

科目によっては指定の科目等の単位修得を履修条件としているものがあるので、十分注意すること。履修条件は講義概要に記載されている。

2. 授 業

1) 学 期

3年次	前期	後期
4年次	前期	後期

本学での授業は、15週にわたる期間を単位として、年間行事予定表による前期・後期の2学期制を採用している。

また、多くの科目を順序よく履修し、学修効果をあげるため、2年間の在学期間を左表の様に区分し、年次別の標準履修課程を定めている。

2) 授業時間割

授業時間割表は、前・後期に分けて作成され、4月と9月のガイダンスの際に配布される。

時間割を変更した場合は、Web学生サービス支援システムにて連絡する。

3) 休講・補講・集中講義等

① 休講等

休講、授業時間及び授業場所の変更は、Web学生サービス支援システムにて連絡する。

休講の連絡がなく講義が行われなかった場合は、学生室へ連絡し、確かめること。

② 補講

補講が行われる場合にはWeb学生サービス支援システムにて連絡をするので、日時・教室等をよく確かめ授業に出席すること。

③ 集中・隔週講義

科目によっては、ある一定期間内に集中して行う講義または隔週に行う講義がある。詳細についてはWeb学生サービス支援システムにて連絡する。

3. 履修申告

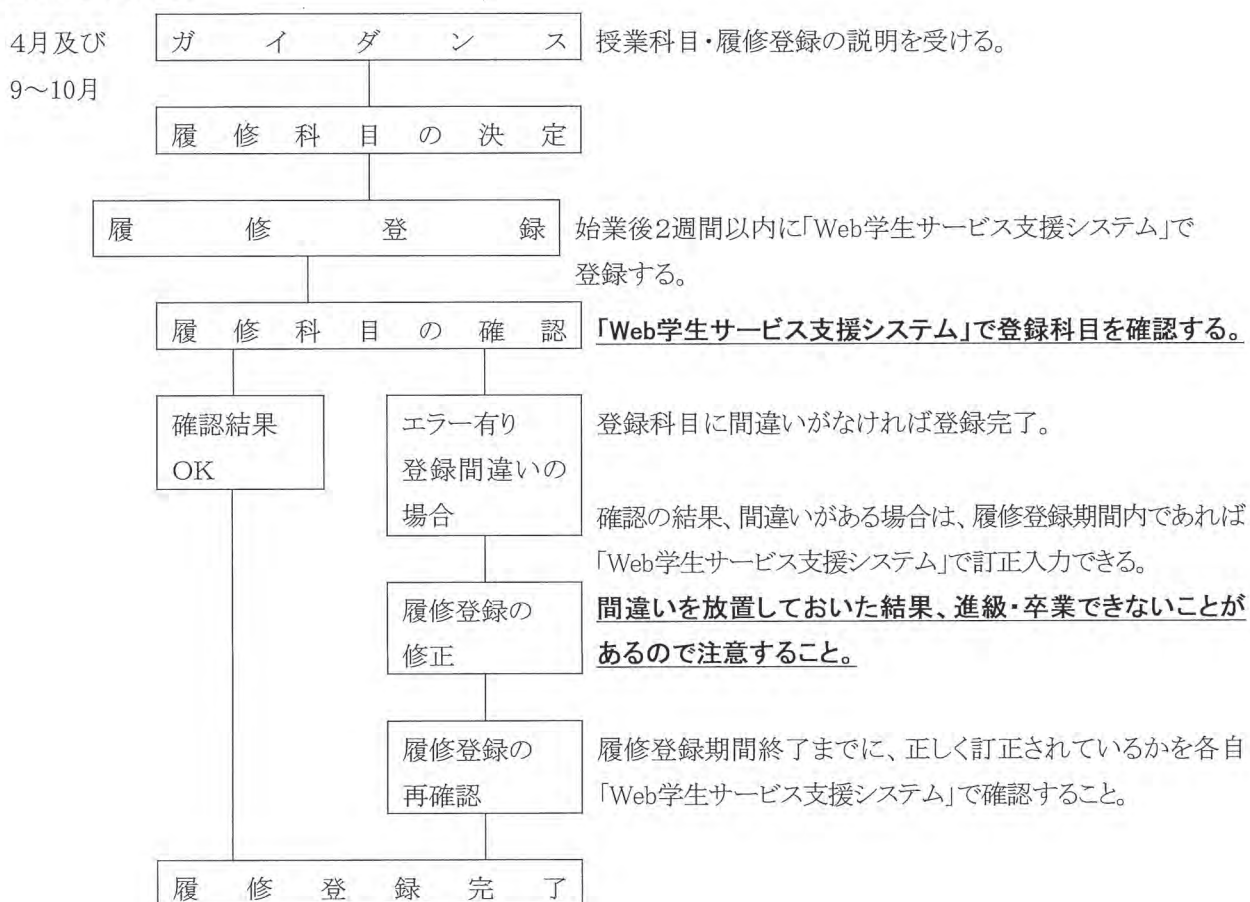
履修しようとする授業科目については、所定の手続きに従って履修申告をしなければならない。この履修申告を怠ると、たとえ授業に出席し、試験を受け、十分に学習したという実績があったとしても、単位を修得することができない。

1) 時期

履修申告は、各学期のはじまる4月と10月に、「Web学生サービス支援システム」により行う。システムへの登録期間は授業開始後2週間以内とする。

2) 方法:履修登録の流れ

履修登録の流れ図



3) 履修申告の注意事項

- ① 同一時間に開講される授業科目は、重複して履修することができない。重複して申告したときは、そのいずれの科目も無効となる。
- ② 既に単位を修得している科目の再履修はできない。
- ③ 施設上または教育上やむを得ないと認められる場合は、履修申告の事前または事後に履修者を制限する場合がある。
- ④ クラスが指定されている場合は、それにしたがって申告する。
- ⑤ 履修登録期間内に限り、一度履修申告した科目を変更することができる。変更は、Web学生サービス支援システムにて行う。
- ⑥ 学生が1年間に履修登録することができる単位数は、49単位を上限とする。但し、入学前の既習単位の認定は含まない。

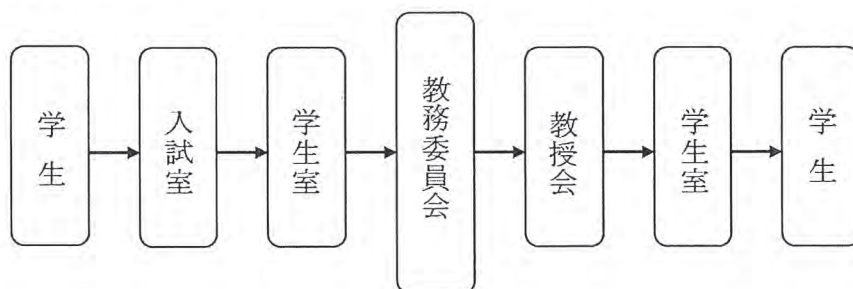
4) 他学部の授業科目の履修

他学部の授業科目を履修しようとするときは、当該授業科目の担当教員の許可を受けなければならない。この許可願は、所定の書式(用紙は学生室にある)により、授業開始後2週間以内に学生室に提出すること。他学部の授業科目を履修した者には、単位の認定を行うが、卒業必要単位数には算入しないので注意すること。

5) 編入学生のカリキュラムに指定されていない授業科目の履修方法

編入学生のカリキュラムに指定されていない科目を履修しようとするときは、当該授業科目の担当教員の許可を受けなければならない。この許可願は、所定の書式(用紙は学生室にある)により、授業開始後2週間以内に学生室に提出すること。編入学生のカリキュラムに指定されていない授業科目を履修した者には、審査のうえ単位の認定を行うが、卒業必要単位数には算入しないので注意すること。

既修得単位の認定ルート



4. 編入学生の単位認定と履修

編入学生の内、3年課程修了者の卒業に必要な履修単位は次のとおりである。なお、表1に示す「必要な修得単位」の科目は、「授業科目一覧表(編入学生)」、看護学部履修細則別表2に示す。

表1. 3年課程修了者：卒業に必要な履修単位に関する表

	基礎分野 I (全学共通科目) 等	基礎分野 II	専門基礎分野	専門分野	合計
必要な修得単位	10単位	8単位	26単位	22単位	66単位

○ 上記の基準は、看護師国家試験受験資格を有していることが条件で算出されている。

授業科目一覧表【令和4年度以降 編入学生(3年課程修了生用)】

看護学部履修細則別表2

授業科目の名称		配当年次	編入 配当年次	開講 学期	単位数		頁	修得必要単位		
					必修	選択				
(全学共通科目) 基礎分野Ⅰ	第1部門	1・2・3・4		前・後	1*	各 2 5 1	36 5 129	10 単位 以上 選択 必修		
	第2部門									
	第3部門									
	総合科目									
基礎分野Ⅱ	運動	身体運動科学	1	3	通		2	132		
	研修	海外英語研修	1・2・3・4				2			
	教育	日本国憲法	1	3	後		2	134		
		教育学	2	3	後		2	136		
	英語 コミュニケーション	基礎セミナーⅠ	基礎セミナーⅠ	1	3	前	1		138	必修 8 単位
			基礎セミナーⅡ	2	4	前	1		140	
		フレッシュマンイングリッシュ	フレッシュマンイングリッシュⅠ	1	3	前	1		142	
			フレッシュマンイングリッシュⅡ	1	3	前	1		143	
			フレッシュマンイングリッシュⅢ	1	3	後	1		144	
			フレッシュマンイングリッシュⅣ	1	3	後	1		146	
英語コミュニケーションⅡ	英語コミュニケーションⅠ	2	4	前	1		148			
	英語コミュニケーションⅡ	2	4	後	1		149			
専門基礎分野	人間の理解と生活	身体と心のセクシュアリティ	1	3	前	1		151	必修 26 単位	
		人間関係論Ⅰ	1	3	前	1		152		
		臨床心理学	2	3	後	1		154		
		健康行動論	2	4	前	1		155		
		健康環境論	1	3	前	1		157		
		医療・看護経済論	2	3	前	1		158		
		国際看護論	2	3	後	1		159		
	人体の機能と構造	機能形態学Ⅰ	1	3	前		2	160		
		機能形態学Ⅱ	1	3	後		2	162		
		生物化学	1	3	前		1	164		
		基礎健康科学演習	1	3	後	2		166		
	疾病の成り立ちと回復の促進	症候論	1	3	後	2		169		
		微生物学	1	3	後	1		171		
		臨床薬理学	2	4	前	2		173		
		臨床栄養学	2	4	前	2		175		
		病態学	2	4	前	2		177		
	社会保健制度と健康支援	公衆衛生学	1	3	前	2		179		
		社会福祉論	1	3	後	1		181		
		保健福祉行政論	2	4	前	2		183		
		保健医療統計学	1	3	前	2		185		
情報処理演習		1	3	後	1		187			
専門分野	専門分野Ⅰ	看護と倫理	2	4	後		1	206	必修 22 単位	
	統合分野	地域包括ケア	1	3	後	1		252		
		災害看護セミナー	2	4	後	1		253		
		地域家族支援論	2	3	後	2		255		
		公衆衛生看護学概論	1	3	後	2		263		
		ヘルスプロモーション	2	4	前	1		265		
		国際保健・災害看護論	2	4	前	2		267		
		保健医療システム論	2	4	後	1		269		
		コミュニティ・アセスメント論	2	4	後		1	270		
		看護研究	3	3	前	1		288		
		卒業研究A	3	3	通	2		290		
		卒業研究B	4	4	通	2		291		
		発展看護実習	4	4	通	2		296		
		感染看護演習アドバンス	4	4	通	1		297		
		看護管理論	4	4	後	1		299		
		看護キャリアデザイン論	4	4	後	2		300		
		看護政策論	4	4	後	1		302		
単位数:計								66単位		

※ 基礎分野Ⅰ(全学共通科目)の「しずおか学」科目群については、卒業までに2単位以上修得すること。

* 基礎分野Ⅰ(全学共通科目)の必修科目「数理・データサイエンス・AI入門」は、必ず修得すること。

5. 試験

本学は、学修の効果を測定するために学生の履修した授業科目について、試験のうえ単位を与える。試験は、筆記による場合が最も多いが、授業担当教員の判断により、レポートあるいは口答試問、実技テストのような他の方法により評価を決定する場合もある。また、出席状況その他平素の成績も評価を判定する資料となる。

1) 試験の種類

① 定期試験

定期試験は、各学期の終了時に2週間にわたり実施される。通年科目は、授業終了時のみ1回の試験で行うことがある。定期試験時間割は、原則として試験開始の10日前に掲示により発表される。発表後も変更されることがあるので、注意すること。

② 随時試験

定期試験期間以外に授業中あるいは特別な時間を設けて随時に試験を実施することがある。この場合、授業や掲示等で伝達されることが多いので、聞きもらしや見落しのないように注意すること。

③ 追試験

次の理由で試験を欠席した者については、追試験を願い出ることができる。

ア. 病気(ただし、医師の診断書を要する)

イ. 忌引(1・2親等に限り、死亡の日より1週間以内)

ウ. 就職に関する事由(ただし、具体的に事情の具申あるもの)

エ. その他やむを得ない事由(ただし、具体的に事情の具申あるもの)

なお、軽微な風邪等は、正当な理由と認められないので注意すること。

追試験を受けようとする者は、定期試験の当該科目試験終了の日から1週間以内に追試験願(用紙は学生室にある)にその事由を詳記し、医師の診断書またはその事由を証明する書類を添付し、学生室に届け出ること。

④ 再試験

成績不良のため単位の修得ができなかった者に対しては、原則として再試験は行わない。当該科目の単位を取得したい場合は、再履修が原則である。ただし、やむを得ない事情により授業担当教員が再試験の必要を認める場合には、これを行うことができる。再試験が許可された学生は、再試験願(用紙は学生室にある)を授業担当教員に届け出ること。

2) 受験資格

- ① 科目について、履修登録していること。
- ② 開講回数のうち2/3以上の出席により、受験資格を認める。ただし、授業担当教員の裁量により、一度の欠席で受験資格が認められない科目もあるため注意すること。

なお、授業開始後30分以内の入室は遅刻とし、授業開始後60分以降の退室は早退として扱い、授業開始後30分超の入室又は授業開始後60分未満の退室は欠席として扱う。遅刻又は早退3回をもって欠席1回とみなす。

3) 受験上の注意事項

試験場内では、すべて監督者の指示またはあらかじめ指示されている事項に従わなければならない。

定期試験の受験方法は次のとおりである。

- ① 受験時の座席については、原則として、学籍番号順に着席すること。
- ② 学生証を机の上に置くこと。学生証のない者は受験できないので注意すること。
- ③ 学生証を忘れた者は、学生室にて「定期試験仮受験票」を発行してもらうこと。
- ④ 机の上には、鉛筆(シャープペン)、消しゴム、その他使用が認められている物だけを置き、それ以外の物はかばんの中に収納すること。
- ⑤ 携帯電話の電源は切り、かばんの中に収納すること。
- ⑥ 不正行為と誤解されないため、試験開始前に以下のことを行うこと。
 - ・机の上に落書き等がある場合は、消しゴムで消す。
 - ・机の物入れに何も無いことを確認する。
 - ・周囲の床に何も落ちていないことを確認する。
- ⑦ 試験中に、不正行為の疑義が生じた場合は、監督者の判断で受験を中止させる。
- ⑧ 不正行為が確定した場合は、「看護学部 履修細則」に則り、当該科目を含むその学期のすべて、あるいは一部の科目の履修単位を無効とする。
- ⑨ 原則として試験開始時刻より30分を過ぎた場合は、試験場への入室は認めないので注意すること。

6. 学修の評価

本学における学修評価は、履修細則及び担当教員の評価方針により、試験、レポート、授業出席状況などにおける学生の学修実績に基づき、秀・優・良・可・不可の評語で表現される。

1) 評価の基準

成績の評価基準は、秀・優・良・可・不可の5区分とする。

秀 … 100点～90点

優 … 89点～80点

良 … 79点～70点

可 … 69点～60点

不可… 59点以下

秀・優・良・可と評定されたものは合格とし、当該科目の単位が与えられる。なお、科目の履修を申告し履修しなかった授業科目は不可と評定される。

2) 成績の発表

成績は、「Web学生サービス支援システム」で随時確認できる。

7. 修業年限と在学年限

1) 修業年限と在学年限

編入学生の修業年限は2年とし、在学期間は4年間を超えることができない。ただし、この中に休学期間は算入されない。

2) 卒業要件

● 3年課程修了者

- ① 卒業するためには、2年以上在学し、基礎分野Ⅰ（全学共通科目）10単位以上、基礎分野Ⅱ8単位、専門基礎分野26単位以上（表2に示す必修科目26単位を含む）、専門分野22単位以上（表2に示す必修科目22単位を含む）の合計66単位以上を修得しなければならない。ただし、基礎分野Ⅰ（全学共通科目）は、基礎分野Ⅱの「運動」、「研修」、「教育」の科目を含めて10単位以上とする。

なお、卒業に必要な単位数は、入学前の既修得単位の認定を含め、入学年度の1年次の同学部学生に規定されている126単位である。

- ② 第4年次において卒業要件を満たさず留年した者が、年度途中にその要件を満たした場合は、卒業できることがある。
- ③ 卒業・留年の決定は教授会の議を経て行う。

VII 学生相談等

1. アドバイザー制度

本学部におけるアドバイザー制度とは、学部学生を縦割りにグループ構成し、専任教員2名がアドバイザーとして、卒業時まで継続してグループ学生の指導・助言を行うものである。アドバイザーの教員は、学生個人の相談に応じ、修学や進路等の学生生活全般の事柄について指導や助言を行うとともに、グループにおける教員と学生とのふれあいの場を設け、その交流を通じて、修学や学生生活に関わるさまざまな相談に応じている。また、学生の意見を十分に聞いてこれを理解し、大学の運営に資するため、関係機関の教職員に連絡・進言する職務にもあたっている。

2. 学生の身分異動

1) 休学

病気その他やむを得ない理由により2ヵ月以上修学困難な場合は、アドバイザーの教員と相談し、了解を得た上で所定の休学願を学生室に提出し、教授会の承認および学長の許可を得て1年以内の休学が認められる。なお、病気による休学の場合は、医師の診断書を添付することが必要である。特別の理由がある場合は、さらに1年を限度として休学期間の延長が認められる。休学期間は通算して3年を超えることはできない。

休学期間中にその理由が消滅したときは、アドバイザーの教員と相談し、了解を得た上で復学願を学生室へ提出し、教授会の承認および学長の許可を得て復学することができる。病気により休学した場合は医師の診断書を添付することが必要である。

2) 復学

休学の期間が満了し復学するときは、アドバイザーの教員と相談し、了解を得た上で復学願を学生室へ提出し、教授会の承認および学長の許可を得て復学することができる。病気により休学した場合は医師の診断書を添付することが必要である。

3) 退学

病気その他の事情により学業継続が困難となり退学しようとする場合は、アドバイザーの教員と相談し、了解を得た上で退学願を学生室へ提出し、教授会の承認を得て、学長の許可を得なければならぬ。

Ⅷ 事故発生時の対処

1. 事故の定義

事故とは、登下校時、授業・実験・実習・演習・臨地実習中および時間外における傷害・賠償事故をいう。

①自己傷害:学生自身が外傷、針刺し事故等の傷害を負った場合、細菌、ウイルス感染をした場合

②対人賠償:学生が、転倒・転落や誤薬等により患者に傷害を負わせた場合、または学生の同伴時に患者が離院をした場合、または左記以外の状況において学生が他者に傷害を負わせた場合

③対物賠償:学生が、物品・薬品の損壊や物品の滅失等(他人の所有物)をまねいた場合

2. 事故発生時の対応

区分	対応	保険関係上の手続き
時間外及び登下校時	①事故の状況に応じ消防署、警察署へ通報 ②守衛室【草薙】(054-264-5111)または警備員室【小鹿】(054-202-2623)へ連絡 ③状況、現場、対象物等のメモ又は必要時写真撮影	①自己傷害事故の場合には、傷害事故報告書(様式1)または、保険事故通知(様式2)を学生室へ提出 ②対人・対物事故の場合には、賠償事故報告書(様式3)を学生室へ提出 ③事故発生報告書(様式4)をアドバイザーの教員へ提出
臨地実習中の登下校時	①事故の状況に応じ消防署、警察署へ通報 ②登下校時には、実習指導教員、実習場所指導者へ連絡 ③下校時には、守衛室【草薙】(054-264-5111)または警備員室【小鹿】(054-202-2623)へ連絡	同上
授業・実験・実習及び演習時間中	科目担当教員へ連絡	①～③ 同上 ④針刺し事故等感染性傷害事故が発生した場合、針刺し事故等傷害を伴う感染事故報告書(様式5)を学生室へ提出 ⑤細菌、ウイルス感染事故が発生した場合、傷害を伴わない感染事故報告書(様式6)を学生室へ提出
臨地実習中	実習指導教員へ連絡	同上

注:

- 1) 傷害事故報告書(様式1)、賠償事故報告書(様式3)、針刺し事故等傷害を伴う感染事故報告書(様式5)および傷害を伴わない感染事故報告書(様式6)は、日本看護学校協議会共済制度「WILL」に係る報告書である。
- 2) 保険事故報告書(様式2)は、学生教育災害傷害保険に係る報告書である。
- 3) 事故発生報告書(様式4)は、県立大学看護学部の報告書である。臨地実習中の事故(大小不問)発生後、

速やかに提出すること。また、授業・実験・実習及び演習時間中の事故に関しては、科目担当教員の指示に従うこと。

- 4) 保険金請求時において診断書、医療機関の領収書、見積書等が必要となる場合がある(学生室より個々に指示する)。
- 5) 針刺し事故等感染性傷害事故が発生した場合、針刺し事故等傷害を伴う感染事故報告書(様式5)を学生室へ提出すること。
- 6) 細菌、ウイルス感染事故が発生した場合、傷害を伴わない感染事故報告書(様式6)を学生室へ提出すること。

※ 報告書(様式1~3、5、6)が必要な場合は学生室へ、報告書(様式4:実習要項内)に関しては、担当教員に申し出ること。報告書を作成したら速やかに担当教員へ提出すること。

IX 講 義 概 要

基 礎 分 野 I
(全 学 共 通 科 目)

令和6年度全学共通科目

*表中、「相当科目」欄に記載された科目の単位を修得した場合は、同一行の「科目名」に記載された科目を履修できないので留意してください。

部門	科目名	単位数	担当教員 (<i>斜体</i> は非常勤講師)	講義概要 のページ	*相当科目
第1部門 スタディ・スキルと	ドイツ語入門	2	ファイファー・マティアス		
	フランス語入門	2	剣持 久木		
	スペイン語入門	2	杉田和歌子		
	中国語入門	2	王元武		
	日本語作文A	2	逢坂里恵		
	日本語作文B	2	逢坂里恵		
	中級日本語 I	2	水野かほる		
	中級日本語 II	2	水野かほる		
	情報検索実習	2	六井淳		
	数理・データサイエンス・AI入門	1	武藤伸明 ほか		【遠隔授業】【必修科目】※
	ヒューマン・ケア	2	飯島本子		
	TOEFL留学英語 I	1	小田 透		TOEFL留学英語
	TOEFL留学英語 II	1	小田 透		
	TOEICビジネス基礎英語	1	堀内裕晃		
TOEICビジネス英語 I	1	山本好比古			
TOEICビジネス英語 II	1	山本好比古			
第2部門 (概論)	自然科学概論	2	橋本博 ほか		
	化学入門	2	眞鍋敬 ほか		
	生物学入門	2	竹内英之 ほか		
	薬剤発達史入門	2	賀川義之 ほか		くすりと医療の歩み
	物理学入門	2	本同宏成 ほか		
	環境科学入門	2	谷幸則 ほか		自然と環境・環境と健康
	哲学入門	2	飯野勝己		
	社会思想史入門	2	犬塚協太		社会思想史
	歴史学入門	2	栗田和典		
	宗教学入門	2	佐藤清子		現代の問題と宗教
	社会学入門	2	石井由香		グローバル社会学入門
	国際関係学入門	2	小窪 千早 ほか		国際関係学への招待
	文化人類学入門	2	金明美		エスニシティ論、多文化共生論
	公共政策入門	2	藤本 健太郎		社会保障とソーシャルインクルージョン
	心理学入門	2	西田公昭		日常生活と心理学
	生涯発達心理入門	2	篁宗一 ほか		心の発達と行動
知的財産管理入門	1	居藤洋之			

部門	科目名	単位数	担当教員 (<i>斜体</i> は非常勤講師)	講義概要 のページ	*相当科目
第3部門 (現代教養)	国際安全保障入門Ⅰ	2	西恭之		
	国際安全保障入門Ⅱ	2	西恭之		
	くらしと化学A	1	近藤啓 ほか		
	くらしと化学B	1	近藤啓 ほか		
	実用科学英語基礎編	2	太田敏郎		
	実用科学英語応用編	2	太田敏郎		
	基礎生命科学Ⅰ	2	太田敏郎		
	基礎生命科学Ⅱ	2	太田敏郎		
	現代日本文化入門A	1	ファイファー・マティアス		
	現代日本文化入門B	1	ファイファー・マティアス		
	経営分析入門A	1	上野、竹下		
	経営分析入門B	1	上野、竹下		
	英語で学ぶ日本語学ⅠA	1	藤森敦之		
	英語で学ぶ日本語学ⅠB	1	藤森敦之		
	英語で学ぶ日本語学ⅡA	1	吉村紀子		
	英語で学ぶ日本語学ⅡB	1	吉村紀子		
	財務会計入門A	1	上野雄史		
	財務会計入門B	1	上野雄史		
	言語の学習・習得ⅠA	1	吉村紀子		言語の学習・習得 A
	言語の学習・習得ⅠB	1	吉村紀子		言語の学習・習得 B
	言語の学習・習得ⅡA	1	藤森敦之		
	言語の学習・習得ⅡB	1	藤森敦之		
	静岡の健康長寿を支える取り組みと人々	2	森本達也 ほか		
	静岡の防災と医療	2	森本達也 ほか		
	静岡地域食材学A	1	三好規之 ほか		
	静岡地域食材学B	1	江口智美 ほか		
	茶学入門	2	中村順行		
	ムセイオン静岡－MUSEUMと文化A	1	立田洋司		・MUSEUMと文化 ・ムセイオンⅠ MUSEUMと文化A
	ムセイオン静岡－MUSEUMと文化B	1	立田洋司		・MUSEUMと文化 ・ムセイオンⅠ MUSEUMと文化B
	ムセイオン静岡－世界の文化遺産A	1	立田洋司		・世界の文化遺産 ・ムセイオンⅡ世界の文化遺産A
	ムセイオン静岡－世界の文化遺産B	1	立田洋司		・世界の文化遺産 ・ムセイオンⅡ世界の文化遺産B
	ムセイオン静岡－舞台芸術A	1	立田洋司		・表現・コミュニケーション・カルチャー ・ムセイオンⅢ舞台芸術A
	ムセイオン静岡－舞台芸術B	1	立田洋司		・表現・コミュニケーション・カルチャー ・ムセイオンⅢ舞台芸術B
	静岡の市民活動	1	津富宏 ほか		
	歴史からみるしずおか学	2	上野雄史		
	新聞でもっと静岡を知ろう	2	上原克仁 ほか		
	企業経営者に学ぶ静岡のビジネス最前線	2	上原克仁 ほか		
	SDGs概論	2	谷晃 ほか		
	ふじのくに「カストロニーツリズム」：観る・食べる・学ぶ	2	大久保あかね ほか		
	静岡「知」各論－食品環境科学と地域企業の視点から－	2	伊藤創平 ほか		
	世界からしずおかを見る しずおかから世界へ	2	横井 香織 ほか		
	ふじのくに学(お茶)	2	中村順行 ほか		
ふじのくに学(観光学)	1	北上真一 ほか			
ふじのくに学(演劇論)	2	宮城隼(静岡英和学院大学) ほか			
ふじのくに学(南アルプスの自然)	1	静岡大学教員 ほか			
ふじのくに学(静岡県の産業イノベーション)	2	静岡産業大学教員 ほか			
ふじのくに学(静岡県の産業イノベーションⅡ)	2	静岡産業大学教員 ほか			
ふじのくに学(静岡県の産業イノベーションⅢ)	2	静岡産業大学教員 ほか			
ふじのくに学(農林業)	1	静岡大学教員 ほか			
ふじのくに学(森林生態系からの恵み)	1	静岡大学教員 ほか			
ふじのくに学(伊豆の温泉と産業おこし)	2	楠城一嘉、鴨川仁 ほか			
ふじのくに学(魅力ある食と地域づくり)	2	大久保あかね ほか			
ふじのくに学(静岡県西部地域の特性と産業)	2	静岡文化芸術大学教員 ほか			
健康イノベーション教育プログラム	2	新井英一 ほか			
キャリアデザイン概論	2	東野 定律			
男女共同参画社会とジェンダー	2	大塚協太 ほか			
人権を支える社会	2	坪田 光平		人権問題を考える	
ジャーナリズム論	2	西恭之 ほか			
キャリアと社会 ^{*1}	2	羽衣国際大学教員 ほか			
高野山で学ぶキャリアとわたし ^{*1}	2	高野山大学教員 ほか			

※しずおか学科目群から2単位以上を卒業までに修得すること。

※【必修科目】は令和6年度以降入学生を対象とし、卒業要件に該当する。ただし、進級要件については各学部の定めによる。

*1南大阪地域大学コンソーシアムの科目。

【実務経験のある教員による科目】

令和6年度

〈全学共通科目〉

科目名	教員氏名	単位数
情報検索実習	六井淳	2
ヒューマン・ケア	飯島本子	2
TOEFL留学英語I	小田透	1
TOEFL留学英語II	小田透	1
自然科学概論	近藤啓	2
生物学入門	浅井知浩、南彰	2
薬剤発達史入門	賀川義之ほか4名	2
公共政策入門	藤本健太郎	2
生涯発達心理入門	篁宗一、保坂利男ほか3名、特別講師2名	2
知的財産管理入門	居藤洋之	1
環境科学入門	原清敬	2
くらしと化学A	近藤啓	1
くらしと化学B	近藤啓	1
言語の学習・習得IIA	藤森敦之	1
言語の学習・習得IIB	藤森敦之	1
英語で学ぶ日本語学IA	藤森敦之	1
英語で学ぶ日本語学IB	藤森敦之	1
静岡の健康長寿を支える取り組みと人々	森本達也、富安真理ほか3名、特別講師6名	2
静岡の防災と医療	森本達也ほか特別講師10名	2
静岡地域食材学A	特別講師5名	1
静岡地域食材学B	江口智美ほか3名、特別講師3名	1
茶学入門	中村順行ほか特別講師9名	2
ムセイオン静岡－MUSEUMと文化A	特別講師2名	1
ムセイオン静岡－MUSEUMと文化B		1
ムセイオン静岡－世界の文化遺産A	特別講師2名	1
ムセイオン静岡－世界の文化遺産B		1
ムセイオン静岡－舞台芸術A	特別講師1名	1
ムセイオン静岡－舞台芸術B		1
新聞でもっと静岡を知ろう	上原克仁・静岡新聞記者	2
企業経営者に学ぶ静岡のビジネス最前線	上原克仁・静岡県内企業経営者	2
静岡「知」各論－食品環境科学と地域企業の視点から－	特別講師4名	2
SDGs概論	孫曉剛ほか7名	2
ふじのくに学(お茶)	中村順行、ステファン・ダントシ	2
ふじのくに学(観光学)	北上真一、飯倉清太	1
ふじのくに学(演劇論)	宮城聰(静岡英和学院大学)	2
ふじのくに学(静岡県の産業イノベーション)	小泉祐一郎、永井隆太郎(静岡大学)	2
ふじのくに学(静岡県の産業イノベーションII)	小泉祐一郎、永井隆太郎(静岡大学)	2
ふじのくに学(静岡県の産業イノベーションIII)	小泉祐一郎、永井隆太郎(静岡大学)	3
ジャーナリズム論	西恭之、小川和久	2
合計		61

【科目名】	ドイツ語入門	Basic German			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	火曜 1 限		
【科目責任者】	ファイファー マティアス				
【担当教員】	ファイファー マティアス				
【授業目標】	ドイツ語の基本的な発音、綴り、日常的な場面での表現法と最低限度の文法の習得。ドイツ文化への興味の喚起。				
【授業概要】	外国語の学習においては、根底にその言語を話す国の文化への積極的関心があることが何より望ましいが、その言語を習得すると直接役に立つとか利益がある(勿論すばらしいことである!) 場合にもまして、その言語の学習プロセス自体が楽しい場合に、より持続的で可能性の大きい学習効果が見込まれることがわかっている。この授業では、会話や発表、聞き取りの練習に加え、面倒がられることが多い発音や文法の規則を覚えることが、決して辛いものではなく楽しさを伴うことを実感してもらえらる指導を目指す。				
【授業方法】	各課において、テキストに沿って、キーセンテンス、文法、対話、練習問題の順に進んでいく。				
【授業展開】	第 1 回 第 1 課 やあ、僕はナオキ ～動詞の人称変化～ 第 2 回 第 2 課 あっちの方にあるのが郵便局 ～名詞の性～ 第 3 回 第 3 課 今小説を読んでいるところ ～名詞の格変化～ 第 4 回 第 4 課 お皿とカップとグラスはここよ！ ～名詞の複数形～ 第 5 回 第 5 課 夏休みには何をやるの？ ～前置詞～ 第 6 回 第 6 課 これが私の両親 ～冠詞類～ 第 7 回 復習 第 8 回 中間試験 第 9 回 第 7 課 テレビを見てるの？ ～分離動詞～ 第 10 回 第 8 課 4 時にパウルとユーリア会うことにしてる ～再帰動詞～ 第 11 回 第 9 課 鍵を見つけられないんだ ～話法の助動詞～ 第 12 回 第 10 課 ここには黒い帽子と小さな人形と古いラジオがあるよ ～形容詞の格変化～ 第 13 回 第 11 課 ハンブルクとミュンヘンではどっちの町が大きい？ ～比較の表現～ 第 14 回 第 12 課 ティーロには今朝もう会った？ ～現在完了形～ 第 15 回 復習 第 16 回 期末試験				
【履修条件】	特になし				
【評価方法】	中間試験 50%、期末試験 50%。欠席回数が 5 回を超えると試験が受けられない(第 1 回目は数に入れない)。				
【テキスト】	Grundstufe Deutsch ドイツ語ベーシック・コース(3 訂版) 三修社 2024 年				
【参考書】	辞書は次の 3 種類の中から選ぶことを強くお勧めする。 ・同学社『アポロン独和辞典』第 4 版 4200 円＋税 ・三省堂『クラウン独和辞典』第 5 版 4200 円＋税 ・三修社『アクセス独和辞典』第 4 版 4200 円＋税				
【備考】					
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	フランス語入門	Basic French			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	火曜 1 限		
【科目責任者】	剣持久木				
【担当教員】	剣持久木				
【授業目標】	フランス語を初めて学ぶ人を対象にした授業です。 発音と会話に重点をおき、最低限の文法の知識を踏まえて、日常のシチュエーションで役立つ表現を身につけられるようにします。フランスに皆さんが滞在しているイメージで、想定される場面での会話を学んでいきます。				
【授業概要】	教科書に沿ってフランス語の表現を学習します。				
【授業方法】	まず、授業で各課の事項を説明します。週一回の授業ですから、受講者は次回の授業までに必ず予習、復習をしてください				
【授業展開】	第 1 回: アルファベと発音の基礎 第 2 回: あいさつの表現、数字の言い方① 第 3 回: カフェでの注文、名詞と冠詞 第 4 回: 友人との会話、er 型規則動詞、否定文 第 5 回: プティックで買い物、動詞?tre と avoir、指示形容詞、数字の言い方② 第 6 回: 友人を紹介、形容詞の位置と語尾変化、時刻の聞き方 第 7 回: 誕生プレゼント、動詞 aller と venir、近接未来と近接過去、曜日と月 第 8 回: ホテルにチェックイン、疑問文、所有形容詞、前置詞 第 9 回: ir 型規則動詞、不規則動詞、命令形、数字の言い方③ 第 10 回: フランス語学習の動機、疑問視、動詞 faire と prendre 第 11 回: 映画を観に行く、複合過去形 第 12 回: 列車の切符を買う、疑問形容詞、動詞 vouloir、pouvoir、devoir 第 13 回: 日本についての会話、比較級、最上級 第 14 回: 文法のまとめ 第 15 回: 全体のまとめ				
【履修条件】	受講希望者が適正人数を越えた場合、第 1 回授業の際に選抜を行います。受講希望者は必ず第 1 回目の授業に参加してください。				
【評価方法】	出席回数(25%)、授業での取組(25%)、期末試験(50%)によって評価します。				
【テキスト】	松村博史、バンドロム・エディ『クロワッサン1』朝日出版社				
【参考書】	仏和辞典の購入をお勧めします。例: プチロワイヤル仏和辞典(旺文社)、クラウン仏和辞典(三省堂)、ディコ仏和辞典(白水社)、プログレッシブ仏和辞典(小学館)など。				
【備考】	対面授業				
【社会人聴講生】	×	【科目等履修生】	×	【交換留学生】	×

【科目名】	スペイン語入門	Basic Spanish		
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	水曜 1 限	
【科目責任者】	杉田和歌子			
【担当教員】	杉田和歌子			
【授業目標】	スペイン語の基本的な文法と語彙を学び、日常生活に関する表現を身に付ける。			
【授業概要】	<p>スペイン語は世界で最も使用されている言語のひとつであり、その言語人口は約 3 億 5 千人にもものぼります。日本でも重要な位置を占め、その需要は観光、商取引、教育、司法、医療など、幅広い分野に渡ります。現在日本には多くの中南米出身者が居住しており、その一方で企業の中南米進出も増加しています。今後もスペイン語の重要性は増していくことでしょう。</p> <p>スペイン語は発音が日本語に比較的似ており、日本人には大変学習しやすい言語です。その上、文法体系はかなり明解で、文法事項を整理しながら学習すれば、早い段階で辞書を片手に長文を理解することも可能です。始めてスペイン語を学ぶ人を対象とした授業です。基本的な文法事項と語彙を学んだあと、それらを用いた表現練習をします。</p>			
【授業方法】	<p>授業形態は、講義形式を基本とします。基本的な文法事項と語彙を学び、練習問題で確認します。そのうえで、それらを用いた身近な表現を練習します。語学の学習には積み重ねが不可欠です。予習・復習は必ず行って下さい。</p> <p>【新型コロナ対策】</p> <p>遠隔講義とし、以下の2つのいずれかを予定しています。どちらで実施するかは掲示で案内します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ユニバを利用した学習管理(Dropbox を利用したオンデマンド) 2. オンライン(Zoom)授業 			
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1課 アルファベット／発音 2. 2課 名詞の性／名詞の数／冠詞 3. 3課 主格人称代名詞／動詞 ser／形容詞／疑問文・否定文 4. 4課 直接法現在・規則動詞 I (－AR 動詞)／直接法現在の用法／頻度の表現／曜日の表現 5. 5課 直接法現在・規則動詞 II (－ER 動詞・－IR 動詞)／所有詞(前置形)／時刻の表現 6. 6課 指示詞／HAY＋不定の名詞／ESTAR 7. まとめ 発展練習1・2 8. 中間試験 9. 7課 直接目的格人称代名詞／SABER・CONOCER／1人称単数形が不規則なその他の動詞 10. 8課 間接目的格人称代名詞／語根母音変化動詞 e→ie 型／TENER 11. 9課 語根母音変化動詞 o→ue 型・e→i 型／不定語・否定語 12. 10課 IR・VENIR・DECIR・O?R／IR＋a＋不定詞・TENER＋que＋不定詞・HAY＋que＋不定詞／所有詞(後置形) 13. 11課 前置詞人称代名詞／GUSTAR／比較 14. まとめ 発展練習3・4 15. 期末試験 			
【履修条件】	毎回授業に出席し、積極的に参加すること。予習・復習を欠かさないこと。			
【評価方法】	試験(中間・期末)+授業態度(授業参加・予習・復習・課題提出等)			
【テキスト】	四宮瑞枝/落合佐枝/Paloma Trenado De?n『?Acci?n! Primeros pasos アクション《ライト版》』白水社。 辞書を購入すること。			
【参考書】	?垣 敏博ほか『ポケットプログレッシブ ?和・和?辞典』?学館。 原誠ほか『クラウン?和辞典』三省堂。 カルロス・ルビオほか『クラウン和?辞典』三省堂。 ?直『プログレッシブスペイン語辞典』?学館。 * 辞書は必ず購?すること。			
【備考】	授業中の携帯電話の使?は固く禁じる(使?した場合は退室してもらう)。?学?にふさわしい態度で受講すること。			
【社会人聴講生】	可。	【科目等履修生】	可。	【交換留学生】

【科目名】	中国語入門	Basic Chinese		
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	水曜 1 限	
【科目責任者】	王元武			
【担当教員】	王元武			
【授業目標】	このコースは、初心者に設けられる中国語入門コースである。中国語の基本発音から基本的文法と日常生活・中国への留学・旅行のための会話までのものを修得するように朗読・対話の練習や書き取り・聞き取りの練習などを行う。			
【授業概要】	1 回目から 4 回目までの授業は、自分の名前の中国語での読み・発音の基礎と簡単な日常挨拶のことは学ぶ。 5 回目の授業からは、基本文法や会話などの学習を行う。			
【授業方法】	教科書に沿って授業を進める。本文の朗読・練習問題の解答の発表を行う。			
【授業展開】	1 中国語概説 2 声調「四声」・母音の練習 3 子音の練習 4 発音の復習・発音のいろいろな現象と決まり 5 挨拶 6 自己紹介 7 年月日や番号の聞き方 8 動詞の文 9 名詞の文 10 形容詞の文 11 「在」の文 12 「有」の文 13 時の表現 14 完了の表現・助動詞 15 まとめ			
【履修条件】	受講生の人数は、60人までとする。 60人を超える場合は、抽選とするので、希望者は必ず初回の授業に出席すること。 なお、中国語を母語とする学生は履修できない。 国際関係学部で地域言語に中国語を選択した学生は履修を認めない場合がある。			
【評価方法】	出席と定期試験の成績による総合評価。			
【テキスト】	中国語入門テキスト<漢語会話入門> 王元武 著 (静楽出版会)			
【参考書】				
【備考】				
【社会人聴講生】		【科目等履修生】		【交換留学生】

【科目名】	日本語作文A	Japanese Essay A			
【開講時期】	2024年度前期	【開講時間】	水曜1限		
【科目責任者】	逢坂里恵 Rie Osaka				
【担当教員】	逢坂里恵Rie,Osaka				
【授業目標】	異文化について考え、留学生が大学の日常生活に必要な基礎的な日本語作文力を身につける。 To understand different cultures and acquire the basic Japanese writing skills necessary for international students in their daily lives at university.				
【授業概要】	授業では、日本の生活や文化、社会に関するテーマについて、参加学生の各国と比較しながら、日本語で話し・聞き・読み・書くことを通して考え、日本や異文化の理解を深めるとともに、語彙、表現力を養い、基礎的な作文の書き方を学ぶことで、大学生活でのメールや手紙、基礎的な作文、研究計画書などが書けるようになる。留学生と日本人学生とともに考え、日本語作文を学ぶことを通し交流を深めたい。 In the class, students will think about themes related to Japan's life,culture, and society through speaking, listening, reading, and writing in Japanese while comparing them with the students' countries. And students will learn how to write basic essays. I would like to deepen exchanges by thinking together with international students and Japanese students.				
【授業方法】	1 日本の生活や文化、社会に関するテーマについて、日本語で新聞記事などの文章や資料を読み、参加学生の各国と比較しながら、ディスカッションをし、語彙や表現力を養うとともに、異文化理解を深める。 2 日本語作文の表現技術や書き方を学ぶ。1をもとに、2を使いながら、作文を書く。さらに、作文をいっしょに読み合い、推敲し、基礎的な作文力をつける。 *日本人学生は、留学生といっしょにディスカッションしたり、各国の話の聞いたりして、自国の文化や異文化について知り考える機会となり、また留学生が日本語で読むことや作文をサポートすることにより、日本語や日本語教育について学ぶ機会となる。 *留学生が大学の日常生活に必要な基礎的な作文力の習得を目標としているが、初級の学生であれば基本文型を使い文を書くところから学ぶなど、個々の日本語力に応じ対応する。 15Students will read newspaper articles and other materials in Japanese on themes related to Japan's life, culture,and have discussions while comparing them with the students' countries. It will deepen their cross-cultural understanding. 25Students will learn how to express and write Japanese essay,and write an essay on the each theme discussed. In addition, students will read and refine essays together to develop basic writing skills. *The main goal is for international students to improve the basic writing skills necessary for daily life at university, but if you are a beginner student, you can learn from writing sentences using basic sentence patterns, depending on your individual Japanese ability.				
【授業展開】	1.授業ガイダンス Class guidance 参加学生間の紹介、「絵を見て説明しよう」 日本語の書く力、書くことに関わるニーズについて確認 2.テーマ1「生活習慣」"Lifestyle habits" (基本的な作文の書き方) 原稿用紙の使い方とPCでの文書作成の書式 3.テーマ1について作文、(作文表現) 比較して述べる 4.テーマ2「大学生活」"University life" (基本的な作文の書き方) 話し言葉と書き言葉(文のスタイル) 5.テーマ2について作文、(作文表現)メールの書き方、欠席届の書き方 6.テーマ3「コミュニケーション」"Communication" (基本的な作文の書き方) くだけた表現・整った表現 7.テーマ3 作文発表1 (作文表現) コメントペーパーの書き方 8.テーマ4「住みたい場所、訪れたい場所」"Places I Want to Live and Visit" (基本的な作文の書き方) 文章の構成 9.テーマ4について作文、(作文表現)理由を述べる表現。 10.発表2「住みたい場所、訪れたい場所」 11.テーマ5「男と女」"Men and Women"、(基本的な作文の書き方) 助詞相当句1 12.テーマ5について作文、(作文表現)例をあげる表現 13.テーマ6「食生活、食文化」"Eating habits, food culture" (基本的な作文の書き方) 助詞相当句2 14.テーマ6について紹介文を書く (作文表現)共通点、類似点、相違点を述べる表現 15.発表3「私の町のお菓子」"Sweets in my town"、まとめ				
【履修条件】	外国人留学生を対象とする。また、留学生に対する日本語教育や異文化に関心があり、チューターとして共に学習できる日本人学生も対象とする(ただし人数は限る)。 International students.And also Japanese students who can study with them as tutors (but the number is limited).				
【評価方法】	授業への取り組み(30%)、課題提出(30%)、発表(20%)、試験(20%)による総合評価とする。 Grades are based on class participation(30%),Assignments(30%), Presentation (20%), and Exam (20%).				
【テキスト】	プリント配布、また授業のなかで提示 Distribution of printouts				
【参考書】	・『日本語を学ぶ人のためのアカデミック・ライティング講座』(ASK出版)				
【備考】	日本語作文B(後期)受講者は日本語作文Aを履修していることが望ましい。 参加する留学生の日本語力により、授業内容を検討する。 授業を通して、留学生と日本人学生とのコミュニケーションを楽しみましょう。 It is desirable for students who take Japanese Essay B (Second Semester) to take Japanese Essay A. The content of the class will be examined according to the Japanese proficiency of the participating international students. Let's enjoy communication between international students and Japan students through classes.				
【社会人聴講生】	社会人聴講生聴講不可	【科目等履修生】	科目等履修生履修不可	【交換留学生】	交換留学生可 Exchange students are welcomed.

【科目名】	日本語作文B	Japanese Essay B			
【開講時期】	2024年度後期	【開講時間】		水曜1限	
【科目責任者】	逢坂里恵 Rie Osaka				
【担当教員】	逢坂里恵 Rie Osaka				
【授業目標】	異文化について考え、留学生が大学の日常生活に必要な日本語作文力を身につける。 To understand different cultures and acquire the basic Japanese writing skills necessary for international students in their daily lives at university.				
【授業概要】	前期に続き、日本の生活や文化、社会に関するテーマについて、参加学生の各国と比較しながら、日本語で話し・聞き・読む・書くことを通して考え、日本や異文化の理解を深めるとともに、語彙、表現力を養い、基礎的な作文の書き方を学ぶことで、大学生活でのメールや手紙、基礎的な作文、研究計画書などが書けるようになる。留学生と日本人学生とともに考え日本語作文を学ぶことを通し、交流を深めたい。 In the class, students will think about themes related to Japan's life,culture, and society through speaking, listening, reading, and writing in Japanese while comparing them with the students' countries. And students will learn how to write basic essays. I would like to deepen exchanges by thinking together with international students and Japanese students.				
【授業方法】	1 日本の生活や文化、社会に関するテーマについて、日本語で新聞記事などの文章を読み、参加学生の各国と比較しながら、ディスカッションをし、語彙や表現力を養うとともに、異文化理解を深める。 2 日本語作文の表現技術や書き方を学ぶ。1をもとに2を使いながら、作文を書く。作文をいっしょに読みあい、推敲し、基礎的な作文力を習得する。 *日本人学生は、留学生とともにディスカッションしたり、各国の話を聞いたりして、自国の文化や異文化について知り考える機会となり、また留学生が日本語で読むことや作文をサポートすることにより、日本語や日本語教育について学ぶ機会となる。 *留学生が大学の日常生活に必要な日本語作文力の習得を目標としているが、初級の学生であれば基本文型を使い文を書くところから学ぶなど、個々の日本語力に応じ対応する。 1.Students will read newspaper articles and other materials in Japanese on themes related to Japan's life, culture, and have discussions while comparing them with the students' countries. It will deepen their cross-cultural understanding. 2.Students will learn how to express and write Japanese essay,and write an essay on the each theme discussed. In addition, students will read and refine essays together to develop basic writing skills. *The main goal is for international students to improve the basic writing skills necessary for daily life at university, but if you are a beginner student, you can learn from writing sentences using basic sentence patterns, depending on your individual Japanese ability.				
【授業展開】	1. (*遠隔) 授業ガイダンス Class Guidance 参加学生間の紹介、「夏休みのこと About Summer Vacation, Cool Japan」 日本語の書く力、書くことに関わるニーズについて確認 2.テーマ7「教育」"Education"、(作文の書き方) 名詞・動詞・形容詞のスタイル 3.テーマ7教育問題 (作文の書き方) 視点・呼応の表現 4.テーマ7発表「国の教育問題」 5.テーマ8「結婚」"Marriage" (作文の書き方) 和語と漢語 6.テーマ8「結婚」、資料を読む (作文表現) 定義する表現・問題提起する表現 7.テーマ9「働き方」"Work Style"、(作文の書き方) 数値に関する表現 8.テーマ9発表「結婚・働き方」/職業適性 (作文の書き方) 図表・データの表現 1 9.テーマ9について作文、(作文表現) 図表・データの利用 10.テーマ10「日本語」"Japanese" (作文の書き方) 手紙を書く・敬語表現 11.テーマ10「日本語」今年の漢字、若者言葉 12.テーマ11私のテーマ「もっと知りたい日本」"What I want to know about Japan" 「テーマと構成」(研究計画書の作成) (表現) インタビューの表現 13.テーマ11「もっと知りたい日本」インタビュー 14.「もっと知りたい日本」、発表の準備、レジュメ/power point作成 15.発表「もっと知りたい日本」				
【履修条件】	外国人留学生を対象とする。また、留学生に対する日本語教育や異文化に関心があり、チューターとして共に学習できる日本人学生も対象とする(ただし人数は限る)。 International students. And also Japanese students who can study with them as tutors (but the number is limited).				
【評価方法】	授業への取り組み、課題提出、発表、試験による総合評価とする。 授業への取り組み(30%)、課題提出(30%)、発表(20%)、試験(20%)による総合評価とする。 Grades are based on class participation(30%),Assignments(30%), Presentation (20%), and Exam (20%).				
【テキスト】	プリント配布、また授業のなかで提示 Distribution of printouts				
【参考書】	『日本語を学ぶ人のためのアカデミックライティング講座』(ASK出版) その他、授業の中で随時紹介				
【備考】	日本語作文B(後期)受講者は日本語作文Aを履修していることが望ましい。 参加する留学生の日本語力に応じ、授業内容を検討する。 授業を通して、留学生と日本人学生とのコミュニケーションを楽しみましょう。 It is desirable for students who take Japanese Essay B (Second Semester) to take Japanese Essay A. The content of the class will be examined according to the Japanese proficiency of the participating international students. Let's enjoy communication between international students and Japan students through classes.				
【社会人聴講生】	社会人聴講生聴講不可	【科目等履修生】	科目等履修生履修不可	【交換留学生】	交換留学生可 Exchange students are welcomed

【科目名】	中級日本語 I	Intermediate Japanese for Exchange Students I			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	水曜 2 限		
【科目責任者】	水野かほる				
【担当教員】	水野かほる				
【授業目標】	初級で習った文法や語彙を定着させつつ、話す・聴くの技能を高め、またコミュニケーションに必要な文化社会知識を身につける。				
【授業概要】	前半は初級後期の教科書を使用し、初級日本語の復習と確認を行っていく。授業後半は中級教材を使用し、より実践的なコミュニケーション能力を養うこととそのために必要な知識や情報を得ることを目指す。				
【授業方法】	まずは、初級の文法や語彙、表現を踏まえた上で質問をしたり答えたりすることができ、日常的なことに対応できる会話ができるかを教科書の復習と教室活動での練習で確認を行う。その後の上級レベルへの移行を目指した活動では、教科書の会話文やそこで使用される表現・文法を学習しながら実践的な会話力、意見を言う・説明するなどのコミュニケーション能力といろいろな情報を聞き取るための聴解力獲得を目指して会話練習や発表練習等を行う。さらに、教科書で扱う課のトピックに関連した日本文化について調べたり説明を聞くことによって、コミュニケーションに必要な知識や情報を得る活動を実施する。				
【授業展開】	1. イントロダクション 2. 『初級日本語 げんきⅡ』会話・文法編 第 18 課 3. 『初級日本語 げんきⅡ』会話・文法編 第 19 課 4. 『初級日本語 げんきⅡ』会話・文法編 第 20 課 5. 『初級日本語 げんきⅡ』会話・文法編 第 21 課 6. 『初級日本語 げんきⅡ』会話・文法編 第 22 課 7. 『初級日本語 げんきⅡ』会話・文法編 第 23 課 8. 『上級へのとびら』第 1 課 日本の地理 9. 『上級へのとびら』第 1 課 10. 『上級へのとびら』第 2 課 日本語のスピーチスタイル 11. 『上級へのとびら』第 2 課 12. 『上級へのとびら』第 3 課 日本のテクノロジー 13. 『上級へのとびら』第 3 課 14. 『上級へのとびら』第 4 課 日本のスポーツ 15. 『上級へのとびら』第 4 課、まとめ				
【履修条件】	初級日本語の基本的な文法事項や語彙・表現等が学習済みであること。				
【評価方法】	授業への取り組み(出席状況、授業への取り組み、課題の提出状況など)と定期試験の成績で評価する。				
【テキスト】	・坂野永理他(2020)『初級日本語 げんき[第 3 版]Ⅱ』the japan times PUBLISHING ・近藤純子他(2009)『上級へのとびら』くろしお出版				
【参考書】	授業の中で適宜紹介する。				
【備考】	本科目は、本学協定校からの交換留学生を主な対象としている。ただし、交換留学生以外でも、担当教員が認めた場合は履修可能である。 授業内容や方法は、受講生の日本語のレベルや状況によって変わる可能性がある。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	可

【科目名】	中級日本語Ⅱ	Intermediate Japanese for Exchange Students Ⅱ			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	水曜 2 限		
【科目責任者】	水野かほる				
【担当教員】	水野かほる				
【授業目標】	初級で習った文法や語彙を定着させつつ、話す・聴くの技能を高め、またコミュニケーションに必要な文化社会知識を身につける。				
【授業概要】	授業は、「中級日本語 A」で使用する教材『上級へのとびら』を継続して使用し、実践的なコミュニケーション能力を養うこととそのために必要な知識や情報を得ることを目指す。				
【授業方法】	『上級へのとびら』は、この教科書を終了した学習者が、中級の最終段階に到達して上級に入る「とびら」を開けることができるようにという願いを込めて名付けられた教科書である。上級レベルへの移行を目指した活動では、教科書の会話文やそこで使用される表現や文法を学習しながら実践的な会話力、意見を言う・説明するなどのコミュニケーション能力といろいろな情報を聞き取るための聴解力獲得を目指して会話練習や発表練習等を行う。これらの活動の中には実際の場面での会話を聞いたり日本語話者とのコミュニケーション活動を含む。さらに、教科書で扱う課のトピックに関連した日本文化について調べたり説明を聞く、資料を読むことによって、コミュニケーションに必要な知識や情報が得られるように、楽しくしかし丁寧な活動をする予定である。				
【授業展開】	1. イントロダクション 2. 『上級へのとびら』第 5 課 日本の食べ物 3. 『上級へのとびら』第 5 課 4. 『上級へのとびら』第 6 課 日本人と宗教 5. 『上級へのとびら』第 6 課 6. 『上級へのとびら』第 7 課 日本のポップカルチャー 7. 『上級へのとびら』第 7 課 8. 『上級へのとびら』第 8 課 日本の伝統芸能 9. 『上級へのとびら』第 8 課 10. 『上級へのとびら』第 9 課 日本の教育 11. 『上級へのとびら』第 9 課 12. 『上級へのとびら』第 10 課 日本の便利な店 13. 『上級へのとびら』第 10 課 14. 『上級へのとびら』第 11 課 日本の歴史 15. 『上級へのとびら』第 11 課、まとめ				
【履修条件】	初級日本語の基本的な文法事項や語彙・表現等が学習済みであること。				
【評価方法】	授業への取り組み(出席状況、授業への取り組み、課題の提出状況など)と定期試験の成績で評価する。				
【テキスト】	・近藤純子他(2009)『上級へのとびら』くろしお出版				
【参考書】	授業の中で適宜紹介する。				
【備考】	本科目は、本学協定校からの交換留学生を主な対象としている。ただし、交換留学生以外でも、担当教員が認めた場合は履修可能である。 授業内容や方法は、受講生の日本語のレベルや状況によって変わる可能性がある。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	可

【科目名】	情報検索実習	Practice of Information Retrieval	
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	木曜 1 限
【科目責任者】			
【担当教員】	*六井 淳		
【授業目標】	インターネットで公開されているウェブページを利用して、様々な情報を臨機応変に検索できるようにし、情報社会において勉学、仕事や生活に必要な情報を自ら得られるようにする。		
【授業概要】	まずは学内情報システムの使い方に習熟する。 次いで、実習中心の講義を通して、様々な情報の検索方法を学ぶ。 毎回講義の内容に沿った課題を提出するので、課題を解くことによって情報検索の理解を深めてもらう。		
【授業方法】	実習を中心に進める。毎回課題を出すので、情報を探し出し、Web 学生サービス支援システムあるいはメールシステムを使ってレポートする。		
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学内情報システムの使用方法の確認、レポート提出法などの確認 2. 情報検索とは 3. データベースと検索の仕組み 4. サーチエンジンの使用法 5. 図書館での情報検索方法(その1) 6. 図書館での情報検索方法(その2) <p><補足>図書館での情報検索方法は図書館の館員の方に講義していただく予定です。 図書館の館員のご都合によって実施の回が前後にずれることがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 論文検索と記事検索 8. 統計情報検索 9. 法律、判例検索 10. 機械翻訳 11. 論理和と上位概念(グループワーク) 12. 制限検索(グループワーク) 13. スニペット活用(グループワーク) 14. フィードバック検索(グループワーク) 15. まとめ 		
【履修条件】	ウェブ閲覧ソフトウェア(インターネット・エクスプローラやグーグル・クローム等)の使用経験があること。また、Web 学生サービス支援システムおよびメールシステムを使用するため、学内アカウントによるログイン経験があること。		
【評価方法】	個別レポート課題(42%)、附属図書館講習の演習課題成績(10%)、グループ課題(48%)の合計点数で評価する。		
【テキスト】	講義中に適宜提示する		
【参考書】			
【備考】	IT 企業にて電子商取引やポータルサイト構築経験のある教員が、その経験を活かして、本実習を講義する。経営情報学部の講義と一部重複するので、経営情報学部の学生は受講できない。 本講義は原則、対面講義です。ただし、感染症拡大等の事情があった場合には遠隔講義にて行われます。		
【社会人聴講生】		【科目等履修生】	【交換留学生】

【科目名】	数理・データサイエンス・AI 入門	Introduction to Mathematics, Data Science and Artificial Intelligence			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	月曜 6 限		
【科目責任者】	武藤伸明				
【担当教員】	武藤伸明、六井淳、栗木清典、中野祥吾、橋本博、伊藤由彦、青山知靖、宮崎晋生、堀芽久美、山田紋子				
【授業目標】	現在社会のさまざまな局面で活用される、数理・データサイエンス・AI と関連する情報技術について、基本的な概念や考え方を学ぶ。				
【授業概要】	数理・データサイエンス・AI を構成し支える学問や技術、その応用について学習する。特に次のことを学ぶ。 1. 数理・データサイエンス・AI が現代社会の基盤をなすものであることを理解し、各分野における活用事例を学ぶ 2. データから特徴を抽出し、可視化する方法を理解し、より高度なデータ分析の例を学ぶ 3. 個人情報保護やデータの収集や活用における倫理、データを活用する社会におけるリスクを学ぶ 4. データサイエンスに関連する情報技術や人工知能技術を学ぶ				
【授業方法】	オンデマンド形式で授業を実施する。数理・データサイエンス・AI について動画を視聴する。授業は全 8 回で、授業への取り組みと試験またはレポートにより成績評価する。				
【授業展開】	1. ビックデータと AI、社会における活用 2. 統計学入門 —尺度水準と代表値— 3. データの可視化 4. データの関係を調べる —相関係数、回帰直線、相関関係と因果関係— 5. データ分析の流れ —データの収集、データの保存、前処理、データの前処理、分析手法の選択、回帰分析— 6. データの取り扱い 1 —個人情報保護法、データの取り扱いに関する注意、情報セキュリティ— 7. データの取り扱い 2 —情報の信頼性、改竄、再現性、チャンピオンデータ— 8. PPDAC サイクル、人工知能と機械学習				
【履修条件】	なし				
【評価方法】	授業への取り組み (50%) と試験またはレポート (50%) により成績評価する。他人のレポートをコピーした場合、成績を不可とする。				
【テキスト】	動画による講義資料として配信する。				
【参考書】	授業中に適宜指示する。				
【備考】	・令和6年度以降入学生は必修科目であり、卒業要件に該当する。ただし、進級要件については各学部の定めによる。 ・【遠隔授業】オンデマンド形式で授業を実施する。 参考資料: 文部科学省 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度 (リテラシーレベル) https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/suuri_datascience_ai/00002.htm				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	ヒューマン・ケア	Human Care			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	木曜 1 限		
【科目責任者】	*飯島本子				
【担当教員】	*飯島本子				
【授業目標】	聴覚障害を理解すると共に、ろう者の言語である手話を学ぶ。				
【授業概要】	聴覚障害や、手話の基礎知識、歴史、福祉施策について学び、基本的な手話を習得する。				
【授業方法】	講義・実技を通して手話指導を行なう。 障害当事者の体験について学ぶ。				
【授業展開】	1 講義:「聞こえないということ」・手話実技 2 講義:「手話とは」・手話実技 3 講義:「ろう者の歴史」・手話実技 4 講義:「手話の基礎知識」・手話実技 5 講義:「聴覚障害の基礎知識」・手話実技 6 講義:「家族、趣味、職業」・手話実技 7 講義:「ろう者のスポーツ」「ろう文化①」・手話実技 8 講義:「ろう教育」・手話実技 9 講義:「ろう者の学生時代」・手話実技 10 講義:「手話言語条例」・手話実技 11 講義:「手話通訳者と通訳活動」・手話実技 12 講義:「ろう者の生活、防災」・手話実技 13 講義:「手話通訳士になるまで／全国手話検定試験とは」 14 講義:「手話の広がり」「ろう文化②」・手話実技 15 講義:試験 ※講義内容は順番が変わる場合があります。 ※講義はすべてテキストを使用 ※内、2 回ろう者講師による講義・実技指導あり。				
【履修条件】	受講を希望する者は、第1回目の授業を必ず受講してください。 履修登録は先着順に 100 人まで受け付けます。 授業は公共交通機関の遅延以外は、9時を過ぎると入室不可です。				
【評価方法】	ペーパー試験 ※状況によっては変更する可能性があります。その都度ユニパでお知らせします。				
【テキスト】	公益社団法人静岡県聴覚障害者協会発行テキストを使用します。 『静岡発～手話は言語～手話学習テキスト』1,000 円(非課税対象) 大学内の書店では扱いません。 ●第1回講義(4月11日(木)1限)および第2回講義(4月25日(木)1限)において販売します。 第3回講義以降での販売は行いません。				
【参考書】	なし				
【備考】	手話通訳士資格を持つ公益社団法人静岡県聴覚障害者協会職員が、聴覚障害や手話の基礎知識、歴史、福祉施策、基本的な手話について指導する。				
【社会人聴講生】	本学学生の受講が定員を下回った場合に限り、社会人聴講生の聴講を受け入れる。 履修条件については本学学生と同一。	【科目等履修生】	本学学生の受講が定員を下回った場合に限り、科目等履修生の受講を受け入れる。 履修条件については本学学生と同一。	【交換留学生】	

【科目名】	TOEFL 留学英語 I	TOEFL English for Studying Abroad I			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	金曜 1 限		
【科目責任者】	小田透				
【担当教員】	*小田透				
【授業目標】	この授業では、北米の大学・大学院留学に必要な TOEFL (Test of English as a Foreign Language) で求められる英語技能およびテスト形式やその内容について理解するとともに、スコアの向上を目指す。TOEFL-ITP (reading と listening) 対策を中心に授業を展開し、最終的には TOEFL iBT 70 点以上のスコアを取得できるように学習を進めて行く。				
【授業概要】	TOEFL は海外の大学で英語での授業内容を理解、英語での意見交換や議論提供、英語での試験やレポート作成に必要な英語力を測定するテストである。特に、アカデミックな環境において情報量の多い講義を理解し、ノートを取って教科書や文献を読み要点を把握していくためには、上級レベルの英語力が求められる。本授業では、様々な学術分野に関するポキャプラーを学習し、複雑な文法事項をしっかりと理解することで、基礎英語力を強化する。その上で、英語耳を育てるリスニング、読解・速読の習得に取り組み、アカデミック英語力の向上を図る。				
【授業方法】	テキストを使用し、演習形式で行う。科目の達成目的とその特性を考えて、この授業では「反転学習」を試みる。受講生は毎週出される課題を必ず予習し参加する。クラスでは、それらの結果に基づき、学習上のむずかしいと思われる点について討議し、わかりやすく詳細に説明して問題解決を図る。				
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction & Pre-test 2. Reading - Learning how academic readings are organized 3. Reading - Question types and their purposes 4. Reading - Timed reading 5. Reading - Practice set 1 6. Reading - Practice set 2 7. Reading - Practice set 3 8. Reviewing reading skills 9. Listening - Question types 10. Listening - Understanding campus talks 11. Listening - Understanding long lectures 12. Listening - Practice set 1 13. Listening - Practice set 2 14. Listening - Practice set 3 15. Reviewing listening skills 				
【履修条件】	受講生は、TOEIC スコア 730 点以上、英検準 1 級、またはそれと同等の英語力を持っていることが望ましい。学期末には TOEFL ITP テストを受験すること。				
【評価方法】	授業で予定される教科書の範囲を予習し、その解答に基づいて授業に積極的に参加する必要がある。単位取得には、3分の2以上の出席と課題提出等が必須である。				
【テキスト】	The Official Guide to the TOEFL Test, Sixth Edition (McGraw-Hill)				
【参考書】	改訂新版 TOEFL TEST 必須英単語 5600 (ベレ出版)				
【備考】	プロフェッショナルな実務経験を有する教員が、転換可能な技能を活かして、学生の英語学習を指導する。後期開講の TOEFL 留学英語 II への受講に繋がるような学習を期待する。				
【社会人聴講生】	不可。	【科目等履修生】	可。	【交換留学生】	不可。

【科目名】	TOEFL 留学英語Ⅱ	TOEFL English for Studying Abroad Ⅱ		
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	金曜 1 限	
【科目責任者】	小田透			
【担当教員】	*小田透			
【授業目標】	この授業は、北米の大学・大学院への留学に必要な TOEFL (Test of English as a Foreign Language) で求められている技能およびテスト形式やその内容についてさらに理解を深めて、スコア向上を目指す。特に、TOEFL iBT の Speaking と Writing タスクを中心に扱い、iBT 70 点以上のスコアが取得できるように学習を進めて行く。			
【授業概要】	TOEFL は海外の大学で英語での授業内容を理解、英語での意見交換や議論提供、英語での試験やレポート作成に必要な英語力を測定するテストである。特に、アカデミックな環境において情報量の多い講義を理解し、ノートを取り、教科書や文献を読み要点を把握していくためには、上級レベルの英語力が求められる。本授業では、実践問題を通して、留学先で必要となる Speaking 及び Writing の技能を高める。また、学習者が誤りやすいボキャブラリー、文法事項等をピンポイントで学習する事により、さらなる英語力の向上を図る。			
【授業方法】	テキストを使用し、演習形式で行う。科目の達成目的とその特性を考えて、この授業では「反転学習」を試みる。受講生は毎週出される課題を必ず予習し参加する。クラスでは、それらの結果に基づき、学習上のむずかしいと思われる点についてグループで討議し、担当教員がわかりやすく詳細に説明して問題解決を図る。			
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction & Pretest 2. The writing section 3. Integrated writing tasks and scoring rubric 4. Writing – Practice set 1 5. Independent writing tasks and scoring rubric 6. Writing – Practice set 2 7. Timed writing 8. Reviewing writing skills 9. The speaking section 10. Independent speaking and scoring rubric 11. Speaking – Practice set 1 12. Integrated reading/listening/speaking 13. Speaking – Practice set 2 14. Timed speaking 15. Reviewing speaking skills 			
【履修条件】	受講生は、TOEIC スコア 730 点以上、英検準 1 級、またはそれと同等の英語力を持っていることが望ましい。受講期間内に TOEFL iBT Online Practice Test を必ず受験すること。(詳細は初回授業にて案内する。)			
【評価方法】	授業で予定される教科書の範囲を予習し、その解答に基づいて授業に積極的に参加する必要がある。単位取得には、3分の2以上の出席と課題提出等が必須である。			
【テキスト】	The Official Guide to the TOEFL Test, Sixth Edition (McGraw-Hill)			
【参考書】	改訂新版 TOEFL TEST 必須英単語 5600 (ペレ出版)			
【備考】	プロフェッショナルな実務経験を有する教員が、転換可能な技能を活かして、学生の英語学習を指導する。			
【社会人聴講生】	不可。	【科目等履修生】	可。	【交換留学生】

【科目名】	TOEIC ビジネス基礎英語	TOEIC Business English-Basic			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	金曜 3 限		
【科目責任者】	堀内裕晃				
【担当教員】	堀内裕晃				
【授業目標】	本授業では、TOEIC (Test of English for International Communication) 用の教材を用いて、中高校までの英語知識の復習と定着を図りつつ、スコアの向上を目指します。				
【授業概要】	授業では、TOEIC 用のテキストやプリント教材を用いて演習を行います。TOEIC L&R に頻出する単語と文法の復習をし、その定着を図り、500 点獲得を目指します。				
【授業方法】	毎週単語・熟語や基本表現の小テストを行い、語彙と基本表現の定着を図ります。教科書のリスニング課題とリーディング課題はクラスにおいて演習の形でを行います。文法については、事前に教科書の解説を読んでください。また、テキスト以外に文法・語法を強化するためのプリント教材も使用します。授業で取り上げるトピック及び重視する事項は以下のような構成となります。				
【授業展開】	1. Introduction 2. Unit 1 Travel 3. Unit 2 Dining Out 4. Unit 3 Media 5. Unit 4 Entertainment 6. Unit 5 Purchasing 7. Unit 6 Clients 8. 中間試験 9. Unit 7 Recruiting 10. Unit 8 Personnel 11. Unit 9 Advertising 12. Unit 10 Meetings 13. Unit 11 Finance 14. Unit 12 Offices 15. Unit 13 Daily Life 16. 期末試験				
【履修条件】	中高校で学習した基礎英語力を習得していること。Web での先着順で 30 名を定員とします。				
【評価方法】	学期末試験を受験するためには、3 分の 2 以上の出席が必要です。 小テスト(30%) 中間試験(35%) 期末試験(35%)				
【テキスト】	Score Booster For the TOEIC L & R Test Pre-Intermediate (金星堂)				
【参考書】	クラスで適宜紹介します。				
【備考】	授業での積極的な取り組みが重要です。定員は Web にて先着 30 名とします。				
【社会人聴講生】	社会人聴講生聴講 不可。	【科目等履修生】	可。	【交換留学生】	

【科目名】	TOEIC ビジネス基礎英語	TOEIC Business English-Basic			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	金曜 3 限		
【科目責任者】	堀内裕晃				
【担当教員】	堀内裕晃				
【授業目標】	本授業では、TOEIC (Test of English for International Communication) 用の教材を用いて、中高校までの英語知識の復習と定着を図りつつ、スコアの向上を目指します。				
【授業概要】	授業では、TOEIC 用のテキストやプリント教材を用いて演習を行います。TOEIC L&R に頻出する単語と文法の復習をし、その定着を図り、600 点獲得を目指します。				
【授業方法】	毎週単語・熟語や基本表現の小テストを行い、語彙と基本表現の定着を図ります。教科書のリスニング課題とリーディング課題はクラスにおいて演習の形でを行います。文法については、事前に教科書の解説を読んでください。テキスト以外に文法・語法強化のためのプリント教材を使用します。授業で取り上げるトピック及び重視する事項は以下のような構成となります。				
【授業展開】	1. Introduction 2. Unit 1 Travel 3. Unit 2 Dining Out 4. Unit 3 Media 5. Unit 4 Entertainment 6. Unit 5 Purchasing 7. Unit 6 Clients 8. 中間試験 9. Unit 7 Recruiting 10. Unit 8 Personnel 11. Unit 9 Advertising 12. Unit 10 Meetings 13. Unit 11 Finance 14. Unit 12 Offices 15. Unit 13 Daily Life 16. 期末試験				
【履修条件】	中高校で学習した基礎英語力を習得していること。Web での先着順で 30 名を定員とします。				
【評価方法】	学期末テストを受けるためには、2/3 の出席が必要です。 小テスト(30%) 中間試験(35%) 期末試験(35%)				
【テキスト】	Score Booster for the TOEIC L&R Test Intermediate (金星堂)				
【参考書】	クラスで適宜紹介します。				
【備考】	定員は Web にて先着 30 名とします。				
【社会人聴講生】	社会人聴講生聴講 不可。	【科目等履修生】	可。	【交換留学生】	

【科目名】	TOEIC ビジネス英語 I	TOEIC Business English I	
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	水曜 1 限
【科目責任者】	山本好比古		
【担当教員】	*山本好比古		
【授業目標】	本授業では、さまざまなビジネスコミュニケーションの場面に必要な英語力の測定を目的とした TOEIC (Test of English for International Communication) L&R + Writing のスコアアップを目指す。		
【授業概要】	授業は対面で実施される。学習はグローバルなビジネスコミュニケーションに不可欠となってきた英語力の基本的なスキル — リスニング力、語彙・文法の知識、リーディング力に加え、ライティング力 — の習得を目指して進めて行く。特に、ビジネスシーンに特有な会話文・広告・メール・アナウンスメント等に使用される文型・語彙・表現に重点を置き、理解の向上に努める。		
【授業方法】	テキストに基づく演習形式で進めて行く。特に、学習では焦点を問題を解き復習で知識の定着に置き、頻出度の高いポキャブラリー、間違いやすい問題を重点的に習得し、さらなるスコアアップ(800 点以上)を目指す。学期末に実施される TOEIC L&R + Writing テストに向けて実践的な解決策を学習する。		
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション TOEIC について 2. Part 5 語彙の問題 3. Part 5 文法の問題 4. Part 2 応答問題 5. Part 6 長文読解 6. Write a sentence based on a picture 7. Part 3 会話問題 8. 中間テスト 9. Part 3 会話問題 10. Part 7 文章 11. Writing -respond to a written request 12. Part 4 説明文問題 13. Write an opinion essay 1 14. Write an opinion essay 2 15. まとめ 16. 期末テスト+TOEIC L&R IP テスト+TOEIC Writing IP テスト 		
【履修条件】	<p>本授業は、TOEIC L&R + Writing のスコアアップに強い興味を持ち、積極的に TOEIC L&R 及びライティングの課題に取り組める学生を対象とする。初回授業時に抽選を行うので、履修希望者は初回授業前に UNIPA 上で登録を行わず、必ず初回授業に出席すること。</p> <p>TOEIC L&R 730 点(または英検準1級)以上を取得していることが望ましい。</p> <p>履修希望者は初回授業時に TOEIC L&R 730 点(目安とする)のスコアシートまたは英検準1級の証書(コピー可)を提示してください。未受験の場合は初回授業時に相談すること。定員は 30 名とする。</p>		
【評価方法】	<p>授業で予定される教科書の範囲を予習し、授業で学んだことを繰り返し練習する事が重要である。単位取得には、3分の2以上の課題、クイズの提出および TOEIC L&R IP テストの受験が必須である。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 受講生は学期末に実施される TOEIC L&R IP を受験する事(3 年生以上は実費) * 受講生は学期末に実施される TOEIC Writing IP テストも受験すること(受験料は実費) * 学期末に TOEIC L&R IP と TOEIC Writing IP の両方を受験すること(TOEIC L&R IP の代わりに、TOEIC L&R 公開テストでも可能:受験料は実費) 		
【テキスト】	公式 TOEIC? Listening & Reading 問題集 10 (国際ビジネスコミュニケーション協会)		
【参考書】	公式 TOEIC Speaking & Writing ワークブック(国際ビジネスコミュニケーション協会) *後期にテキストとして使用予定		
【備考】	毎回の予習及び課題提出が重要である。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可
		【交換留学生】	

【科目名】	TOEIC ビジネス英語 II	TOEIC Business English II		
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	水曜 1 限	
【科目責任者】	山本好比古			
【担当教員】	山本好比古			
【授業目標】	本授業では、さまざまなビジネスコミュニケーションの場面に必要な英語力の測定を目的とした TOEIC (Test of English for International Communication) Speaking のスコアアップを目指す。			
【授業概要】	授業は対面で実施される。学習はグローバルなビジネスコミュニケーションに不可欠となってきた英語力の基本的なアウトプットスキル、特にスピーキング力の習得を目指して進めて行く。ビジネスシーンに特有な会話を意識しながら、様々な状況下で英語で即応できるの能力の訓練を行う。			
【授業方法】	テキストに基づく演習形式で進めて行く。Q&A、描写、意見陳述などの課題にペアまたはグループで取り組みながら、英語の発音、語彙、文法、構成など様々な側面から自分のスピーキング力を内省する訓練を行う。また、毎回実施するスピーキングクイズを通して即応力を養っていく。あわせて、アウトプットの観点から、TOEIC L&R テストの分析も行ってみたい。			
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション TOEIC Speaking について 2. Read a text aloud 3. イントネーション練習 4. Respond to questions 5. 文法事項の確認 6. Respond to questions using information provided 7. Speaking における構成 8. 中間テスト 9. Describe a picture 10. Brainstorming 11. Express an opinion 12. 実践練習 1 13. 実践練習 2 14. 実践練習 3 15. TOEIC L&R との関わり 16. 期末テスト+TOEIC Speaking IP テスト 			
【履修条件】	本授業は、TOEIC Speaking に強い興味を持ち、積極的に Speaking の課題に取り組める学生を対象とする。初回授業時に抽選を行うので、履修希望者は初回授業前に UNIPA 上で登録を行わず、必ず初回授業に出席すること。 定員は 25 名とする			
【評価方法】	授業で予定される教科書の範囲を予習し、授業で学んだことを繰り返し練習する事が重要である。単位取得には、3分の2以上の課題、クイズの提出および TOEIC Speaking IP テストの受験が必須である。			
【テキスト】	公式 TOEIC Speaking & Writing ワークブック(国際ビジネスコミュニケーション協会)			
【参考書】	授業中に適宜紹介する。			
【備考】	毎回の予習及び課題提出が重要である。			
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】

【科目名】	自然科学概論	Science of Light			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	木曜 1 限		
【科目責任者】	橋本 博				
【担当教員】	橋本 博、原 幸大、菱木麻美、淵上壮太郎、轟木堅一郎、古庄 仰、近藤 啓、照喜名孝之				
【授業目標】	現代は科学技術の時代である。この科学技術の中核を担う物理学、化学そして生物学は、西洋世界でどのような経緯で生まれ、発展してきたのだろうか。この自然科学の発展に伴い、我々の自然観、科学観も大きく変質してきている。また、現代のイノベーションを推進する巨大科学とプロジェクト科学、および環境との共生を目指す視点が求められている。さらに、エセ科学の蔓延などの問題も抱えており、生命観、宗教観および倫理観までの波及を思考することが求められている。これらの問題意識をもって、西洋 2000 年の通史を俯瞰し、最新の科学と技術も				
【授業概要】	<p>大まかに次の4主題に別けて概説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自然科学通史(自然哲学から近代科学へ、科学倫理) 2. 光と物質(光とは何か、量子化学の誕生、原子・分子が見える) 3. 「はかる」の科学 4. 環境、健康科学での科学技術の展開 				
【授業方法】	配布するプリントを使用したオムニバス講義を行う。演習形式も取り入れた形成評価も実施して学習効果を計る。対面授業を予定しているが、状況に応じて遠隔講義となる可能性もある。				
【授業展開】	<p>()内はキーワード</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 科学史 2. 科学論文 3. 科学技術と科学者の役割 4. 光の科学史 5. 波動の性質 6. 計算科学の発展 7. 分析科学とは(分析技術の進歩、これから目指すもの) 8. 臨床と分析科学(画像診断、診断キット、遺伝子診断など) 9. 食品と分析科学(食品分析、機能性表示食品、残留農薬分析など) 10. 裁判と分析科学(科学鑑定、DNA 鑑定、薬物鑑定、ドーピング検査など) 11. 環境と分析化学(環境分析、年代測定、放射線測定など) 12. 先端技術と倫理(1) 13. 先端技術と倫理(2) 14. くすりの開発とアドヒアランス 15. まとめ(現代科学技術の問題点など) 				
【履修条件】	理(医療)系の学生を主な対象としているが、文系の学生にも分かり易く説明し、数式などはあまり使わない。				
【評価方法】	授業への取り組み、課題、レポートなどの総合評価。				
【テキスト】	なし(必要に応じてプリントを配布)。				
【参考書】	随時指定(図書館に配備されているものを指示する)。				
【備考】	<p>・講義ごとに演習、レポート作成を課すので、遅刻などは厳禁である。全講義回数数の 3 分の 2 以上の出席を単位認定のための必要条件とする。薬学部の生命物理化学分野、生体機能分子分析学分野、創剤科学分野の構成教員が分担する。</p> <p>・製薬メーカーの研究所で研究者として医薬品研究開発に携わった経験のある教員が、企業の研究開発業務で考慮されている倫理観を交え、科学・技術の進展と生命倫理について解説する。</p> <p>・基本的には対面講義形式をとるが、場合によってはオンライン講義形式等もある。</p>				
【社会人聴講生】	聴講可	【科目等履修生】	聴講可	【交換留学生】	聴講可

【科目名】	化学入門	Introduction to Chemistry			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	水曜 1 限		
【科目責任者】	眞鍋 敬				
【担当教員】	眞鍋 敬、濱島義隆、大内仁志				
【授業目標】	21 世紀を豊かに生きるために、日常の生活をとりまく物質に関する入門的知識を養うとともに、エネルギー、環境、生命と化学のかかわりを地球規模で概観する。				
【授業概要】	我々の暮らしには化学が大きくかかわっていることを理解する。次いで、物質化学の基礎的知識を学習し、さらに衣、食、住、環境、エネルギー、生命にかかわる化学を概観する。高等学校で化学を学習していない学生にもわかりやすい授業を行う。 【薬学部および食品栄養科学部の学生は受講できない。】				
【授業方法】	授業方法 対面で行う。				
【授業展開】	1 化学物質の基礎(物質の基本粒子としての原子とその種類、分子とイオン、化合物の分類) 2 生活の物質と化学-1(生活のなかの無機化合物、有機化合物、洗剤、染料) 3 生活の物質と化学-2(衛生用品と化粧品、香料、貴金属) 4 高分子化合物と生活物質-1(高分子化合物) 5 高分子化合物と生活物質-2(繊維、ゴム) 6 生命と物質-1(生命活動を支える基本的物質、タンパク質) 7 生命と物質-1(核酸、ビタミンとホルモン、医薬品) 8 食品と健康の化学-1(炭水化物、油脂) 9 食品と健康の化学-2(アミノ酸とタンパク質、食品の保存と食品添加物、ミネラル) 10 環境の化学-1(人間活動が自然環境におよぼす影響、酸性雨、窒素酸化物、二酸化炭素) 11 環境の化学-2(フロンとオゾン層) 12 環境の化学-3(化学物質、殺虫剤、農薬、環境ホルモン) 13 エネルギーの化学と環境-1(エネルギー資源、石油、石炭) 14 エネルギーの化学と環境-2(バイオマスと自然エネルギー、原子力、エネルギーと環境問題) 15 地球環境(人間活動と地球環境、地球温暖化)				
【履修条件】	【薬学部および食品栄養科学部の授業と一部重複するので、薬学部および食品栄養科学部の学生は受講できない。】				
【評価方法】	原則として、定期試験 100%とし、出席態度を考慮して総合評価する。 特別な理由なくして5回以上欠席相当となったものは試験の受験資格なし。				
【テキスト】					
【参考書】	「日常の化学 新訂版」-地球環境と生活様式の変革のために-、渡辺啓著、サイエンス社 その他、必要に応じ、担当教員から紹介する。				
【備考】	【薬学部および食品栄養科学部の授業と一部重複するので、薬学部および食品栄養科学部の学生は受講できない。】				
【社会人聴講生】	聴講を認める。	【科目等履修生】	聴講を認める。	【交換留学生】	聴講を認める。

【科目名】	生物学入門	Introduction to Biology			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	木曜 1 限		
【科目責任者】	吉成浩一				
【担当教員】	吉成浩一、*浅井知浩、梅本英司、竹内英之、高橋忠伸、大橋若奈、小出裕之、米澤 正、志津怜太、紅林佑希、疋田智也				
【授業目標】	教養としての基礎生物学全体を把握する。本講義を通して科学的なものの見方や考え方も学ぶ。				
【授業概要】	生物を理解するための基礎として、生態系、種、細胞から生物を構成する分子の基礎について講義する。生物の動的な側面である代謝、生物の設計図である遺伝子、生物としての安定性を担う恒常性(免疫を含む)について講義する。				
【授業方法】	講義形式で進める。				
【授業展開】	1 生物とは何か 2 生態系、種 3 細胞 4 生物の分子:アミノ酸、タンパク質、糖質 5 生物の分子:脂質、核酸 6 代謝:エネルギーと代謝 7 代謝:主要代謝経路 8 代謝:脂質・タンパク質の代謝、 9 遺伝:遺伝子の転写、翻訳、変異、修復、遺伝子疾患、がん 10 遺伝:遺伝子多型、個人差、個別化医療 11 恒常性:受容体の種類と細胞シグナル、受容体とホルモン 12 恒常性:シグナル伝達、細胞接着分子 13 恒常性:品質管理、遺伝子組換え動物 14 恒常性:免疫 15 まとめ				
【履修条件】					
【評価方法】	授業への取り組み(課題・レポート提出、授業態度、質疑応答等)で評価する(100%)。単位取得には2/3以上の出席を必要とする。				
【テキスト】	必要に応じてプリントを配布する。				
【参考書】	参考書: (1) 新しい教養のための生物学(赤坂甲治著)裳華房 2017 年 (2) 生物科学入門:代謝・遺伝・恒常性 (白木賢太郎著)東京化学同人 2009 年 (3) ヒトを理解するための 生物学(八杉貞雄 著)裳華房 2013 年 (4) 若い読者のための第三のチンパンジー(ジャレド・ダイヤモンド著)草思社文庫 2017 年 (5) レーニンジャーの新生化学 第 7 版 上下 2015 年 廣川書店 (6) キャンベル・ファーレル生化学 第 6 版 2010 年 廣川書店 (7) 細胞の分子生物学 第 6 版				
【備考】	薬剤師業務や医薬品開発に携わった経験を持つ教員が、生体を構成する分子の働きや代謝に関連する医薬品や診断薬について発見の歴史、作用機序、臨床応用等について講義する。				
【社会人聴講生】	聴講可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	可

【科目名】	薬剤発達史入門	Introduction to history of the Drugs			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	金曜 1 限		
【科目責任者】	*賀川 義之				
【担当教員】	*賀川義之、石川智久、*伊藤邦彦、*尾上誠良、黒川洵子、*森本達也、*山田浩				
【授業目標】	文系・理系に関係なく、各専門領域を学ぶ際のモチベーションを高め、問題解決の糸口がつかめるようになるために、くすりや医療の発展におけるエピソードを通して難問に対する取り組み方を具体的に説明できる。				
【授業概要】	<p>人類の繁栄に大きく貢献してきたくすりの発見や開発に関わってきた人々のひらめき、取り組み方、苦悩・挫折をナラティブに学ぶことで、学問に対するモチベーションを高めると共に、難問を解決するための前向きな姿勢や手法を修得する。</p> <p>薬学部の教授陣が、文系の学生にも理解しやすいように難解な数式を使わず、平易に医薬品開発の歴史を説明する。</p>				
【授業方法】	<p>テキスト、パワーポイント、プリント等を用いて講義形式で進める。</p> <p>基本的には対面講義形式をとるが、場合によってはオンライン講義形式等もある。</p>				
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> 1 ビタミン学のはじまり 2 生命現象解明へのアプローチ 3 視床下部ホルモンをめぐる闘争 4 ノーベルが欲しかった化合物 5 毒トカゲが糖尿病の救世主?! 6 生物における右と左の秘密 7 漢方薬から覚醒剤 8 ヤナギの小枝が痛みを止めた 9 結晶化された初めてのホルモン 10 毒ガスから生まれた制ガン剤、解明されたフグ毒の不思議 11 遺伝子の正体の解明、遺伝子治療へのアプローチ 12 最長の歴史を持つ医薬品、脳内にあったモルヒネ様物質 13 化学療法のはじまり 14 化学者が放った魔法の弾丸 15 まとめ 				
【履修条件】	なし				
【評価方法】	原則として、課題レポートに加えて、ミニレポートや出席態度等授業への取り組みを考慮して総合評価する。全講義回数の 2/3 以上の(出席及びミニレポートの提出)が単位認定に必須である。				
【テキスト】	<テキスト> 東京化学同人 化学のとびらシリーズ 27 「歴史の中の化合物 くすりと医療の歩みをたどる 山崎幹夫著				
【参考書】	特になし				
【備考】	<p>基本的には対面講義形式をとるが、場合によってはオンライン講義形式等もある。</p> <p>実務家としての経歴</p> <p>*賀川義之: 薬剤師としての臨床経験を生かして、基礎研究と臨床研究の重要性を解説する</p> <p>*伊藤邦彦: 薬剤師としての臨床経験を生かして、基礎研究の成果がどのように社会に貢献しているかを解説する</p> <p>*尾上誠良: 製薬企業の研究者としての経験を生かして、新薬開発のプロセスとその成果を解説する。</p> <p>*森本達也: 医師としての臨床経験を生かして、基礎研究の成果がどのように社会に貢献しているかを解説する</p> <p>*山田浩 : 医師としての臨床経験を生かして、基礎研究と臨床研究の重要性を解説する</p>				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	可

【科目名】	物理学入門	Introduction to Physics			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	木曜 1 限		
【科目責任者】	本同宏成				
【担当教員】	本同宏成、下山田真、村上和弥				
【授業目標】	力学、熱力学、電磁気学の身近な例を通じて、物理学におけるエネルギーの具体的なイメージを構築するとともに、古典物理学から現代物理学までを概説することで、自然科学の基礎としての物理学の重要性を理解する。				
【授業概要】	本講義では高校で物理学を履修していない学生に直感的に理解してもらえよう、図や動画を用いて物理学の理解を目指す。身近な現象やデモンストレーション実験、演習問題などの具体的な例を通して、高校物理学程度の内容からかいつまんで学ぶ。				
【授業方法】	下記の内容に沿って講義を行う。また必要に応じて動画を用いたり簡単な模擬実験を行う。授業は対面で開講する予定であるが新型コロナ対策としてオンライン開講(Zoom)もしくはオンデマンドもありうる。				
【授業展開】	1 ガイダンス(物理学とは何だろうか) 2 ニュートン力学(身の回りの力学) 3 ニュートン力学(様々な力) 4 ニュートン力学(万有引力と宇宙開発) 5 仕事とエネルギー(エネルギー保存則) 6 仕事とエネルギー(エネルギーの様々な姿) 7 熱力学(熱とは何か) 8 熱力学(反応の方向を決める自由エネルギー) 9 電磁気(電場と磁場) 10 電磁気(電場と磁場と力) 11 波(波を構成する要素) 12 光の正体(光の波としての性質と粒子としての性質) 13 波と粒子(波と粒子の二重性) 14 量子力学(量子力学から見た生物物理) 15 まとめ				
【履修条件】	なし				
【評価方法】	教員ごとに試験、課題もしくはレポート、および授業への取り組みにより評価する。なお特別な理由なく課題、レポートの提出が遅れた場合は受け取らない。100点満点中60点以上を合格とする。				
【テキスト】	視覚でとらえるフォトサイエンス物理図録、数研出版				
【参考書】					
【備考】	食品栄養科学部および薬学部の授業と一部重複するので、食品栄養科学部および薬学部の学生は受講できない。また出席率が2/3に満たない場合は単位の認定を行わない。				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	不可

【科目名】	環境科学入門	Introduction to environmental sciences			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	火曜 1 限		
【科目責任者】	谷 幸則				
【担当教員】	谷 幸則、*原 清敬、小牧裕佳子、徳村雅弘、梅澤和寛				
【授業目標】	環境問題とは、人間活動に起因する周囲の環境変化により発生した問題と捉えることができる。人類は数百万年前に誕生して以来、自然環境を利用しながら文明を発展させてきた。すなわち、人類は原始的な狩猟採集生活から脱皮して農業生産を開始し、やがて天然資源を利用して工業生産を行うことにより、高い生産性と利便性を手に入れてきた。しかし、その過程で天然資源の浪費や自然環境の破壊など、自然環境に負担をかけてきたことも事実である。環境科学の役割は、具体的な環境問題の発生原因や発生機構を明らかにして、その解決策をさまざまな観点から				
【授業概要】	まず人間活動と環境との関わりについて概説した後、主として大気・水・土壌の汚染、化学物質や放射能による汚染、水・食品の安全性、ごみ・廃棄物の現状について説明する。また、環境化学物質の生物濃縮とその毒性、各種環境保全活動、エネルギー・資源問題(食料・水資源を含む)について解説する。				
【授業方法】	本授業では、環境問題全般を網羅し、平易に書かれた環境科学の入門書(テキスト)を使用し、食品栄養科学部・環境生命科学科の教員 5 名がそれぞれの専門に応じて分担する。				
【授業展開】	教科書を用いて、各章について下記の通りに講義を展開する。 1. 人間活動と環境とのかかわり(講義ガイダンスも兼ねる)(谷)(4/16) 2. 環境変化にともなう異変(梅澤)(4/23) 3. 大気汚染(梅澤)(4/30) 4. 水質汚染(梅澤)(5/7) 5. 化学物質汚染研究の基礎(谷)(5/14) 6. 土壌汚染(谷)(5/21) 7. 化学物質による汚染(谷)(5/28) 8. 放射能汚染(小牧)(6/4) 9. 汚染物質の毒性と生体内での代謝(小牧)(6/11) 10. 内分泌攪乱物質(小牧)(6/18) 11. アセスメント手法(原)(6/25) 12. ごみと廃棄物(原)(7/2) 13. エネルギー資源と環境問題(原)(7/9) 14. 飲料水と食品のに関する今後の課題(徳村)(7/23) 15. 環境活動の実践と環境倫理(徳村)(7/30)				
【履修条件】					
【評価方法】	出席2/3 以上を単位認定の条件とする。各教員が提示した課題・レポートで評価する(担当教員 1 名につき各 20 点、合計 100 点満点で 60 点以上を合格とする)。				
【テキスト】	川合真一郎・張野宏也・山本義和著「環境科学入門 地球と人類の未来のために 第 2 版」、化学同人 ISBN 9784759819403(https://www.kagakudojin.co.jp/book/b345223.html)				
【参考書】					
【備考】	受講人数を 200 名とする。履修登録順に受け入れるため、履修登録を早めに済ませること。 * 発酵企業での勤務経験を活かして企業における環境工学的取り組みについて講義する。				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	可(ただし、すべて日本語の講義である)

【科目名】	哲学入門	Introduction to philosophy			
【開講時期】	2024年度前期	【開講時限】	火曜1限		
【科目責任者】	飯野勝己				
【担当教員】	飯野勝己				
【授業目標】	<ul style="list-style-type: none"> ・哲学とは何か、何を問題にし、どのように考えてきたかについての理解を得る。 ・哲学史の大きな流れをつかみ、その長い歴史でどのような思考が紡がれ、どんな世界観や人間観が形成されてきたかを知る。 ・自分自身が感じる素朴な疑問や謎について、哲学ではどのような問題としてとらえられ、どのように考えられてきたかを知る。 ・哲学に触れることで、〈あたりまえ〉を疑い、「根本から考える」という姿勢を身に付ける。 				
【授業概要】	<p>「テツガクって難しそう」。多くの人がそう思っているし、実際、哲学書にはきわめて難解なものが多いのも事実だ。しかし一方で、哲学は非常に「身近」なものでもある。誰もが感じる素朴な疑問や不思議、子供のころからひそかに思ってきたさまざまな「なぜ?」、そういう身近で素朴なところから、哲学は始まる。「現実はもしかしたら夢かもしれない」「どうして他人に心があるといえるのか」といったことをなんとなく考えることがあるとしたら、人はもう哲学を始めている。哲学が難しいのは、いろいろな「あたりまえ」を取り払って、こういう素朴な疑問にできるかぎり「素」の状態を取り組もうとする営みだからだ。</p> <p>この授業は、そんな哲学の世界への入口へ、できるだけわかりやすく案内することを目的とする。哲学への「入り方」には、大きく二つある。一つは、2000年以上にわたる哲学史の中で哲学者たちが何をどう考えてきたのかを、大きな流れをつかみつつ知ること。もう一つは、上で述べたような個々の具体的な疑問やテーマから入ること。どちらも有効なアプローチだし、それぞれに面白さがある。とはいえこの授業では、哲学の入り口として、長い哲学史のなかで個性豊かな哲学者たちが繰り広げてきた思考のドラマをたどるのが、入門編としてはまずは最良だと考える。人物像の面白さや、奇妙だけれど魅惑的で、よく考えれば納得感もあったりするさまざまな世界観/世界像が、そこでたっぷり味わえるからだ。</p> <p>そこでこの授業はまず序盤で「哲学とは何か?」についていくつかの角度から紹介したあと、中盤から終盤にかけての大半を使い、哲学史を紹介・解説していく。さまざまな対立や紆余曲折を経ながらも、哲学的思考の流れは大きくうねりつつ継承され、現代までつながっている。そして最終盤では、現代哲学のさまざまな流派やそこで議論されている問題を紹介し、現在進行形の哲学の姿を素描する。</p> <p>この授業を通して、〈あたりまえ〉をうのみにせず、自分自身の頭でものごとを考える姿勢をつかんでもらいたい。</p>				
【授業方法】	毎回の授業資料は事前にユニバで配布するので、必ず確認して、プリントする・PCやタブレットに入れるなどして授業に持参すること。またユニバではレスポンスペーパーのフォーマットも配布するので、感想・質問がある人はメール提出すること。				
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 総説(1): ガイダンス: 哲学のイメージと、その多様性・意外性 2. 総説(2): 哲学のさまざまな顔——多面体としての哲学 3. 古代(1): 哲学はいつ、どこで始まったのか?——3つの故郷 4. 古代(2): ソクラテスの「愛知(ピロソソピア)」活動 5. 古代(3): 哲学の基本形と可能性(1)——プラトン哲学 6. 古代(4): 哲学の基本形と可能性(1)——アリストテレス哲学 7. 古代(5): 後期古代哲学——ヘレニズム哲学と新プラトン主義 8. 中世: 中世哲学——神学との一体化と近代への胎動 9. 近代(1): 近代哲学の出発点——デカルト哲学 10. 近代(2): 大陸合理論の奇妙で魅惑的な世界観——スピノザとライブニッツ 11. 近代(3): 実は過激なイギリス経験論——ロックからヒュームへ 12. 近代(4): 近代哲学最大の分水嶺——カント哲学 13. 近代(5): 近代哲学の終着点——ドイツ観念論とヘーゲル 14. 現代(1): 現代哲学への転換点——ニーチェ、フロイトらの「反哲学・反理性」 15. 現代(2): 20世紀～21世紀哲学——哲学はいまも、これからも動き続ける 				
【履修条件】					
【評価方法】	授業への取り組みと期末レポート。				
【テキスト】	特に指定しない。				
【参考書】	<p>熊野純彦『西洋哲学史』（岩波新書）</p> <p>伊藤邦武『物語 哲学の歴史』（中公新書）</p> <p>欽茶『史上最強の哲学入門』（河出文庫）</p> <p>その他、適宜授業のなかで紹介する。</p>				
【備考】					
【社会人聴講生】	社会人聴講生聴講可	【科目等履修生】	科目履修生履修可	【交換留学生】	交換留学生可

【科目名】	社会思想史入門	Introduction to history of socialthoughts			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	木曜 1 限		
【科目責任者】	犬塚協太				
【担当教員】	犬塚協太				
【授業目標】	社会とは何か、人間は社会との関係をどう生きるべきか、社会の望ましい姿とはどのようなものか、といった社会に関するさまざまな知の営みとしての思想の流れをたどり、現代社会を生きる者として、社会への認識を深めることができるようになる。				
【授業概要】	主要な社会思想の流れをヨーロッパを中心に古代から現代までたどりつつ、その中心的な論点(たとえば「自由」「平等」「人権」「権力」「個人」「国家」「階級」「市民」「公共性」など)をめぐるさまざまな思想家の言説を取り上げながら考察する。とくに今日の我々の社会の原点となった「近代社会」以降の社会思想の展開に力点を置き、「近代社会」の自己認識の学としての「社会学」の視点から「現代社会」の抱える具体的な社会問題にも触れながら、思想史の流れを、今を生きる我々自身の問題として常に現在と未来に生かす視点を重視して概観する。				
【授業方法】	講義形式を中心とするが、思想史を現代の時事的な社会問題ともリンクさせるテーマを提起して、必要に応じて受講者との対話形式も取り入れる。				
【授業展開】	時代を追いながら、以下のようなトピックを論じていく予定であるが、内容は変更される可能性がある。 第 1 回：社会思想史とは何か。 第 2 回：古代ギリシアの社会思想～プラトン 第 3 回：古代ギリシアの社会思想～アリストテレス 第 4 回：古代末期の社会思想～ストア学派とヘレニズム、ヘブライズムの流れ 第 5 回：古代末期の社会思想～イエスの思想と原始キリスト教の意義 第 6 回：中世の社会思想～アウグスティヌスとキリスト教思想の深化 第 7 回：中世の社会思想～トマス・アクィナスとキリスト教思想の展開 第 8 回：近代の社会思想～ルネサンスと政治・社会思想 第 9 回：近代の社会思想～宗教改革と近代社会・ルターとカルヴァン 第 10 回：近代の社会思想～近代と自然観の転換 第 11 回：近代の社会思想～社会契約思想の形成・ホッブズ 第 12 回：近代の社会思想～社会契約思想の展開Ⅰ・ロック 第 13 回：近代の社会思想～社会契約思想の展開Ⅱ・ルソー 第 14 回：近代の社会思想～経済と道徳・アダム・スミス 第 15 回：近代の社会思想～マルクスと社会主義思想				
【履修条件】	「人間と社会」の抱える問題に関心がある積極的な受講者を望む。				
【評価方法】	期末レポート(50%)と授業への取り組み(50%)。				
【テキスト】	特定のテキストは使用しない予定。必要な場合はユニバーサル・パスポートを通して資料を配布する。				
【参考書】	必要に応じて、授業の中で適宜指示する。				
【備考】	授業は対面で実施するが、状況に応じてシラバスの内容が変更される場合があるので、ユニバーサル・パスポートを通じたシラバスの修正等の掲示や教員からの連絡に常に注意すること。なお受講人数は、履修登録先着順で 30 名までとする。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	歴史学入門	Introduction to History			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	金曜 1 限		
【科目責任者】	栗田和典				
【担当教員】	栗田和典				
【授業目標】	1980 年代から半世紀あまりの歴史学の歴史(史学史)を概観し、どのような社会的背景やあたらしい考え方のもとに研究がなされ、成果をあげてきたかをさぐる。学生は歴史学の歴史を知ることによって、歴史研究の要点となる問い、史資料、テーマなどを考えるとともに、現在や自己を相対化する知的な営みを実体験する。				
【授業概要】	いくつかの歴史学研究の傾向・潮流を具体的な事例にそくして紹介しながらすすめる。それらは「社会史」や「社会文化史」、あるいは、「あたらしい歴史学」などと呼ばれてきた。また、マイクロ・ストーリア(極小史)とグローバル史、歴史人口学、国制史やジェンダ史など、空間的なひろがり、研究の材料となる資料、他の研究・学問分野との関係からも、名称はさまざまである。こうした多様な成果について、おもに近世・近代の日本史やヨーロッパ史、とくにブリテン諸島史から紹介し、静岡県や静岡市、葵区や清水区などのローカルな話題もとりあげながら、いくつかの材料を提供する。受講者は指定した題材について家族、知人、友人にたいする聞き取りをおこない、それらを授業の資料として活用する。				
【授業方法】	基本的に講義形式をとるが、内容にかんするクイズや質問が出されるので、対話・やりとり・雑談のなかで進行する。また、調査結果のプレゼンテーションや本を紹介するビブリオバトル、歴史的なレシピをたためす歴メシランチなどを実施する。 なお、通常の授業形式はいわゆるハイブリッドかつハイフレックス方式であり、教室での対面授業とオンライン会議システムを同時に併用する。対面とオンラインのいずれによって参加するかは、その都度に学生が選択する。また、LMS(学習管理システム Learning Management System)による授業資料の配布と課題の提示と提出をおこなう。ただし、利用する LMS は Universal Passport ではなく、Google Classroom であるから注意されたい。				
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> 1 時代小説と歴史学 2 歴史的な問いと答え 3 データ・資料・証拠 4 歴史学でつかわれる概念 5 時間の感覚 6 グローバルな視点 7 地域からの視点 8 ところとからだ 9 地縁と血縁(社会的結合関係 1) 10 職能(社会的結合関係 2) 11 ビブリオバトル 12 比較と関係 13 「世の中が変わった」感覚 14 「伝統の発明・捏造」論 15 調査結果のプレゼンテーション 				
【履修条件】	第 1 回目の講義を欠席した場合には、第 2 回目までにオフィスアワー(木曜 4 限、国際関係学部棟 5 階 3512 室またはオンライン)を利用して教員と面談する。内容の点では、歴史上の具体的な事例に言及するが、それを暗記する授業ではなく、歴史学の基本と現状の理解を目的とすることを了解しておく必要がある。				
【評価方法】	調査結果のプレゼンテーションをおこない、教員をふくむ参加者相互の評価によって 80%を決定する。20%は講義におけるやりとりと、家族・知人・友人にたいする調査の成果を教員が評価する。				
【テキスト】	指定しない。				
【参考書】	近藤和彦(編)『イギリス史研究入門』(2010 年)など、山川出版社の研究入門シリーズは、総説や導入の部分にきわめて重要な指摘がある。また、小田中直樹『歴史学のトリセツ——歴史の見方が変わるとき——』(筑摩書房:ちくまプリマー新書、2022 年)は軽妙な筆さばきで歴史学の現在を書いており、大学初年次の学生に適した参考文献である。				
【備考】					
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	不可

【科目名】	宗教学入門	Introduction to religion			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	水曜 1 限		
【科目責任者】	佐藤清子				
【担当教員】	佐藤清子				
【授業目標】	<ul style="list-style-type: none"> ● 宗教がかかわる諸問題について知識を身に着ける ● 宗教がかかわる諸問題について多角的な視点から考察できるようになる ● 宗教がかかわる諸問題について自分の意見を論理的に表明できるようになる 				
【授業概要】	<p>現代日本の多くの大学生にとって、宗教はなじみのないものと感じられるかもしれない。だが、世界的に見れば宗教をもつ人は多数派であり、一見宗教とは何の関係もなさそうなところに宗教的なものが見いだされることもある。また、2022 年には大きな事件が起こり、宗教は日本社会に対しても重要な影響を与えていることが改めて明らかとなった。2011 年の東日本大震災で注目された被災者支援と宗教というテーマも、2024 年の震災を経て新たな重要性を帯びようになっている。</p> <p>授業では宗教学的な思考の基本を、学生にも積極的に参加してもらおうアクティブラーニングの方法で紹介する。教科書として、大谷栄一、川又俊則、猪瀬優理『基礎ゼミ 宗教学』（世界思想社、2017 年）を用いる。授業での学習を通じて、宗教についての知識を得るとともに、宗教がかかわる問題を自分事としてとらえる視点を養ってほしい。</p>				
【授業方法】	教科書は事前に一度読んでおき、簡単なワークを終えておくこと。授業では教科書の内容を説明し、その後ワークを踏まえたディスカッションを行う。				
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 2 第1章 「宗教」はどのようにイメージされるのか？——「信仰のない宗教」、宗教情報リテラシー、「宗教」概念（大谷栄一） 3 第2章 お寺や神社、教会はどういう場所なのか？——過疎、人口減少社会、ソーシャル・キャピタル（板井正育） 4 第4章 なぜ成人式を行うのだろうか？——信仰、アイデンティティ、通過儀礼（相澤秀生） 5 第5章 お祭りにはどんな意味がある？——祭祀、祝祭、コミュニティ文化（藤本頼生） 6 第6章 巡礼者は何を求めて聖地に向かうのか？——聖地、世界遺産、真正性（碧海寿広） 7 第7章 いのちを教えることができるのか？——寛容の態度、宗教文化教育、道徳の教科化（川又俊則） 8 第8章 「女人禁制」はつづけるべきか？——霊山、ジェンダー、家父長制（小林奈央子） 9 第9章 「カルト問題」にどう向きあうか？——カルト、偽装勧誘、マインド・コントロール（塚田穂高） 10 第11章 ヴェールはなぜ問題となるのか？——オリエンタリズム、ポストコロニアル、フェミニズム（猪瀬優理） 11 第12章 日本社会は移民とどう向きあうのか？——入国管理法、多文化共生、エスニシティ（白波瀬達也） 12 第13章 なぜ墓参りをするのか？——先祖／祖先、葬後儀礼、両墓制（川又俊則） 13 第14章 戦没者をどこで追悼する？——靖国問題、「戦争の記憶」、メモリアル（大谷栄一） 14 第15章 被災者への支援で求められるものは何か？——「心のケア」、臨床宗教師、霊性（黒崎浩行） 15 全体のまとめ 				
【履修条件】	授業はすべて教室で対面にて実施する				
【評価方法】	平常点(予習状況、ディスカッションへの参加) 60% 最終レポート 40%				
【テキスト】	大谷栄一、川又俊則、猪瀬優理『基礎ゼミ 宗教学』（世界思想社、2017 年）				
【参考書】	授業中適宜指示する。				
【備考】					
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	

【科目名】	社会学入門	Introduction to Sociology			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	火曜 1 限		
【科目責任者】	石井由香				
【担当教員】	石井由香				
【授業目標】	現代社会に関する理解を深めるために、社会学の基本的な理論および分析枠組みを、実際の事象や身近な出来事に引きつけながら身につける。				
【授業概要】	社会とは何だろうか。また、私たちが生きているのはどのような社会なのだろうか。人と人、人と集団、集団と集団の間のさまざまな関係をどう理解して行動していったらよいのか。本講義では社会をとらえる学としての社会学の基礎を学び、階層・階級、教育と学歴、ジェンダー、高齢化、グローバリゼーションといったテーマについて具体的に考えることで、こうした問いへの手がかりを得ることを目指したい。				
【授業方法】	講義形式。視聴覚教材(DVD 等)も用いる。				
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション—社会学の考え方 2. 社会学の歴史(1)—社会学のあゆみ 3. 社会学の歴史(2)—社会学の基本概念 4. 社会階層と格差(1)—階級と階層 5. 社会階層と格差(2)—不平等と社会 6. 教育と学歴(1)—学歴社会化の進行 7. 教育と学歴(2)—学歴社会への関心の変化 8. ジェンダーと社会(1)—「女らしさ」と「男らしさ」の問い直し 9. ジェンダーと社会(2)—「セクシュアリティ」を考える 10. 高齢化と福祉(1)—なぜ高齢化するのか 11. 高齢化と福祉(2)—介護と家族 12. グローバリゼーションと社会(1)—グローバリゼーションとはなにか 13. グローバリゼーションと社会(2)—ナショナリズム・エスニシティへの影響 14. グローバリゼーションと社会(3)—多様性を認める社会とは 15. おわりに—まとめと今後の展望 				
【履修条件】	特になし				
【評価方法】	中間レポート(40%)、期末レポート(60%)				
【テキスト】	なし				
【参考書】	初回講義時に参考文献リストを配布。また講義時に随時紹介する。				
【備考】	特になし				
【社会人聴講生】	受入不可	【科目等履修生】	受入不可	【交換留学生】	受入可

【科目名】	国際関係学入門	Introduction to international relations		
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	木曜 1 限	
【科目責任者】	小窪千早			
【担当教員】	飯野光浩、石川義道、小窪千早、坂巻静佳、佐藤真千子、浜由樹子、前山亮吉、宮崎晋生、山下光、山本健介			
【授業目標】	国際社会の動向を総合的に把握するための視野を養うと同時に、複数の学問領域にまたがる国際関係学という学問についての理解を深める。			
【授業概要】	<p>東西冷戦を主軸とした 20 世紀後半の国際秩序が崩壊して以来、新しい世界秩序の模索が続いてきた。経済のグローバル化が進行し、欧州等において国際統合の拡大、深化が追求される一方、テロリズムや大量破壊兵器の拡散が国際安全保障の焦点として浮上り、また環境、貧困、疾病、エネルギー等に関する問題が全地球的な課題として捉えられるようになっている。</p> <p>こうした国際社会の動向を理解するためには複眼的な視野が必要とされる。本科目では国際政治、国際経済、国際法等の視点から国際関係の実態に接近し、国際関係学への導入とする。</p>			
【授業方法】	国際関係学部国際関係学科の政治学系、経済学系、法学系の教員が各自の専門領域に関わる国際関係の基本的争点について講義する。			
【授業展開】	<p>今年度の授業予定表(各回の担当者と講義題目を記したものを)を初回に配布する。</p> <p>過去の講義題目の例を挙げれば以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「国際連合における意思決定方式」 「国際法から世界をみる」 「開発協力白書から見える日本の ODA 政策」 「国際経済法入門」 「昭和戦前期 日本の政策決定システムについて」 「欧州統合の歴史と課題」 「国際協力の現場－南スーダンを事例として」 「アメリカ政治入門」 「国際平和協力と国際政治」 「現代中東と国際政治：イスラーム復興のうねり」 「比較政治と日本政治」 「プラットフォーム－多国籍企業と国際関係」 「国際政治と『地域』」 			
【履修条件】	特になし。			
【評価方法】	各回の小テスト等による。			
【テキスト】	特になし。			
【参考書】	各回の担当者が適宜紹介する。			
【備考】				
【社会人聴講生】	受入可。	【科目等履修生】	受入可。	【交換留学生】

【科目名】	文化人類学入門	Introduction to cultural anthropology		
【開講時期】	2024年度後期	【開講時限】	集中講義	
【科目責任者】	金明美			
【担当教員】	金明美			
【授業目標】	本講義では、近代に「未開」社会の研究として出発し、植民地主義の落とし子と批判を受けつつも、異文化理解の学問として発展してきた文化人類学の学説史を追うことで、安易な異文化理解に陥らないために必要な異文化理解の方法を考えます。			
【授業概要】	<p>文化人類学に特徴的なのは、参与観察やエスノグラフィーというフィールドワークの調査や記述の方法です。現在では、様々な分野で応用されていますが、文化人類学においては、自らが慣れ親しむ「日常」を離れ、現場（フィールド）へと向かい、そこでの経験や他者からの学びを通して、様々な社会や文化の内在的な理解を目指すということを最も重視しています。この方法は、グローバル化や情報化が進展する一方、コミュニケーション上の諸問題が世界各地で生じている現在、異文化理解の方法として、その重要性が一層増していると考えられます。しかし、文化人類学の歴史は、異文化理解という肯定的な面だけではありませんでした。植民地主義をはじめ支配/被支配の問題と少なからず関係してきた部分があり、そうした面の克服も学問的な課題として取り組んできました。よって文化人類学の学説史を知ることで、現在の世界各地で起こっている様々な争いや葛藤等を理解する上での重要なヒントを得られるといえるでしょう。</p> <p>本講義では、近代に「未開」社会の研究として出発し、植民地主義の落とし子と批判を受けつつも、異文化理解の学問として発展してきた文化人類学の学説史を追うことで、安易な異文化理解に陥らないために必要な異文化理解の方法を考えます。</p> <p>ところで、学説史とは、学問としての文化人類学がとる方法論上の理論的根拠についての議論の歴史です。理論的な話ですから難易な部分もありますが、それらの理論は特定の社会や文化についての日常的な参与観察から立ち上がったものでもあります。よって、理論的な話も、そうしたことを踏まえて理解を進めると、必ずしも難しいものではありません。教科書もそのような観点から書かれています。とはいえ、教科書の内容は一読してすぐ分かるようなものではありません。初学者にとり難しい部分がありますので、授業では、毎回取り上げる章の中で重要な部分を中心に、それらなるべく噛み下いた形で解説します。講義を受講し、自ら考え、予習・復習をきちんと行えば、教科書の内容を把握することが可能になるでしょう。ぜひ文化人類学という学問（これも一つのフィールド！）の世界に足を踏み入れてみてください。</p>			
【授業方法】	基本的には教科書の章立て順に授業を進める（但し、受講人数や進み具合によって授業展開の予定を変更することもありうる）。関連映像を利用し、またパワーポイントも使用する。対面授業を予定しているが、対面授業を避けた方がよいと判断される場合は遠隔講義（オンデマンド型と同時双方向型の組み合わせ、授業資料提示や課題提出はユニバを利用）を行う。			
【授業展開】	第1回 ガイダンス、文化人類学を学ぶために 第2回 文化人類学とはどのような学問か？ 第3回 進化主義と伝播主義 第4回 近代人類学の夜明け（1）マリノフスキーをめぐって 第5回 第4回の続き、ビデオ視聴 第6回 近代人類学の夜明け（2）ラドクリフ＝ブラウン 第7回 第6回の続き 第8回 アメリカ文化人類学の出発：ボアズとその弟子たち 第9回 第8回の続き 第10回 構造主義以前の文化人類学 第11回 構造主義の系譜 第12回 第11回の続き 第13回 構造主義と文化相対主義 第14回 第13回の続き 第15回 まとめ、ビデオ視聴など			
【履修条件】	集中講義(後期)の期間中の出席が可能な人			
【評価方法】	毎回の講義内容に関する小レポート			
【テキスト】	原尻英樹『文化人類学の方法と歴史』（新装版）2015年、新幹社、2,200円＋税、（ISBN）978-4-88400-113-1（大学内の書店等で購入してください）			
【参考書】	奥野克巳『はじめての人類学』、2023年、講談社、900円＋税、（ISBN）978-4-06-532857-6			
【備考】				
【社会人聴講生】	可（但し、授業実施形態の変更によって不可になる場合がある）	【科目等履修生】	可（但し、授業実施形態の変更によって不可になる場合がある）	【交換留学生】

【科目名】	公共政策入門	Introduction to public policy			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	木曜 1 限		
【科目責任者】	藤本健太郎*				
【担当教員】	藤本健太郎*				
【授業目標】	<p>私たちの生活には、病気やケガ、失業、職場での事故、高齢になって要介護状態になることなど多くのリスクがあります。</p> <p>個人ではうまく備えることのできない生活上のリスクに対応するのが社会保障と労働法です。しかし、制度が分かりにくいと考えている人が多く、給付やサポートが受けられるのに申請していないケースも少なくないと思われます。</p> <p>社会に出て働く前に知っておいてほしい社会保障と労働法の基本的な知識について分かりやすく解説することがこの講義の目標です。</p>				
【授業概要】	<p>社会保障とはどのようなリスクに備えているのか、税と社会保険料はどのように違うのかなどを解説します。社会保障には多くの制度がありますが、中でも規模が大きくて重要な年金、医療保険、介護保険、社会福祉について概要と課題を説明します。</p> <p>働く人を守る仕組みである労働法について、労働基準法、労働契約法などの基礎について解説します。</p>				
【授業方法】	<p>対面による講義を基本とします。ズームによる講義を行う場合もあります。</p> <p>教科書に基づいて講義を進めますが、配布資料も用意します。</p>				
【授業展開】	<p>1オリエンテーション～困ったときにどんな助けが得られるのか</p> <p>2社会保障と労働法とはどのような仕組みなのか</p> <p>3年金の仕組み～定年などで働けなくなったとき</p> <p>4医療保険の仕組み～病気やケガをしてお金がかかるとき</p> <p>5介護保険の仕組み～年をとって体が不自由になったとき</p> <p>6社会福祉と生活保護～子どもや障害者、貧しい人などを支える仕組み</p> <p>7働く人を守る仕組み①</p> <p>8外部講師</p> <p>9働く人を守る仕組み②</p> <p>10 育児や介護と仕事の両立支援</p> <p>11 少子化対策～子どもが生まれたとき</p> <p>12 ケーススタディ～困ったとき、どのような給付や支援を申請できるのか</p> <p>13 これからの社会保障</p> <p>14 まとめ</p> <p>15 期末試験</p> <p>※外部講師との日程調整などによって変更になる場合があります</p>				
【履修条件】	特にありません。				
【評価方法】	レポート等 30%、期末試験 70%				
【テキスト】	「働く人のための社会保障入門」(藤本健太郎、藤本真理、玉川淳著)ミネルヴァ書房(2023 年)				
【参考書】	「人口減少を乗り越える」(藤本健太郎著)法律文化社(2018 年)				
【備考】	厚生労働省、内閣官房、在ドイツ日本国大使館に勤務経験のある教員が実務経験も踏まえて講義を行う。				
【社会人聴講生】	聴講可。	【科目等履修生】	履修可。	【交換留学生】	履修可。

【科目名】	心理学入門	Introduction to psychology			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	金曜 1 限		
【科目責任者】	西田公昭				
【担当教員】	西田公昭				
【授業目標】	さまざまな心理学の研究から現代社会における人々の生活を説明する。何気なく過ごす日常生活を心理学的に分析し思考力を養うことを目的とする。				
【授業概要】	現代心理学について、体系的に概観する。その上で、人々が日常的に経験する出来事を心理学的に分析し、理論的に検討する。				
【授業方法】	講義形式で進める				
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> 1 心理学の体系：現代心理学の世界をひとめぐりし、生活と心理学との関係を概説する 2 知覚1：現実とはなんだろうか・・・誰もが不思議な心理経験 3 知覚2：外界を認知する仕組み 4 発達心理学：心を作るのは遺伝か経験か、認知発達、生涯発達の理論 5 学習心理学1：基礎理論を中心にヒトは経験をどのようにとらえるのか。 6 学習心理学2：是と非が入れ替わる(洗脳)など 7 認知心理学1：意識と記憶 8 認知心理学2：記憶の構造 9 認知心理学3：思考と行動 10 感情心理学1：動機づけ：喜怒哀楽や愛のしくみをさぐる、友人や恋人関係への発展メカニズム 11 感情心理学2：情動(恋愛を中心に) 12 感情心理学3：ストレス 13 心理査定：知能や性格を測るには？ 14 社会心理学1：人を取りまく社会的な現実と状況の力 15 社会心理学2：オウム真理教とマインド・コントロール 				
【履修条件】	心理学を積極的に勉強する意欲のある者に限る				
【評価方法】	リアクション課題(毎回)				
【テキスト】					
【参考書】	授業時に指示				
【備考】					
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	

【科目名】	生涯発達心理入門	Introduction to life development psychology			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	火曜 1 限		
【科目責任者】	篁宗一				
【担当教員】	*篁宗一、*近藤美保、*小泉祐貴、*予定教員、非常勤講師				
【授業目標】	<p>【授業目的】人の心のあり方と行動は密接に関係している。ライフステージごとの心理的特徴について理解する。大学生にとっての「生きる」意味を考察する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.心とはなにか、また心の動きがどのように行動と結びつのかについて考える。 2.大学生にとって健康的な生活を送る基本的な知識を得る。 				
【授業概要】	「心の各発達段階における特徴や課題」「ストレスが心の健康に及ぼす影響」「ストレスへの対処及びリラクゼーション」等について広く学ぶ。さらに、様々な障害を有する当事者または家族からの体験談を聞いたり、身体的・心理的支援を行うスタッフの講義を通じて、受講生が生きる意味を考えたり、健康的な大学生活を過ごせるための学びの機会を提供する。また、レポートでは「自分史」つくりの機会を提供する。				
【授業方法】	講義・グループディスカッション・課題学習・演習等、学生が参加できる方法を併用して行う。				
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯発達心理の概要・自分史つくりのガイド他（篁） 2. 発達段階別の特徴と課題Ⅰ（篁） 3. 発達段階別の特徴と課題Ⅱ（篁） 4. 発達段階別の特徴と課題Ⅲ（篁） 5. 発達段階別の特徴と課題Ⅳ（予定教員） 6. 高次機能障害者の家族の心理（非常勤講師・近藤） 7. 性同一性障害の体験（非常勤講師・小泉） 8. 喫煙・飲酒について（非常勤講師・小泉） 9. 心理カウンセラーについて（非常勤講師・篁） 10. ストレスについて（小泉） 11. 感情労働について（予定教員） 12. ストレス・コーピングについて（予定教員） 13. リラクゼーションについて（近藤） 14. リラクゼーション演習（近藤） 15. まとめ <p>講義予定、担当講師は変更する可能性がある。</p>				
【履修条件】	特になし				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 出席状況・課題作成(30%)・レポート等(70%)により、総合的に評価する。				
【テキスト】	特になし				
【参考書】	適宜、授業の中で紹介する。				
【備考】	<p>*メンタルヘルスにかかわる保健師・看護師・心理職等が、その経験を活かして講義を行う。 看護学生の受講も可能だが、内容の重複が一部ある。 ・原則として対面で実施するが、Covid 感染拡大の影響により遠隔(オンラインまたはオンデマンド)に切り替える可能性がある。</p>				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	知的財産管理入門		Introduction to Intellectual Property Management	
【開講時期】	2024年度前期	【開講時限】	金曜1限	
【科目責任者】	*居藤 洋之			
【担当教員】	*居藤 洋之			
【授業目標】	知的財産管理で必要とされる基礎知識および基礎技能を習得することを目標とする。			
【授業概要】	<p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> ・知的財産管理の社会的意義を説明できる。 ・特許制度の目的、保護対象、特許要件を説明できる。 ・特許出願から登録までの流れ、特許権発生後の管理、特許権取得の得失について説明できる。 ・実用新案権制度の目的および特徴を特許制度との相違の観点から説明できる。 ・意匠制度の目的、保護対象、登録要件を説明できる。 ・意匠権発生後の管理、および不競法および著作権法に対するデザイン保護の相違点を説明できる。 ・商標法制度の目的、保護対象、登録要件、商標権発生後の管理、および不競法での保護との相違点を説明できる。 ・知的財産権に関する条約について説明できる。 ・パリ条約、特許協力条約（PCT）、マドリッドプロトコル、ヘーグ協定、ベルヌ条約について説明できる。 ・著作権法の目的、保護対象、著作者について説明できる。 ・著作者人格権、著作財産権、著作権の保護期間、著作権の移転と利用、効力、著作隣接権について説明できる。 ・知的財産権に関するその他の法律である不正競争防止法、民法、独占禁止法、種苗法、弁理士法の概略を説明できる。 			
【授業方法】	パワーポイントによるスライド形式のレジュメに従って講義形式で行う。			
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> ・イントロダクション：知的財産・産業財産権とは、知的財産を保護する必要性と法体系 ・特許法①：目的、保護対象、特許要件 ・特許法②：特許出願の手続き、特許権の活用と管理、特許権の侵害と救済、特許取得の得失 ・実用新案法：特許法の相違 ・意匠法①：目的、保護対象、登録要件、意匠登録を受けるための手続き ・意匠法②：意匠権の管理と活用、意匠権の侵害と救済 ・商標法：目的、保護対象、登録要件、商標登録を受けるための手続き、商標権の管理と活用、商標権の侵害と救済 ・知的財産に関する条約：パリ条約、特許協力条約（PCT）、その他の条約 ・著作権法①：目的、著作物とは、著作者とは ・著作権法②：著作者人格権、著作財産権、著作権の制限、著作隣接権、著作権の侵害と救済 ・知的財産に関するその他の法律：不正競争防止法、民法、独占禁止法、種苗法、弁理士法 			
【履修条件】				
【評価方法】	出席状況及び試験（課題レポート）により総合評価。			
【テキスト】	講師自作のパワーポイントによるスライド形式レジュメ			
【参考書】	知的財産管理技能検定3級公式テキスト（知的財産教育協会編）			
【備考】	<p>特許や商標、著作権などの知的財産権に関する知識はビジネス常識です。高度に設計された制度システムを、現役の弁理士が実際の実務や多数の実例を紹介しながら分かり易く講義を進めていきます。本講義により広大な知的財産権の世界を一通り学ぶことができます。国家検定「知的財産管理技能検定」受験希望者には特に受講を推奨します。社会人聴講生の聴講を認めます。</p>			
【社会人聴講生】	社会人聴講生聴講可 受入条件：知的財産権に興味のある方	【科目等履修生】	科目等履修生履修可 受入条件：知的財産権に興味のある方	【交換留学生】

【科目名】	国際安全保障入門 I	Introduction to International Security I			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	火曜 1 限		
【科目責任者】	西 恭之				
【担当教員】	西 恭之				
【授業目標】	国際安全保障の基本的な概念を理解し議論することによって、批判的思考力と論理的表現力を養い、自由な社会を維持するための教養を身につける。				
【授業概要】	国際政治の手段としての軍事力および軍事力の政治的統制に関する概念が、どのように形成され、使われてきたのかを概観する。				
【授業方法】	対面授業。国際安全保障研究の基礎となっている文献を読みこなす。英語文献も、効率的に読む方法を指導したうえで講読する。レポート(英文も可)の書き方を指導する。				
【授業展開】	第 1 回(4/16) 授業の説明 第 2 回(4/23) 国際政治の無政府状態(アナーキー) 第 3 回(4/30) 強制 第 4 回(5/7) 抑止 第 5 回(5/14) 安全保障のジレンマ 第 6 回(5/21) 核兵器が国際政治にもたらした革命(1) 第 7 回(5/28) 核兵器が国際政治にもたらした革命(2) 第 8 回(6/4) ナショナリズムと戦争(1) 第 9 回(6/11) ナショナリズムと戦争(2) 第 10 回(6/18) 政軍関係 第 11 回(6/25) 同盟 第 12 回(7/2) 民主的平和論(1) 第 13 回(7/9) 民主的平和論(2) 第 14 回(7/23) 民主主義と戦争における勝利(1) 第 15 回(7/30) 民主主義と戦争における勝利(2)				
【履修条件】	高校世界史、とくに近現代史を復習しておくこと。英語力を伸ばす意欲があること。				
【評価方法】	レポート 60%、文献に関する報告 15%、議論への参加 25%				
【テキスト】	ウォルツ『人間・国家・戦争』勁草書房 シェリング『軍備と影響力』勁草書房 クラウゼヴィッツ『戦争論 縮訳版』日本経済新聞出版 その他配布する。				
【参考書】	授業中紹介する。				
【備考】					
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	可

【科目名】	国際安全保障入門Ⅱ	Introduction to International Security II			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	火曜 1 限		
【科目責任者】	西 恭之				
【担当教員】	西 恭之				
【授業目標】	国際安全保障に関する倫理的主張を理解し議論することによって、批判的思考力と論理的表現力を養い、自由な社会を維持するための教養を身につける。				
【授業概要】	政治的共同体による武力の行使の理由と方法が、どのように正当化され、批判されてきたのかを概観する。				
【授業方法】	対面授業。正戦論とその批判の基礎的文献を読み、議論する。英語文献も、効率的に読む方法を指導したうえで講読する。レポート(英文も可)の書き方を指導する。				
【授業展開】	第 1 回(10/1) 授業の説明 第 2 回(10/8) 平和主義 第 3 回(10/15) リアリズムと倫理 第 4 回(10/22) 正戦論の起源(1) 第 5 回(10/29) 正戦論の起源(2) 第 6 回(11/12) イスラームにおける正戦 第 7 回(11/19) 戦ってよい戦争の条件 第 8 回(11/26) 正しい戦い方の条件 第 9 回(12/3) トロツク問題 第 10 回(12/10) 緊急事態の論理 第 11 回(12/17) 核抑止 第 12 回(1/7) 先制攻撃と予防戦争 第 13 回(1/14) テロリズム 第 14 回(1/21) 暗殺 第 15 回(1/28) 人道的介入				
【履修条件】	高校世界史または高校倫理を復習しておくこと。英語力を伸ばす意欲があること。国際安全保障入門Iは役立つが、履修条件ではない。				
【評価方法】	レポート 60%、文献に関する報告 15%、議論への参加 25%				
【テキスト】	ウォルツァー『正しい戦争と不正な戦争』風行社 松元雅和『平和主義とは何か』中公新書 その他配布する。				
【参考書】	松森奈津子『野蛮から秩序へ』名古屋大学出版会 その他紹介する。				
【備考】					
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	可

【科目名】	くらしと化学 A	Chemistry in Daily Life A		
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	水曜 1 限	
【科目責任者】	Hiromu Kondo			
【担当教員】	Kenji Watanabe, *Hiromu Kondo			
【授業目標】	Learn about chemistry as it relates to everyday life. Hearing, seeing, tasting, and touching all involve intricate series of chemical reactions and interactions in your body. With such an enormous range of topics, it is essential to know about chemistry at some level in order to understand the world around us.			
【授業概要】	Chemistry is a big part of your everyday life. You find chemistry in daily life in the foods you eat, the air you breathe, your soap, your emotions and literally every object you can see or touch. Here's a look at some everyday chemistry.			
【授業方法】	A lesson may range from a lecture to a demonstration.			
【授業展開】	<p>1 What is chemistry? Chemicals are everywhere doing all sorts of useful stuff. From materials to detergents to lubricants to drugs, chemical technology has solved an astounding number of problems for humanity.</p> <p>2 The basis of chemistry A pure substance, elements, compounds, and mixtures, categories of compounds, moles of compounds, the chemical bond, acid, basis and salts, the characteristics of solutions</p> <p>3 Chemistry in your familiar phenomena Water and oil, dye, burning, dissolution, color, ferment and decay, seasoning, cooking</p> <p>4 Green and Sustainable Chemistry, Ozone depletion, ozone hole formation, skin cancer, malignant melanoma, biodiversity and agriculture biology and chemistry are like two sides of the same coin. We can learn from one another while moving toward a sustainable society</p> <p>5 Chemistry, a key player in keeping us healthy Chemotherapy, fertilizers, essential nutrients, genes, photosynthesis, functional food,</p> <p>6 Chemistry in our comfort life Enzymes, battery, perfumes, ceramics, magnetorheological damper, gravitomagnetic field, etc</p> <p>7 Chemistry opens a future full of hope Nano and biotechnology, humangenome, functional brain mapping,</p>			
【履修条件】	Mainly, we intend for a student who did not study chemistry in a high school. Chemistry having learned already person does not need to take the class.			
【評価方法】	We evaluate it after considering the result of attendance and the report. 原則としてレポート 100%とし、出席態度を考慮して総合評価する。 全講義回数 の 2/3 以上の出席が単位認定に必須である。			
【テキスト】	なし。必要に応じて講義時に資料を配布する。			
【参考書】	必要に応じて適宜、講義内で紹介する。			
【備考】	<ul style="list-style-type: none"> ・講義全体に関して専門性を出来るだけ低減した一般的な科学に関する講義を行う。これにより、多くの学生に対する広範囲な科学知識を教授する教養科目とする。 ・講義は原則、日本語で行う。 ・製薬メーカーの研究所で研究者として医薬品研究開発に携わった経験のある教員が、実際の研究業務で利活用している基礎的な化学について事例を交えて解説する。 ・基本的には対面講義形式をとるが、場合によってはオンライン講義形式等になることもある。 ・くらしと化学 A とくらしと化学 B は同一の内容である。したが、受講を希望する学生はくらしと化学 A またはくらしと化学 B のいずれかを受講すればよい。 			
【社会人聴講生】	受入可	【科目等履修生】	受入可	【交換留学生】 受入可

【科目名】	くらしと化学 B	Chemistry in Daily Life B			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	水曜 1 限		
【科目責任者】	Hiromu Kondo				
【担当教員】	Kenji Watanabe, *Hiromu Kondo				
【授業目標】	Learn about chemistry as it relates to everyday life. Hearing, seeing, tasting, and touching all involve intricate series of chemical reactions and interactions in your body. With such an enormous range of topics, it is essential to know about chemistry at some level in order to understand the world around us.				
【授業概要】	Chemistry is a big part of your everyday life. You find chemistry in daily life in the foods you eat, the air you breathe, your soap, your emotions and literally every object you can see or touch. Here's a look at some everyday chemistry.				
【授業方法】	A lesson may range from a lecture to a demonstration.				
【授業展開】	<p>1 What is chemistry? Chemicals are everywhere doing all sorts of useful stuff. From materials to detergents to lubricants to drugs, chemical technology has solved an astounding number of problems for humanity.</p> <p>2 The basis of chemistry A pure substance, elements, compounds, and mixtures, categories of compounds, moles of compounds, the chemical bond, acid, basis and salts, the characteristics of solutions</p> <p>3 Chemistry in your familiar phenomena Water and oil, dye, burning, dissolution, color, ferment and decay, seasoning, cooking</p> <p>4 Green and Sustainable Chemistry, Ozone depletion, ozone hole formation, skin cancer, malignant melanoma, biodiversity and agriculture biology and chemistry are like two sides of the same coin. We can learn from one another while moving toward a sustainable society</p> <p>5 Chemistry, a key player in keeping us healthy Chemotherapy, fertilizers, essential nutrients, genes, photosynthesis, functional food</p> <p>6 Chemistry in our comfort life Enzymes, battery, perfumes, ceramics, magnetorheological damper, gravitomagnetic field, etc</p> <p>7 Chemistry opens a future full of hope Nano and biotechnology, humangenome, functional brain mapping,</p>				
【履修条件】	Mainly, we intend for a student who did not study chemistry in a high school. Chemistry having learned already person does not need to take the class.				
【評価方法】	We evaluate it after considering the result of attendance and the report. 原則としてレポート 100%とし、出席態度を考慮して総合評価する。 全講義回数 の 2/3 以上の出席が単位認定に必須である。				
【テキスト】	なし。必要に応じて講義時に資料を配布する。				
【参考書】	必要に応じて適宜、講義内で紹介する。				
【備考】	<ul style="list-style-type: none"> ・講義全体に関して専門性を出来るだけ低減した一般的な科学に関する講義を行う。これにより、多くの学生に対する広範囲な科学知識を教授する教養科目とする。 ・講義は原則、日本語で行う。 ・製薬メーカーの研究所で研究者として医薬品研究開発に携わった経験のある教員が、実際の研究業務で利活用している基礎的な化学について事例を交えて解説する。 ・基本的には対面講義形式をとるが、場合によってはオンライン講義形式等になることもある。 ・くらしと化学 A とくらしと化学 B は同一の内容である。したが、受講を希望する学生はくらしと化学 A またはくらしと化学 B のいずれかを受講すればよい。 				
【社会人聴講生】	受入可	【科目等履修生】	受入可	【交換留学生】	受入可

【科目名】	実用科学英語基礎編	Basic English Usage in Natural Sciences			
【開講時期】	2024年度後期	【開講時限】	水曜1限		
【科目責任者】	太田敏郎				
【担当教員】	太田敏郎				
【授業目標】	理系・文系の区別なく科学的・専門的な内容の英文を学生の皆さんが自力で正確に読解する力を養成するため、その基礎となる英文法の理解を深めることが主要目標。それが実践的なTOEIC対策にもつながるので、効率的なスコアアップのサポートも副次的目標。				
【授業概要】	中高で習った英文法を真に受けている人も多いと思いますが、それが実は簡略版でしかなく、実用レベルでは通用しなかったり正確な理解の妨げになったりすることは意外と知られていません。そうした点を多くの具体例を挙げて解説し、大学受験の先にある研究・仕事や留学に活かせる実用版英文法への橋渡しをします。一方、共通テストで英文法問題が廃止された影響で文法理解を深めないまま入学してくる学生が増えているようなので、従来の学校英語の復習も以前より強化します。細部で辻褄が合わない学校英語の単なる学び直しではなく、改めてその問題点を認識し、さらには感覚ではなく自分の頭で考えて論理的に英文法を理解できるように解説します。英語と日本語を適切に比較することで難解な専門用語やネイティブ感覚に頼らずに英文法の要点を整理し、さらには日本語の理解も深められるような講義を目指しています。				
【授業方法】	対面が原則。一部の回(半数を超えない範囲)では学生自ら調べ考える遠隔演習を実施(積極的に取り組む姿勢が重要)。 ※詳しいことはUNIPA授業資料でご説明しますので、履修登録期間中にご確認ください。				
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：講義予定、効率的なTOEIC対策と推薦図書について 2. 桁が大きな数字の聞き取り：簡単な秘訣を知るだけで大きく改善 3-4. 学校英文法の復習：TOEICパート5&6対策も兼ねて 5-6. 前置詞・副詞：at, in, onの比較(使い分けの基準、特に日本人が間違いやすいonの深堀り) 7. 現在時制と現在進行：「do=する, be doing=している」の問題点(日本語とのズレ) 8. 過去時制：現在時制との共通点と相違点、仮定とは違う仮定法の本質 9. 現在完了：現在・過去との対比でしか見えない本質、日本語に基づく整理法 10. 未来時制：「will=つもり・だろう」の問題点, be going toの本質(willとの役割分担) 11-12. 可算不可算：「数えられるか否か」の問題点, 数え方の和英比較、主語・動詞の単複一致を深掘り 13-14. 応用：TOEIC演習(すぐに身につく実用的な解き方も紹介) 15. まとめ <p>一部の講義内容や順番は変わる場合があります。また、簡便なTOEICp2聞き取り演習をスキマ時間に実施。 ※シラバスに書ききれない詳細はUNIPA授業資料で(履修登録期間中に仮登録してご確認ください)</p>				
【履修条件】	中高とは視点異なる論理的な文法解説に興味がある人、英文法が好き人や好きになりたい人を歓迎。理解度には個人差が付きものですが、個々のレベルに合わせて得られるものがあるはず。過去2年間の平均では受講者が約100名、うち文系が約6割で理系が約4割、1年生が約3/4で2-4年生が約1/4。参考までに、課題アンケートでは「中高と違う説明で疑問解決/面白い/新鮮/迷ったが受講して良かった/英語の深いところまで学べた/英語の見方が変わった/留学にも実用的/英文法に悩んでいる人にねえ/塾講師として指導に活かせる/TOEIC対策もねえ/非常に学びが多い/毎回充実/行い/感覚の言語化」などの感想を多くいただいた一方で、少数ながら「学校英語と違って難しい/時間がかかって大変」というご意見も。				
【評価方法】	成績は全て課題(提出状況と内容)で評価。単位認定には3分の2以上の出席が必要(詳細はUNIPA授業資料)で。				
【テキスト】	小石裕子 著 「TOEIC TEST英文法出るところだけ!」 [アルク] (他に、必要に応じてプリント等を適宜配布)				
【参考書】	授業で推薦図書をいくつか挙げる予定。個人差が大きいため、高校の英文法参考書の再利用でも構いません。				
【備考】	<p>※後期に全学共通科目として以下の講義を担当しますので、科目を選ぶ際の参考にして下さい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. この実用科学英語基礎編: 全年度対象、実用的英文法を包括的に演習&解説(大学初級-上級, TOEIC初級-中級) TOEIC対策:p5&6のコツを解説&演習、全p即効テク解説&演習、スキマ時間に簡便なp2演習 2. 基礎生命科学II: 主に1-2年次対象、基本的な大学英語を学び直したい上級生も歓迎(大学初級, TOEIC初級) 語彙演習: 汎用性が高いDUOで英単語力を維持強化(単語力の低下を実感している上級生も対象、TOEICにも有効) 英文和訳&英作文演習と個別的な文法解説: 3-4年次でも丁寧な和訳演習に取り組みたい人には受講を推奨 前期の基礎生命科学Iの継続、TOEIC対策は初心者向けp3&4演習&解説 <p>※前期に担当する全学共通科目も参考までにご紹介しておきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 実用科学英語応用編: 主に2-4年次対象(大学中級, TOEIC中級-上級) 和訳演習(多読速読)と個別的な文法解説、TOEICp1-4熟練スキル演習&解説 4. 基礎生命科学II: 後期の基礎生命科学IIの前半に相当、初心者向けTOEICp1&2演習&解説 				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	Possible

【科目名】	実用科学英語応用編	Practical English Usage in Natural Sciences			
【開講時期】	2024年度前期	【開講時間】	火曜1限		
【科目責任者】	太田敏郎				
【担当教員】	太田敏郎				
【授業目標】	学生が自力で正確に科学的・専門的な英文を読解したり一般向けの英会話を聞き取ったりするために必要な読解力(多読・速読力)、聞き取り力、文法力を養成することが第一の目標。そのための実践的な演習を通してTOEICのスコア向上につなげることが第二の目標。				
【授業概要】	<p>テクノロジーの急速な進歩により、様々なツールを利用することで英語力の不足を簡単に補うことができるようになってきています。しかし、こうしたツールは便利一方で誤訳のリスクが常につきまとうため、専門的な研究や仕事の上では自分自身の読解力や聞き取り力が最終的な拠り所となる点は従来と何ら変わりはありません。この講義では、以下の点を重視して科学的な内容の英文記事の和訳演習と一般的な会話文やトーク文の聞き取り演習を実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 読解力(多読・速読力)：Google翻訳やDeepL翻訳などのWebツールを活用する和訳演習&解説を通して誤訳の見つけ方・発生原因・添削方法について学び、教師に頼らずに正確かつ効率的に英文を読解する力を養う(構造がシンプルな単文の読解ではなく、複雑な階層構造をした複文の読解に特に力点を置いて演習) 2. 聞き取り力：p2の網羅的分析(特にヒネリ応答)とp3&4の高度な先読み分析などのTOEIC演習を通して、簡単に身につくTOEIC即効テクではなく習得に時間がかかる一方で会話力・長文聞き取り力が上がるTOEIC熟練スキルを磨く 3. 文法力：読解&聞き取りの例文中に出てくる文法項目の個別具体的な解説を通して、学校英語(要は大学入試に特化した受験英語)の制約にしばられない英文を正確に分析するための新しい視点を学ぶ 				
【授業方法】	対面が原則。一部の回(半数を超えない範囲)ではPCを使う遠隔演習を実施(積極的に取り組む姿勢が重要)。 ※詳しいことはUNIPA授業資料でご説明しますので、履修登録期間中にご確認ください。				
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロ：講義全体を通して必要な演習方法を説明(Webサイトの活用法やテキストの使い方など) 2-14. 科学的英文の和訳演習&文法解説とTOEICパート1~4に相当する英文の聞き取り演習&解説など 15. まとめ <p>(一部の講義内容や順番は変わる場合があります) ※シラバスに書ききれない詳細はUNIPA授業資料で(履修登録期間中に仮登録してご確認ください)</p>				
【履修条件】	TOEIC L&R テスト(IPまたは公開)を1回は受験していること。TOEIC部分は大学で基本的な対策講義を受講した2年生以上が主な対象で、1年生にはTOEIC初心者向けの基礎生命科学I&IIを強く推奨。英語科目の選択数が少ない3年生以上のTOEIC対策としての受講も想定(市販テキストの自習では得られない学びを提供)。和訳演習や文法解説は実用科学英語基礎編・基礎生命科学I&II・環境科学英語Iの発展的な内容(受講してなくても履修可能)。理系・文系の区別なく本気で多読・速読力と聞き取り力の向上に取り組みたい人を歓迎。参考までに、重要さ/充実度/満足度の比較調査を最終回に実施したところ、和訳演習vsTOEIC対策がほぼ50:50という結果に。課題Pカードでは「和訳課題が新鮮で面白い/実践的なTOEIC対策/新たな発見が多かった/成長を感じた/TOEIC演習で英語スキルがあがった/自分で英語を勉強する習慣が身についた/先読み予想がとて有益/根本的な英語力を養える/低価格の教材がありたい/解釈の多様性を理解できた/2年生になってTOEIC対策講義がなくなったので助かった」などの感想を多くいただいた一方で、少数ながら「和訳演習は時間がかかる/課題が多く管理が大変」というご意見も(感想には個人差あり)。				
【評価方法】	成績は全て課題(提出状況と内容)で評価。単位認定には3分の2以上の出席が必要(詳細はUNIPA授業資料で)。800点以上のTOEICスコアシート写真を提出すればTOEIC演習を免除する予定(以下のテキスト購入も不要)。				
【テキスト】	「TOEIC L&R TEST パート1・2特急 難化対策ドリル」 森田鉄也 著【朝日新聞出版】 「TOEIC L&R TEST パート3・4特急 実力養成ドリル」 神崎 正哉 / Daniel Warriner 著【朝日新聞出版】 和訳教材として利用する近年のノーベル生理学・医学賞受賞者4名(山中伸弥博士、大村智博士、大隅良典博士、本庶佑博士)の先生方の業績を紹介するノーベル財団公式プレスリリースは電子ファイル等で配布(文系にも理解できる内容ですが、興味がないと苦勞するかも)				
【参考書】					
【備考】	※前期に全学共通科目として以下の講義を担当しますので、科目を選ぶ際の参考にして下さい。 <ol style="list-style-type: none"> 1. この実用科学英語応用編:主に2-4年次対象(大学中級、TOEIC中級-上級) <ul style="list-style-type: none"> 和訳演習(多読速読)と個別的な文法解説 TOEIC対策:p1-4熟練スキル演習&解説(主にp2の網羅的演習とp3&4の高度な先読み演習) 2. 基礎生命科学I:主に1-2年次対象、基本的な大学英語を学び直したい上級生も歓迎(大学初級、TOEIC初級) <ul style="list-style-type: none"> 語彙演習:汎用性が高いDUOで英単語力を維持強化(単語力の低下を実感している上級生も対象、TOEICにも有効) 英文和訳&英作文演習と個別的な文法解説:3-4年次でも丁寧な和訳演習に取り組みたい人には受講を推奨 TOEIC対策:初心者向けp1&2演習&解説 ※後期に担当する全学共通科目も参考までにご紹介しておきます。 <ol style="list-style-type: none"> 3. 実用科学英語基礎編:全年次対象、実用的英文法を包括的に演習&解説(大学初級-上級、TOEIC初級-中級) <ul style="list-style-type: none"> TOEIC対策:p5&6のコツを解説&演習、全p即効テク解説&演習、簡便なp2演習 4. 基礎生命科学II:前期の基礎生命科学Iの継続、初心者向けTOEICp3&4演習&解説 				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	Possible

【科目名】	基礎生命科学 I	Introduction to Life Sciences I		
【開講時期】	2024年度前期	【開講時間】	金曜1限	
【科目責任者】	Toshiro Ohta (太田敏郎)			
【担当教員】	Toshiro Ohta (太田敏郎)			
【授業目標】	The main purpose of this course is to help beginners in English develop their English reading, listening, and some writing skills. Also, students will be introduced to some interesting topics in the field of Life Sciences. 網羅的な生命科学概論が目的ではなく、学生が生命科学関連の基本的な英語表現に慣れ親しみ、科学的内容の英文を読解・作文し聞き取る能力を高めることが主な目標。入試後に衰えがちな語彙力の強化も重視。主に1-2年生(大学初級レベル)の総合的な英語力向上(留学生なら日本語力向上)のための授業ですが、英語のインプット不足で英単語力や長文読解力・文法力が低下している3-4年生への対応も目的の一つ。			
【授業概要】	Students will read news articles from the Voice of America Learning English program that cover interesting topics in Life Sciences and listen to native speakers of English read them aloud. They will also translate these articles into Japanese and back into English. DUO, a general-purpose workbook, will be used for vocabulary building. In addition, important grammatical topics will be covered in detail. 1. 世界中で利用されている英語教材Voice of America Learning English(略してVOA)の生命科学に関するエピソードを正確に和訳する演習：英文を素早く正確に理解するため視覚的に構文解析し、個別的な文法項目を高校よりも詳しく解説 2. VOA英文を再現する英作文演習(聞き取り演習は各自で) 3. 汎用英語例文集DUOを用いた語彙演習(和訳、英訳、聞き取り、発声の4技能)：前半を実施(残りは基礎生命科学IIで) 4. 学生からの要望が多いため、初心者向けの簡単なTOEIC対策：前期はp1&2(後期にp3&4) 5. 大学入学後に学ぶべき実用英語への導入として、一部の項目に絞って英文法解説(現在時制と可算不可算名詞を予定) (1-3は大量の英文と単語・フレーズの意味を正確に理解してインプットし忠実にアウトプット、4もインプット演習だが量少なめ)			
【授業方法】	Students will go through multiple assignments and exercises to improve their English skills. 対面が原則、一部の回(半数を超えない範囲)では遠隔演習も実施。詳細はUNIPA授業資料でご確認ください。			
【授業展開】	1. Course Introduction 2-5. Eating White Rice Increases Risk of Diabetes 6-8. Vitamins: D and the Diet 9-11. Less Salt Can Mean More Life 12-14. Study Links Midlife Belly Fat to Higher Risk of Dementia 15. Course Summary In addition, vocabulary exercises using DUO and TOEIC exercises will be conducted on a near-weekly basis. 一部の講義内容や順番は変わる場合があります。 ※シラバスに書ききれない詳細はUNIPA授業資料で(履修登録期間中に仮登録してご確認ください)			
【履修条件】	Both natural science students and social science students can participate. 学部・学年を問わず英単語力・長文読解力の強化や科学英語に興味がある学生を歓迎。国際関係学部と経営情報学部の学生も数多く受講(多い年で約5割、平均で約2割)。食品栄養科学部の食品生命科学科と栄養生命科学科の1&2年生で科学英語科目を補いたい学生には受講を推奨。環境生命科学科の学生はDUOなど一部の演習が環境科学英語と重複しますが、その点を理解した上で受講可能。文法に自信がない学生は、後期の実用科学英語基礎編で英文法を包括的に学ぶ前にこの基礎生命科学Iで個別的な文法解説に慣れておくことを強くお勧めします。参考までに、最終回に実施したまとめアンケートでは、DUO演習(学生ペアワーク)・VOA演習(丁寧な和訳解説)・英文法解説(現在時制と可算不可算名詞)・TOEIC対策の4項目が後輩に薦めたいポイントとしてほぼ等しい数の受講生から最も多く挙げられていました。			
【評価方法】	Evaluation will be based on assignments. Must not miss more than 1/3 of the weekly classes. 成績は全て課題(提出状況と内容)で評価。単位認定には3分の2以上の出席が必要(詳細はUNIPA授業資料で)。 500点以上のTOEICスコアシート写真を提出すればTOEIC演習を免除する予定(以下のTOEIC初心者特急テキスト購入も不要)。			
【テキスト】	鈴木陽一 著「DUO 3.0」[アイシーピー](全員購入必要) 神崎 正哉 / Daniel Warriner 著「TOEIC L&R TEST 初心者特急パート1・2」[朝日新聞出版] VOA episodes and other materials will be handed out whenever necessary.			
【参考書】				
【備考】	※前期に全学共通科目として以下の講義を担当しますので、科目を選ぶ際の参考にして下さい。 1. この基礎生命科学I:主に1-2年次対象、大学英語の基礎を学び直したい上級生も歓迎(大学初級、TOEIC初級) DUO語彙演習で汎用英単語力を維持強化(TOEICにも有効、英文和訳&英作文演習と個別的な文法解説 TOEIC対策:初心者向けp1&2演習&解説 2. 実用科学英語応用編:主に2-4年次対象(大学中級、TOEIC中級-上級) 和訳演習(多読速読)と個別的な文法解説 TOEIC対策:p1-4熟練スキル演習&解説(主にp2の網羅的演習とp3&4の高度な先読み演習) ※後期に担当する全学共通科目も参考までにご紹介しておきます。 3. 基礎生命科学II:前期の基礎生命科学Iの継続、初心者向けTOEICp3&4演習&解説 4. 実用科学英語基礎編:全年次対象、実用的英文法を包括的に演習&解説(大学初級-上級、TOEIC初級-中級) TOEIC対策:p5&6のコツを解説&演習、全p即効テク解説&演習、スキマ時間に簡便なp2演習			
【社会人聴講生】	Not possible	【科目等履修生】	Not possible	【交換留学生】 Possible

【科目名】	基礎生命科学 II	Introduction to Life Sciences II			
【開講時期】	2024年度後期	【開講時限】	金曜1限		
【科目責任者】	Toshiro Ohta (太田敏郎)				
【担当教員】	Toshiro Ohta (太田敏郎)				
【授業目標】	The main purpose of this course is to help beginners in English develop their English reading, listening, and some writing skills. Also, students will be introduced to some interesting topics in the field of Life Sciences. 網羅的な生命科学概論が目的ではなく、学生が生命科学関連の基本的な英語表現に慣れ親しみ、科学的内容の英文を読解・作文し聞き取る能力を高めることが主な目標。入試後に衰えがちな語彙力の強化も重視。主に1-2年生(大学初級レベル)の総合的な英語力向上(留学生なら日本語力向上)のための授業ですが、英語のインプット不足で英単語力や長文読解力・文法力が低下している3-4年生への対応も目的の一つ。				
【授業概要】	Students will read news articles from the Voice of America Learning English program that cover interesting topics in Life Sciences and listen to native speakers of English read them aloud. They will also translate these articles into Japanese and back into English. DUO, a general-purpose wordbook, will be used for vocabulary building. In addition, important grammatical topics will be covered in detail. 1. 世界中で利用されている英語教材Voice of America Learning English(略してVOA)の生命科学に関するエピソードを正確に和訳する演習: 英文を素早く正確に理解するため視覚的に構文解析し、個別的な文法項目を高枚よりも詳しく解説 2. VOA英文を再現する英作文演習(聞き取り演習は各自で) 3. 汎用英語例文集DUOを用いた語彙演習(和訳、英訳、聞き取り、発声の4技能): 前期の基礎生命科学Iの継続(後半部分) 4. 学生からの要望が多いため、初心者向けの簡単なTOEIC対策: 後期はp3&4(前期にp1&2) (1-3は大量の英文と単語・フレーズの意味を正確に理解してインプットし忠実にアウトプット、4もインプット演習だが量少なめ)				
【授業方法】	Students will go through multiple assignments and exercises to improve their English skills. 対面が原則、一部の回(半数を超えない範囲)では遠隔演習も実施。詳細はUNIPA授業資料でご確認ください。				
【授業展開】	1. Course Introduction 2-5. Fat Cell Gene Linked to Colon Cancer 6-8. Long History, Unclear Future for 'Golden Rice' 9-11. Gut Bacteria: We Are What We Eat 12-14. Progress Made in Fight Against Ebola 15. Course Summary In addition, vocabulary exercises using DUO and TOEIC exercises will be conducted on a near-weekly basis. 一部の講義内容や順番は変わる場合があります。 ※シラバスに書ききれない詳細はUNIPA授業資料で(履修登録期間中に仮登録してご確認ください)				
【履修条件】	Both natural science students and social science students can participate. 学部・学年を問わず英単語力・長文読解力の強化や科学英語に興味がある学生を歓迎。国際関係学部と経営情報学部の学生も数多く受講(多い年で約5割、平均で約2割)。食品栄養科学部の食品生命科学科と栄養生命科学科の1&2年生で科学英語科目を補いたい学生には受講を推奨。環境生命科学科の学生はDUOなど一部の演習が環境科学英語Iと重複しますが、その点を理解した上で受講可能。文法に自信がない学生は、英文法を包括的に学ぶ実用科学英語基礎編と並行してこの基礎生命科学IIで個別的な文法事項について学ぶことを強くお勧めします。参考までに、最終回に実施したまとめアンケートでは、後輩に受講を薦めたいポイントとしてDUO演習(学生ペアワーク)が圧倒的に多く挙げられていました(受講者の過半数がDUOペアワーク演習を気に入って前期の基礎生命科学Iから継続受講した模様)。				
【評価方法】	Evaluation will be based on assignments. Must not miss more than 1/3 of the weekly classes. 成績は全て課題(提出状況と内容)で評価。単位認定には3分の2以上の出席が必要(詳細はUNIPA授業資料で)。				
【テキスト】	鈴木隆一 著「DUO 3.0」[アイシーピー] 神崎 正哉 / Daniel Warriner 著「TOEIC L&R TEST 初心者特急パート3」[朝日新聞出版] 神崎 正哉 / Daniel Warriner 著「TOEIC L&R TEST 初心者特急パート4」[朝日新聞出版] VOA episodes and other materials will be handed out by the instructor whenever necessary.				
【参考書】					
【備考】	※後期に全学共通科目として以下の講義を担当しますので、科目を選ぶ際の参考にして下さい。 1. この基礎生命科学IIに主に1-2年次対象、大学英語の基礎を学び直したい上級生も歓迎(大学初級、TOEIC初級) DUO語彙演習で汎用英単語力を維持強化(TOEICにも有効、英文和訳&英作文演習と個別的な文法解説 TOEIC対策: 初心者向けp3&4演習&解説 (いずれも基本的に前期の基礎生命科学Iの継続) 2. 実用科学英語基礎編: 全年次対象、実用的英文法を包括的に演習&解説(大学初級-上級、TOEIC初級-中級) TOEIC対策:p5&6のコツを解説&演習、全p即効テク解説&演習、スキマ時間に簡便なp2演習 ※前期に担当する全学共通科目も参考までに紹介しておきます。 3. 基礎生命科学I: 後期の基礎生命科学IIの前半に相当、初心者向けTOEICp1&2演習&解説 4. 実用科学英語応用編: 主に2-4年次対象(大学中級、TOEIC中級-上級) 和訳演習(多読速読)と個別的な文法解説、TOEICp1-4熟練スキル演習&解説				
【社会人聴生】	Not possible	【科目等履修生】	Not possible	【交換留学生】	Possible

【科目名】	現代日本文化入門 A	Introduction to Japanese Culture A		
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	火曜 1 限	
【科目責任者】	ファイファー マティアス			
【担当教員】	Matthias PFEIFER			
【授業目標】	To understand the characteristics and images of the Japanese society through works of art. 映画、文学、漫画を通して近現代日本社会を理解する			
【授業概要】	この授業は外国人留学生も日本人の学部生も履修できる。 The course is designed for: 1.For short term foreign students, foreign exchange students, foreign research students of all faculties. 2.All other university students (foreign students, Japanese students) who want to talk about Japanese culture in English. In order to promote Japanese culture even among people with insufficient knowledge of the Japanese language, English, the lingua franca of our times, is an effective tool to do so. Therefore, it is important that Japanese people can explain their own culture in English, and this lecture is designed to serve this purpose.			
【授業方法】	この講義は英語と日本語で行うので英語に自信のない人でも歓迎する。 This lecture is given in English with the support of English/Japanese PowerPoint slides. There also will be opportunities for the participants to engage in discussions about Japanese culture. Furthermore, a presentation at the end of the course is another chance to talk about topics of ones choice.			
【授業展開】	<ul style="list-style-type: none"> ① Course guidance and introduction (講義案内と概念) ② The structure of the self: Natsume S?seki and the birth of modern Japanese literature (自己の構造: 夏目漱石と現代日本文学の誕生) ③ Search for the lost beauty of the past: Nagai Kaf? and the age of militarism (失われた美の探求: 軍国主義の時代における永井荷風) ④ The Axis of Evil: West and East in "The Daughter of the Samurai" (悪の枢軸: 『新しき土』における西洋と東洋) ⑤ Post-war decadence: Sakaguchi Ango and the Japanese culture discourse (戦後の墮落: 坂口安吾と日本人論) ⑥ Generation gaps in films by ?zu Yasujir?' s. (小津の映画: 経済成長の裏における庶民の生活) ⑦ PowerPoint Presentation(パワーポイントプレゼン) 			
【履修条件】	None 特にない			
【評価方法】	Final Exam 100% 期末試験 100%			
【テキスト】				
【参考書】	The Cambridge Companion to Modern Japanese Culture (Cambridge University press 2009)			
【備考】	Contact・相談:pfeifer39@u-shizuoka-ken.ac.jp			
【社会人聴講生】		【科目等履修生】		【交換留学生】 交換留学が履修できる授業です。 Exchange students are welcomed.

【科目名】	現代日本文化入門 B	Introduction to Japanese Culture B			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	火曜 1 限		
【科目責任者】	ファイファー マティアス				
【担当教員】	Matthias PFEIFER				
【授業目標】	映画、文学、漫画を通して近現代日本社会を理解する To understand the characteristics and images of the Japanese society through works of art.				
【授業概要】	この授業は外国人留学生も日本人の学部生も履修できる。 The course is designed for: 1.For short term foreign students, foreign exchange students, foreign research students of all faculties. 2.All other university students (foreign students, Japanese students) who want to talk about Japanese culture in English. In order to promote Japanese culture even among people with insufficient knowledge of the Japanese language, English, the lingua franca of our times, is an effective tool to do so. Therefore, it is important that Japanese people can explain their own culture in English, and this lecture is designed to serve this purpose.				
【授業方法】	この講義は英語と日本語で行うので英語に自信のない人でも歓迎する。 This lecture is given in English with the support of English/Japanese PowerPoint slides. There also will be opportunities for the participants to engage in discussions about Japanese culture. Furthermore, a presentation at the end of the course is another chance to talk about topics of ones choice.				
【授業展開】	1. War and guilt: the comic-author Mizuki Shigeru between war-experience and utopia.(戦争責任:水木しげるの戦記漫画) 2. Revolution now!: Terrorism and students movement seen by the movie director Wakamatsu K?ji. (社会革命の夢:若松孝二のサブカルチャ映画) 3. Images of modern family: Kazoku game (1983)(現代家族の風刺化:『家族ゲーム』) 4. Women in modern society: Autobiographical comics from Uchida Shungicu. (女性差別:漫画家内田春菊の戦い) 5. The rise of cultural nationalism: The Comic-essayist Kobayashi Yoshinori (現代社会の右傾化:小林よしのりと『戦争論』) 6. A symbol of pride or shame?: The controversial Yasukuni Shrine (恥の象徴なのか、それとも誇るべき象徴なのか:靖国神社の論争) 7. Japan seen from the outside: "Lost in Translation" and "The Last Samurai" (外からみた日本:『ロスト・イン・トランスレーション』と『ラストサムライ』) 8. Movie (映画上映)				
【履修条件】	None 特になし				
【評価方法】	Final Exam・期末試験 100%				
【テキスト】					
【参考書】	The Cambridge Companion to Modern Japanese Culture (Cambridge University press 2009)				
【備考】					
【社会人聴講生】		【科目等履修生】	交換留学が履修できる授業です。 Exchange students are welcomed.	【交換留学生】	

【科目名】	経営分析入門 A	Introduction to business analysis A			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	木曜 1 限		
【科目責任者】	UENO Takefumi(上野 雄史)				
【担当教員】	UENO Takefumi(上野 雄史), 竹下 誠 二 郎 (TAKESHITA Seijiro), カウクルアムアン アムナー (KHAOKHRUEAMUANG Amnaj)				
【授業目標】	<p>This course introduces the fundamental concepts of business and financial analysis and equips students with the ability to make meaningful financial decisions .</p> <p>The course consists of four integrated parts:</p> <ul style="list-style-type: none"> •Business analysis •Financial statement In 				
【授業概要】	<p>This course is designed to prepare students to interpret and analyze business structure effectively. It is designed primarily for students who are interested in how companies operate.</p>				
【授業方法】	<p>Readings, case studies and other materials are assigned for each class. You should come to class prepared to discuss your analysis of the cases and problems. Attending every class is important and required.</p>				
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> 1.Introduction to course:What is business and financial statement analysis?(Pro. Ueno) 2.Basic concept of business analysis(Pro. Ueno) 3. Efficiently and profitability analysis (Pro. Ueno) 4. Basic concept of management and governance(Pro. Takeshita) 5. Management and Governance:Comparison among Japan, Europe and US (Pro. Takeshita) 6. Strategy(Pro. Takeshita) 7. Fundamentals concepts of tourism and tea tourism (Pro. Khaokhrueamuang) 8. Review (Pro. Ueno) 				
【履修条件】					
【評価方法】	<p>Student performance will consist of class participation, assignments, a final case analysis project and presentation, and a final exam. These will be evaluated with the following weights:</p> <ul style="list-style-type: none"> •Class participation 10% •Assignments 20% •Final case analy 				
【テキスト】	Selected readings and articles distributed in class and/or posted online				
【参考書】					
【備考】					
【社会人聴講生】	受講可	【科目等履修生】	受講可	【交換留学生】	受講可

【科目名】	経営分析入門 B	Introduction to business analysis B			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	木曜 1 限		
【科目責任者】	UENO Takefumi(上野 雄史)				
【担当教員】	UENO Takefumi(上野 雄史), 竹下 誠 二 郎 (TAKESHITA Seijiro), カウクルアムアン アムナー (KHAOKHRUEAMUANG Amnaj)				
【授業目標】	<p>This course introduces the fundamental concepts of business and financial analysis and equips students with the ability to make meaningful financial decisions .</p> <p>The course consists of four integrated parts:</p> <ul style="list-style-type: none"> •Business analysis •Financial statement 				
【授業概要】	<p>This course is designed to prepare students to interpret and analyze business structure effectively. It is designed primarily for students who are interested in how companies operate.</p>				
【授業方法】	<p>Readings, case studies and other materials are assigned for each class. You should come to class prepared to discuss your analysis of the cases and problems. Attending every class is important and required.</p>				
【授業展開】	<p>Introduction to Business Analysis B</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Segment analysis(Pro. Ueno) 2. Stock price Analysis(Pro. Ueno) 3.Case study1 (Pro. Ueno) 4. Sustainable Tourism (Pro.Khaokhruemuang) 5. Case study 2 (Pro.Khaokhruemuang) 6.Governance and Internationalization (Pro. Takeshita) 7. Case study3(Pro. Takeshita) 8. Review (Pro. Ueno) 				
【履修条件】	In order to take this course, students must have taken course of Introduction to business analysis A.				
【評価方法】	<p>Student performance will consist of class participation, assignments, a final case analysis project and presentation, and a final exam. These will be evaluated with the following weights:</p> <ul style="list-style-type: none"> •Class participation 10% •Assignments 20% •Final case analy 				
【テキスト】	Selected readings and articles distributed in class and/or posted online				
【参考書】					
【備考】	In order to take this course, students must have taken course of Introduction to business analysis A.				
【社会人聴講生】	受講可	【科目等履修生】	受講可	【交換留学生】	受講可

【科目名】	英語で学ぶ日本語学 I A	Introduction to Japanese Linguistics I A			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	木曜 2 限		
【科目責任者】	Atsushi Fujimori				
【担当教員】	*Atsushi Fujimori				
【授業目標】	This course provides an introduction to the field of Japanese linguistics for students. It focuses on the areas of phonetics, phonology, and morphology. Through systematic analysis of empirical data from Japanese, students will gain a foundational understanding of language structure.				
【授業概要】	The course is organized into two main sections. Initially, students will engage in readings to understand the theoretical and empirical issues related to Japanese phonetics, phonology, and morphology. Subsequently, they will be encouraged to discuss these				
【授業方法】	Students are required to submit a written summary of each reading.				
【授業展開】	1. Introduction 2. Phonetics: Consonants 3. Phonetics: Vowels 4. Phonetics: Suprasegmental features 5. Phonological rules 6. Mora vs. Syllable 7. Prosody (Take-home exam)				
【履修条件】	The course will be conducted in English. For each class session, students must read a journal article in English. It is crucial to attend the first class, where further details will be provided.				
【評価方法】	Class participation (50%), Assignments & Presentation (30%)、Take-Home Exam (20%)				
【テキスト】	Readings are provided in class.				
【参考書】	Tsujimura, N., (2014). An Introduction to Japanese Linguistics 3rd Edition. Blackwell.				
【備考】	Based on the instructor's previous non-academic professional experience, the instructor can apply transferable skills to contribute to developing students' English skills.				
【社会人聴講生】	welcome	【科目等履修生】	welcome	【交換留学生】	welcome

【科目名】	英語で学ぶ日本語学 I B	Introduction to Japanese Linguistics I B			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	木曜 2 限		
【科目責任者】	*Atsushi Fujimori				
【担当教員】	*Atsushi Fujimori				
【授業目標】	This course provides an introduction to the field of Japanese linguistics for students. It focuses on the areas of phonetics, phonology, and morphology. Through systematic analysis of empirical data from Japanese, students will gain a foundational understanding of language structure.				
【授業概要】	The course is organized into two main sections. Initially, students will engage in readings to understand the theoretical and empirical issues related to Japanese phonetics, phonology, and morphology. Subsequently, they will be encouraged to discuss these				
【授業方法】	Students are required to read an assigned material for each class.				
【授業展開】	1. Morphology – Parts of speech 2. Morphology – Word formation 3. Issues in Japanese morphology 1: Transitive and intransitive verb pairs 4. Issues in Japanese morphology 2: Nominalization 5. Issues in Japanese morphology 3: Compounding 6. Acquisition issues in morphology 7. Acquisition issues in morpho-phonology 8. Review (Take-home exam)				
【履修条件】	The course will be conducted in English. For each class session, students must read a journal article in English. It is crucial to attend the first class, where further details will be provided.				
【評価方法】	Class participation (50%), assignments & short presentations (30%), Take-home exam (20%)				
【テキスト】	A reading list will be provided in class.				
【参考書】	Tsujiura, N., (2014). An Introduction to Japanese Linguistics 3rd Edition. Blackwell.				
【備考】	Based on the instructor's previous non-academic professional experience, the instructor can apply transferable skills to contribute to developing students' English skills.				
【社会人聴講生】	Welcome	【科目等履修生】	welcome	【交換留学生】	welcome

【科目名】	英語で学ぶ日本語学ⅡA	Introduction to Japanese Linguistics ⅡA			
【開講時期】	2024年度後期	【開講時限】	集中講義		
【科目責任者】	吉村紀子				
【担当教員】	吉村紀子				
【授業目標】	This course introduces students to the field of Japanese linguistics. We will focus on the areas of syntax and semantics. Students are encouraged to acquire basic knowledge of Japanese linguistics and understand how to do linguistic research. This course is helpful for students who want to become a teacher of English or Japanese as a foreign/second language.				
【授業概要】	The course schedule is divided into the following two sections: Syntax and Semantics. We will focus on several main issues in Japanese syntax and semantics by investigating some important phenomena from Japanese-English comparative perspectives.				
【授業方法】	集中講義(オンライン・オンデマンド:12月23日(月)1限目~2限目,5限目、対面授業:12月24日(火)1~5限目 (12月23日(月)はオンライン・オンデマンドでの授業となります。) (12月24日は教室での対面授業となります。)				
【授業展開】	1. Syntax (3 weeks) Word Order Japanese Case-Marking System GA-NO Conversion 2. Syntax-Semantics (3 weeks) Argument Structure Scrambling Relative Clauses 3. Review and Summary				
【履修条件】	Students are required to attend every class and participate in class activities.				
【評価方法】	Quiz & Summary report (50%) and Final Exam (50%)				
【テキスト】	Reading materials will be provided in class.				
【参考書】	Introduction to Japanese Linguistics Third Edition (Tsujimura, Blackwell) Handbook of Japanese Syntax (De Gruyter Mouton, 2018)				
【備考】	毎時間、講義の内容に質疑応答を行い、要点についてまとめます(英語・日本語)。 まとめ試験1回(Take-Home)(日本語・英語)				
【社会人聴講生】	Welcome	【科目等履修生】	Welcome	【交換留学生】	Welcome

【科目名】	英語で学ぶ日本語学ⅡB	Introduction to Japanese Linguistics ⅡB			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	集中講義		
【科目責任者】	吉村紀子				
【担当教員】	Noriko Yoshimura, Ph.D.				
【授業目標】	This course introduces students to the field of Japanese linguistics. We will focus on the areas of discourse-pragmatics, language change, and language variation. Students will learn how to conduct a Japanese-English comparative linguistic analysis and design an experiment on language change, and L2 Japanese acquisition.				
【授業概要】	集中講義(12月26日(木)~12月27日(金)対面授業)				
【授業方法】	Students are required to attend the 1st class online to understand what they are expected to achieve in this course. (毎時間、講義の内容について質疑応答を実施し、要点についてまとめ、内容の理解を確認する。)(英語・日本語) (積極的な参加が期待される。)				
【授業展開】	1. Syntax-Semantics Interface (2 weeks) Passives-2 types Passives in Infinitives 2. Pragmatics (2 weeks) GA vs. WA Pronouns in Discourse 3. Language Change and Dialectal Variations (2 weeks) Historical Changes Synchronic Changes 4. Review and Summar				
【履修条件】	Students are required to submit a summary report in English or Japanese and pass a take-home exam.				
【評価方法】	Quiz & summary report (50%) and a take-home exam (50%)				
【テキスト】	Materials will be provided in class.				
【参考書】	An Introduction to Japanese Linguistics (Tsujimura, N. Blackwell, 2014). Handbook of Japanese Syntax (De Gruyter Mouton, 2017 年)				
【備考】	授業は原則として対面授業となります。				
【社会人聴講生】	Welcome	【科目等履修生】	Welcome	【交換留学生】	Welcome

【科目名】	財務会計入門 A	Introduction to Financial Accounting A			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	木曜 1 限		
【科目責任者】	Takefumi UENO(上野 雄史)				
【担当教員】	Takefumi UENO(上野 雄史)				
【授業目標】	This course sets three objectives for students. The first objective is to understand the basic concept of financial accounting. The second is to get used to reading an annual report for a company. The third is to have the ability to analyze basic contents				
【授業概要】	In this course, students learn the basic skills of financial accounting and analyze financial conditions and performance. Accounting is a business language. The first, students learn the bookkeeping and accrual accounting systems in financial accounting. These concepts are key to understanding financial accounting. Second, they learn how to read and analyze financial information for companies. After completing this course, students will be able to read the financial information in English without difficulty.				
【授業方法】	Discussion and case studies based on homework.				
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to financial accounting. 2. Basic concepts of bookkeeping system. 3. Basic concepts of accrual accounting 4. Basic concepts of financial information. 5. Let's read annual report! 6. What is the point of analyzing financial information? 7. Case studies(1) 8. Case studies(2) 				
【履修条件】	In this course , students must speak English in every classes and write homework in English.				
【評価方法】	Homework for each class (20%) , contribution to classes(20%), middle and final reports(60%) Students are required to attend at least 80%.				
【テキスト】	I prepare materials before starting classes.				
【参考書】					
【備考】	Students must speak English in every classes and write homework in English.				
【社会人聴講生】	Auditors must speak English in every classes and write homework in English.	【科目等履修生】	Credited auditors must speak English in every classes and write homework in English.	【交換留学生】	

【科目名】	財務会計入門 B	Introduction to Financial Accounting B			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	木曜 1 限		
【科目責任者】	Takefumi UENO(上野 雄史)				
【担当教員】	Takefumi UENO(上野 雄史)				
【授業目標】	This course sets three objectives for students. The first objective is to analyze the corporate strategy in the annual report. The second is to get used to technique of the business analysis (EBITDA, ROA, ROE and etc.). The third is to have the ability to				
【授業概要】	In this course, students learn theory of corporate strategy and business analysis in the annual report. Students can read corporate strategy and characteristics from the annual report. In the first, they understand what are key points of annual report. In the next, they learn to how to technique of the business analysis. Finally, students get used to use two techniques through case studies. After completing this course, students will be able to read and analyze annual report without difficulty in English.				
【授業方法】	Discussion and case studies based on homework				
【授業展開】	1.Introduction to financial accounting 2.Basic theory corporate strategy(1) 3.Basic theory corporate strategy(2) 4.Basic technique of business analysis 5.Let's read annual report! 6.What are the key points of annual report? 7.Case studies(1) 8. Case studies(2)				
【履修条件】	Students must speak English in every classes and write homework in English. In order to take this course, students must have taken course of Introduction to financial accounting A.				
【評価方法】	Homework for each class (20%) , contribution to classes(20%), middle and final reports(60%) Students are required to attend at least 80%.				
【テキスト】	I prepare materials before starting classes.				
【参考書】					
【備考】	Students must speak English in every classes and write homework in English.				
【社会人聴講生】	Auditors must speak English in every classes and write homework in English.	【科目等履修生】	Credited auditors must speak English in every classes and write homework in English.	【交換留学生】	履修可

【科目名】	言語の学習・習得 I A	Introduction to Language Learning and Acquisition I A
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】 集中講義
【科目責任者】	吉村紀子	
【担当教員】	吉村紀子	
【授業目標】	This course introduces undergraduate students to the field of foreign/second language learning and acquisition. To help students understand some main issues in second language acquisition (SLA), we will discuss theoretical principles and empirical findings available in the SLA literature. This course aims to offer students a good chance to reflect on their experience in learning English or Japanese from the viewpoint of L1 transfer.	
【授業概要】	<p>We will focus on several main topics exploring the following questions:</p> <p>(1) How second language (L2) is different from first language (L1) —What is Grammar?</p> <p>(2) what role L1 plays in second language acquisition (SLA) —Critical Period Hypothesis versus Generative Grammar's Proposal</p> <p>(3) what factors are responsible for Japanese-speaking learners' difficulties in acquiring L2 English</p> <p>(4) what is the nature of L1 transfer.</p> <p>Topics to be discussed: WH-questions, pied-piping versus preposition stranding, reflexive binding, and bound variable binding.</p> <p>Students will be encouraged to apply their knowledge to the practical aspects of the teaching of English or Japanese as a foreign language.</p>	
【授業方法】	<p>集中講義(9月19日(木)~9月20日(金))</p> <p>The schedule is as follows: 1st Lecture ~8th Lectures —in-face(対面授業)</p> <p>毎時間、講義内容について質疑応答・議論の時間を設けたい(日本語・英語)。</p>	
【授業展開】	<p>1. Introduction</p> <p>2. Modularity of Grammar, interface theory, critical period hypothesis (Chap. 1)</p> <p>3. How L2 acquisition is different from L1 acquisition (Chap. 1)</p> <p>3. Morphological inflections: 3rd person singular -s vs. plural -s vs. past -ed (Chap. 2)</p> <p>4. Wh-movement: Easy or difficult to understand? (Chap.3)</p> <p>5. Pied-piping and Preposition Stranding: Which is more difficult for Japanese learners of English? (Chap.3)</p> <p>6. Reflexives: Himself vs. Zibun (Chap. 4)</p> <p>7. Bound Variable Interpretations: Who is "he"? (Chap. 4)</p> <p>8. Review and Final Exam</p>	
【履修条件】	This course will be conducted in English.	
【評価方法】	Quizzes and presentations (50%) and final exam (50%)	
【テキスト】	第二言語習得研究への誘い—理論から実証へ(吉村紀子・中山峰治著、くろしお出版、2018年)	
【参考書】	Handbook of Japanese Psycholinguistics (De Gruyter Mouton, 2017年)	
【備考】	<p>授業はパワーポイント資料を用いて実施する。</p> <p>(授業の前に教科書の該当章を予習しておくことが重要である。)</p> <p>資料内容やデータを注意深く考察し、論理的に、簡潔にまとめることを学習する。</p>	
【社会人聴講生】	Welcome.	【科目等履修生】 Welcome.
		【交換留学生】 Welcome

【科目名】	言語の学習・習得 I B	Introduction to Language Learning and Acquisition I B			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	集中講義		
【科目責任者】	吉村紀子				
【担当教員】	吉村紀子				
【授業目標】	This course introduces graduate students to several main issues in the field of second (or foreign) language acquisition (SLA). We will discuss theoretical issues and empirical findings available in recent SLA studies. This course aims to offer students a good chance to reflect on their experience in learning English or Japanese from L1 transfer perspectives.				
【授業概要】	<p>We will focus on several topics exploring the following questions:</p> <p>(1) How L2 is different from L1</p> <p>(2) What role L1 plays in second language acquisition (SLA)</p> <p>(3) what factors are responsible for L1 transfer.</p> <p>Students will be encouraged to apply their knowledge to the practical aspects of foreign language teaching and learning.</p>				
【授業方法】	<p>集中講義 (対面授業: 9 月 26 日(木) ~ 9 月 27 日(金))</p> <p>Lectures will be provided in English. (毎時間、講義内容についての質疑応答・ディスカッションの時間を設けます。)(日本語・英語)</p>				
【授業展開】	<p>We will focus on the following issues in the field of second language acquisition (SLA):</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction—Modularity of Grammar, Historical Background of SLA 2. Control and Tough Constructions—PRO subject (Chap. 6) 3. NP—Movement and Raising Constructions (Chap. 6) 4. Seem Constructions 5. Passives 6. Relative Clauses 1 (Structures & Issues) 7. Relative Clauses 2 (Subject vs. Object Relative Clauses) 8. Pronouns in Narratives 				
【履修条件】	This course will be conducted in English. The assigned textbook will be helpful. (授業の前に教科書の該当章を予習してください。)				
【評価方法】	Quizzes & Presentations (50%) and Final Exam (50%)				
【テキスト】	「第二言語習得研究への誘い—理論から実証へ」(吉村・中山著、くろしお出版、2018 年)				
【参考書】	Handbook of Japanese Psycholinguistics (De Gruyter Mouton, 2015 年)				
【備考】	<p>講義はパワーポイント資料を用いて実施する。</p> <p>講義内容をまとめた発表を随時お願いする(日本語可)。</p> <p>将来、英語あるいは日本語の教師になりたい学生にとって興味深い内容で有益な学習となる。</p>				
【社会人聴講生】	Welcome	【科目等履修生】	Welcome	【交換留学生】	Welcome

【科目名】	言語の学習・習得 II A	Introduction to Language Learning andAcquisition II A			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	木曜 2 限		
【科目責任者】	Atsushi Fujimori				
【担当教員】	*Atsushi Fujimori				
【授業目標】	1. Students can explain basic concepts of second language acquisition to others. 2. Students can critically read English journal articles of experimental studies on second language acquisition.				
【授業概要】	This course is designed to introduce the study of second language acquisition. We will explore both the timing and methods through which learners of a second or foreign language acquire the linguistic components of the target grammar.				
【授業方法】	Each class consists of a lecture on the following topics.				
【授業展開】	1. Introduction: A general view of L2 acquisition (1 week) 2. Aspect (3 weeks) •Form-before-Meaning Hypothesis •Telicity •Feature Assembly Hypothesis 3. Prosody (3 weeks) •Focus marking •Prosodic Boundaries •Prepositions and Articles Topic-based presentation				
【履修条件】	This course is ideal for students interested in language learning and the acquisition process. The course is conducted in English.				
【評価方法】	Class participation (50%), quizzes and short presentations (30%), take-home exam (20%)				
【テキスト】	第二言語習得研究への誘いー理論から実証へ				
【参考書】					
【備考】	Based on the instructor's previous non-academic professional experience, the instructor can apply transferable skills to contribute to developing students' English skills.				
【社会人聴講生】	welcome	【科目等履修生】	welcome	【交換留学生】	welcome

【科目名】	言語の学習・習得 II B	Introduction to Language Learning and Acquisition II B			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	木曜 2 限		
【科目責任者】	Atsushi Fujimori				
【担当教員】	*Atsushi Fujimori				
【授業目標】	1. Students can explain basic concepts of second language acquisition to others. 2. Students can critically read English journal articles of experimental studies on second language acquisition.				
【授業概要】	This course is designed to introduce the study of second language acquisition. We will explore both the timing and methods through which learners of a second or foreign language acquire the linguistic components of the target grammar.				
【授業方法】	Each class consists of a lecture on the following topics.				
【授業展開】	1. Pronouns in the discourse (3 weeks) <ul style="list-style-type: none"> ▪ Overt and covert pronouns ▪ Pronouns in L1 ▪ Pronouns in L2 2. Answering strategies (2 weeks) <ul style="list-style-type: none"> ▪ Types and characteristics ▪ L1 English ▪ L2 English 3. Prepositions (2 weeks) <ul style="list-style-type: none"> ▪ Lexical and syntactic properties of prepositions ▪ Prepositions in L2 4. Review & short presentation (1 week) (Takehome exam)				
【履修条件】	This course is ideal for students interested in language learning and the acquisition process. The course is conducted in English.				
【評価方法】	Class participation (50%), quizzes and short presentations (30%), take-home exam (20%)				
【テキスト】	第二言語習得研究への誘いー理論から実証へ				
【参考書】					
【備考】	Based on the instructor's previous non-academic professional experience, the instructor can apply transferable skills to contribute to developing students' English skills.				
【社会人聴講生】	Welcome	【科目等履修生】	Welcome	【交換留学生】	Welcome

【科目名】	静岡の健康長寿を支える取り組みと人々	Health and Longevity Support in Shizuoka: Experts and Efforts in the Prefecture			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	金曜 1 限		
【科目責任者】	*森本達也				
【担当教員】	*森本達也、富安真理、*新井英一、黒川洵子、*東野定律、井上和幸、*伊藤純子、坂本多穂、刀坂泰史、*前野真由美、*木村綾、砂川陽一、浜辺俊秀、三崎健太郎、ヘムストックウエンディリアン、*永谷実穂、川上由香、清水聡史、児玉昌美、*特別講師				
【授業目標】	現在日本では、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい、医療、予防、生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築が進められている。静岡県は、全国トップクラスの健康長寿県と言われており、そのような地域での実際の行政や様々な専門職の役割や活動について学び、さらには地域で人々が連携していくための考え方を学ぶ。				
【授業概要】	静岡県内の健康長寿を推進する地域包括ケアの概念を学び、それに基づき運営される各種の組織とその活動を理解するとともに、それを担う専門職とその役割、そして各職種の取り組みを紹介し、自らの健康づくりと、さらには地域の健康づくりになにが貢献できるかを考える。				
【授業方法】	講義や課題学習など学生が参加できる方法を併用して行う。				
【授業展開】	1 ガイダンス 2 地域包括ケアシステムと静岡県内の健康づくりの概要 3 健康長寿を支える専門職 1・・・医師 4 健康長寿を支える専門職 2・・・看護師 5 健康長寿を支える専門職 3・・・薬剤師 6 健康長寿を支える専門職 4・・・保健師・助産師 7 健康長寿を支える専門職 5・・・理学療法士 8 健康長寿を支える専門職 6・・・社会福祉士 9 健康長寿を支える専門職 7・・・歯科衛生士 10 健康長寿を支える専門職 8・・・行政の役割 11 健康長寿を支える専門職 9・・・作業療法士 12 健康長寿を支える専門職 10・・・外国人への支援 13 健康長寿を支える専門職 11・・・ボランティアの役割 14 健康長寿を支える専門職 12・・・管理栄養士 15 健康長寿を支える専門職 13・・・介護支援専門員				
【履修条件】					
【評価方法】	ミニレポート・授業への参加度(56%)および筆記試験・レポートなど(44%)により評価します。よって総合的に評価する。 全講義回数の 3 分の 2 以上の出席が単位認定に必須である。				
【テキスト】	必要に応じて資料を配布する。参考書は授業の中で紹介する。				
【参考書】					
【備考】	特別講師の都合で順番を変更することがあります。 実務に携わっている特別講師が、オムニバス形式により、その経験を活かして、具体的な活動や考え方を講義する。 基本的には対面講義形式をとるか?、場合によってはオンライン講義形式等もある。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	静岡の防災と医療	Disaster Prevention and Medical Care in Shizuoka			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	水曜 1 限		
【科目責任者】	*森本達也				
【担当教員】	*森本達也、谷澤康玄、砂川陽一、*賀川義之、黒川洵子、坂本多穂、刀坂泰史、*浜辺俊秀、清水聡史、児玉昌美、*特別講師				
【授業目標】	東日本大震災や熊本地震では、津波の影響や土砂崩れ等で人々は大きな被害を受けた。静岡県においても南海トラフ地震等が予想されており、対策が急務である。 医療体制、及び避難場所の準備、食料支援の確保、PTSD のケア、ボランティアの組織、防災派遣医療チームの連携などのすべてを包括的に学修することで、専門職として、地域に住む個人として、学生として、自ら行動できるよう、知識及び防災活動に関する理解を深める。				
【授業概要】	静岡県内の防災と医療を推進する組織とその活動を理解するとともに、それを支える専門職とその役割、さらには取り組みを紹介し、自らの防災を考え、さらには地域の防災と医療になが貢献できるかを考える。				
【授業方法】	講義に加えて、実演を交えるなど、学生が参加できる方法を併用して行います。 講義室での対面講義を基本としますが、講師陣の勤務先の指針に応じて、双方向を担保したオンラインで講義を行う場合があります。				
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> 1 静岡の自然と人・・・静岡県立大学 元学長 2 地震予知とリスクとしての考え方・・・静岡県立大学 グローバル地域センター 特任准教授 3 巨大地震と防災力アップ・・・静岡県地震防災アドバイザー 4 災害に備える栄養と食事・・・静岡県立大学 食品栄養科学部 教授 5 トリアージ・・・静岡県立総合病院 看護師 6 災害時の病院等のロジスティクス・・・静岡県立こども病院 DMAT 隊員(業務調整員) 7 災害時の ICT 活用・・・静岡県立大学 経営情報学部 教授 8 災害医療の基本原則と多様性・・・浜松医科大学 教授(統括 DMAT) 9 静岡県の災害医療体制・・・静岡県職員 10 市民活動、応急処置・・・静岡県立大学医務室 看護師 11 広域搬送・・・コミュニティホスピタル甲賀病院 看護師(DMAT 隊員) 12 地域防災力・・・NPO 法人 Knot 理事長 13 害時のこころのケア・・・静岡大学 教育学部 教授 14 災害医療総論・・・浜松医科大学 教授(統括 DMAT) 15 まとめ <p>講師陣の都合により、順番が変更する場合があります。</p>				
【履修条件】					
【評価方法】	講義毎のミニレポート及び授業への参加度(56%)、筆記試験・レポート(44%)により、総合的に評価します。 出席・ミニレポート提出はユニバーサルパスポートを介して行います。 定期試験受験資格は出席が全授業回数の 2/3 以上とします。 遅刻 2 回で 1 回欠席扱いとします。				
【テキスト】	講師陣に応じて、講義資料の電子ファイルを配布します。				
【参考書】					
【備考】	実務に携わっている特別講師が、オムニバス形式により、その経験を活かして、具体的な活動や考え方を講義します。 特別講師の都合で順番を変更することがあります。				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	不可